ちし功により關上有知また河内國金田にて二万五千石を加へ賜れり飛騨と共に領して鉈尾山のゝにうつせり同十三を乙城年八月十二日長近卒去ありければ遺領飛騨國を可重に賜ひ上有知金田二万石をわけて實子五郎八長光に賜ひ則當城に在りしが同十六年長光又病死して家名斷絶す家老肥田主水池田圖書島四郎兵衛に先知千石宛たまひて御旗本に奉仕す其のち廢城となりしが堀土居等猶壊れす今に其形のこれり小倉山故れ高さ三町程根廻り二十四町ばかりの小山なり　巡按日記　に入ニ上有知一故金森法印城墟往見樓橹趾隍渠石壁猶存　石原氏官舎趾　れ慶長の末金森家沒收暫く御料となりしうち石原某此地に住て賦税等の所務を掌りし役所の跡なりその外　保寧寺　の廢跡　蓮華坊　の廢跡村内にありて今畠となる

曾代村　れ上有知の樋洞の西にありて東山口庄といふ　康正二年造内裏段錢並國役引付に入江殿御領美濃國曾代段錢　と見えたり　同　二百三十七石八升　太閤検の元高れ百七十石九斗八升也　名古屋まで十二里あり　縣神社　八幡神社　臨濟宗　光照寺　同宗　觀音寺　眞言宗　貴寶院　同宗　藥師寺　此村にあり　絲　れ當郡郡上郡の諸村にて引出す其數多し其うち此村の糸色白くつやありて唐糸のごとし故に名產となり他村より出す物も其品のよきを曾代糸といふ凡美濃糸はむかしより世に稱美し　九條年中行事に御服料國伊勢美濃云云進ル絹綾帛絲等ニ　と見え庭訓往來に美濃上品とある上品は糸の字の上下にわかれたるにて他國の產に勝れり

保木脇村　れ曾代の北にありて須原谷のうち也　同　三百石一升　太閤検の元高れ二百二十七石二升なり　名古屋まで十二里船路廿四里あり　枝郷横持　れ下河和の境にあり　高四十二石　の地なりまた　新部村　も保木脇の内なり　郡上川　れ村の西を流る此あたりに　熊瀬　大瀧　などいふ早瀬ありて岩石立並ひ流水漲り上下の船危く乗り安からず郡上往還の渡船れこゝより立花村須原村の方に到る故　立花渡　といふ馬船一艘歩行船一艘あり須原の白山社立花の金剛童子社へ参詣のものよりとりし船賃れその社〳〵へ寄附して修理の料にすべきよし上有知の城主佐藤才二郎が證文ありしよし地方古儀に見えたり　南宮溪　れ上保村の方より流れきてこゝにて郡上川に入る上保に南宮の神領ある故しか名つく　江取溪　れ樋洞より流れ來てこゝにて郡上川に入る　天神社　大社大明神社　白山權現社　白髭大明神社　伽藍權現社　神明社三區　稻荷社　八幡社　ともに村内にあり　萬休寺　れ天澤山と號し臨濟宗上有知村清泰寺の末寺なり　觀音寺　れ福壽山と號し曹洞宗下有知村龍泰寺の末寺なり

下加和村　れ保木脇の北にあり　同　百九十石七升七合　高帳にれ百四十石六斗六升八合とあり　名古屋まて十二里あり　石灰　れ近年焼きて四方にうる　神明社　八幡社　荒神社　ともに村内にあり　龍泉寺　れ江雲山と號し臨濟宗上有知村清泰寺の末寺なり

上河和村（カミカウワ） ハ下河和の北にありむかしハ上下二村にて只河和村といひしを近き世わかちて今の如くす 同 三百八十二石五斗七升五合 太閤撿の元高ハ二百六十石一斗四升なり 名古屋まて十四里あり 黒落峠 ハ郡上街道筋郡境の山なり道末ハ郡上郡勝原村に到る 茶 ハ多く作りて賦税にあて丶利とす 早松權現社 ハ祭神しれす祠官遠藤氏 縣宮大明神社 杉宮大明神社 小谷大明神社 大森大明神社 ともに村うちにあり 靈泉寺 ハ天正五年楽山和尚の開基にて神應山と號し曹洞宗下有知村龍泰寺末寺なり 昌林寺 ハ臨濟宗郡上郡木尾村洞泉寺の末寺なり 藥師堂 ハ村うちにあり

新撰美濃志十九の巻

尾張 文園 岡田 啓 編輯
美濃 簡齋 神谷道一 修正

武儀郡中

須原村（スハラ） ハ郡上川を隔て丶上河和の西にあり 尾張御領 三百六十石五斗六升 太閤撿の元高ハ百八十二石四斗なり 名古屋まて十三里船路廿五里あり 郡上川 ハ村の東にあり岸の上に白山權現の鳥居ありて其下に大岩たちたるが形ちあやしく見事也里人神岩と名づく 白山權現社 ハ山の麓川の湄りにありて須原權現とも稱す養老五年加賀國白山と同時に越の大德 泰朝法師の 創建 なりと社傳にいへり本宮三祠祭神加賀の白山と同しく中ハ 伊弉冊尊 左ハ 大已貴命 右ハ 菊理媛命 なり境內に 拜殿 神樂殿 御饌殿 精進殿 廻廊 寶藏 中門 樓門 等の殿宇多く山內殊に廣く東の方の山上に五祠ありて 猿田彦祠 今淸水祠 軻遇突智祠 木花咲耶媛祠 菊理媛祠 と稱し俗に 大南司 奥院といふ其所を鶴形山ともいひて檜樅杉等生ひ茂れりまた別の山に二祠ありて

祠 此神名心を得す濃陽志畧にかく志るせるに依りて志るす猶考へ訂すへし 大巳貴祠 といふ其山を大御所峯と稱す又一所の山に四十九所祠と稱するあり南の方立花村の境なる山に 幣解明神祠 あり 六角堂ありて地藏の像を安置せし故そこを 地藏峠 と呼へり皆權現の神地にて山林廣し

神領 二十七石二斗四升 むかしは七百貫の神領ありて元正天皇の綸旨また康正二年の綸旨などありしか燒失せしとそ 祠官は大江氏宮脇氏執行氏なり 天王社 は村の中にあり藥師堂ありて本地佛なりといふ 曹溪寺 は寶林山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり 慈光寺 は神德山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なり 洲原伊勢守光兼は土岐左京大夫頼益の弟にて武義郡洲原に住しよし 土岐系圖 に見えたり

立花村 は洲原の南西にありて須原谷のうちなり 同 二百十六石八斗[illegible]升五合 太閤撿の元高は百三十一石五斗なり 名古屋へ十三里あり 枝村 二所あり 海上 は郡上海道筋藥師坂の北にありて高七十二石九斗五升九合の地なり 佐賀坂 嵯峨坂とも書く は須原村の境地藏峠の麓なる里にて高五十石七斗一合の所なり 神皇正統記 に嵯峨天皇先世に美濃國神野といふ所の僧なりしを橘大后の先世にねんころに給仕しけるを感して相共に再誕ありしよし志るしたる橘皇后の先生に住しはこゝなるへし今に嵯峨坂とよへるも不思議なる事なり 文德實錄 には伊豫國橘里とあれとも定かならす當郡に神野村も橘村もありて嵯峨坂とさへいへる地の殘れるは

[illegible]たゝしき據とすへきにや猶神野村條と合せ考ふへし 牧川 は西北のかたより流る 立花、渡 は上有知の方にゆく船渡り也此船賃の錢をわけて白山社の修理料にすへしと文祿四年佐藤才二郎定めしより今に退轉せず 金剛童子社 は今白山社とも稱す養老五年の創建といひ傳へたり此中喬木茂り聳へ殊に古社のさまなり末社 西宮 東宮 といふあり又十王堂大日堂藥師堂境內にあり祠官加藤氏市原氏 八王子社 大明神社 神明社 ともに村內にあり 鹿苑寺 は驪山大悲院と號し臨濟宗京都妙心寺末寺なり夢窓國師の開基貞享四年再建上有知淸泰寺の隱居所とす 南林寺 は橘江山と號し臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺なり

長瀨村 は立花の西にありて牧溪八鄕のうちなり 同 二百三十五石四斗九升 太閤撿の元高は百五十五石七斗五升五合なり 名古屋まで十三里なり 牧川 は川上を板取川といふ牧溪の村々をへてこゝに到る 紙 は障子紙小菊紙等上品なり尺長紙は漉す 神明社 稻荷祠 白山社 天神社 八幡社 ともに村內にあり 誕生權現社 は南の方極樂寺村の境の誕生山にあり兀山にて高しいかなる故の山の名か今定かならす 金龍寺 は臨濟宗にて上有知村淸泰寺の末寺なり

安毛村 は長瀨の西にありて東山口庄なり 同 百二十三石九斗九升二合 太閤撿の元高は九十三石八斗七合なり 名古屋まで十二里あり 郡上川 は牧川とこゝにて落合ふ川原甚廣し 白髭

明神社　熊野權現社　ともに村うちにあり　永昌院　は太平山と號し曹洞宗下有知村龍泰寺の末寺なり

前野村　は安毛の西北にありて東山口庄なりもと脁野とかきしを中古今の文字とす　同　百七十七石五斗一升七合　太閤撿の元高は百八十五石八斗四升也　名古屋まで十二里あり　誕生嶽　は濃陽志畧　に跨ニ神洞極樂寺前野三村一以レ峯爲レ境此山高峻上有ニ松數株一遠望見レ之里民云是天尊所レ誕之地故名不レ知ニ何謂一なり　とゑるせり天尊とはいかなる人をいへるにか知りがたく濃陽徇行記　には長瀬村の條にしるすともにゆゑよし定かならず愚衆の俗説なるべし　大社大明神社　は　美濃國神名記　に武儀郡正六位上脁野明神とある古社なるへし上野國群馬郡脁橋を今前橋ともかく例に同じく村名を今は前野とかけり　鹿島明神社　はもと脁野明神の攝社なりしよしいひつたへたり　金剛童子社　村うちにあり　惠照院　は臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺也里老の傳へにもと此境內に一祠ありて脁野明神といひしが中古廢絕し古杜の礎などのこりたるは鳥居の跡なるよしいへり

横越村　は前野の西北にありて　御料　二百五十石　の地なり　神明神社　臨濟宗江龍寺　あり

笠神村　は横越の西にあり　御旗本領　七百二石　上神々社　雄射田神社　眞言

宗　福滿寺　曹洞宗　大禪寺　同　正林寺　あり

池尻村　は笠神の西北にあり安八郡の池尻をはじめ諸國にも多き村名にて池水の流れ出るあたりなる里をいふ例なり　作庭記後京極攝政之作也　に池尻の水門は未申方へ可レ出也　とありて庭うちの作り池さへも水落しの方をゑか呼べり川尻溝尻井尻江尻などいへるも皆水の落口なる里也町尻野尻なといふ地の町の末野の末をいへり　同　三百九十二石三斗四升　白山神社　天台宗　彌勒寺　臨濟宗　圓福寺　曹洞宗　西光寺　あり

廣見村　は池尻の西にありて東山口庄といふ　土岐系圖　に左近將監賴忠へ義詮將軍より賜ひし證狀をのせ　下土岐左近將監賴忠可レ早領ニ知美濃國武儀庄內一安弘見加藤鄉等地頭職事　右爲ニ勳功之賞一所ニ宛行一也者守ニ先例一可レ致ニ沙汰一之狀如件　觀應二年九月廿日　義詮判　と見えし安弘見鄉はこゝなるべし　尾張御領　九百四十四石五合　太閤撿元高は五百四十八石八斗四升也　名古屋まで十一里船路二十里あり　春日明神社　祠官堀氏　七夕宮　星宮とも稱す　白山社　稲荷社　神明社　熊野社　菅丞相社　天神社　八幡社　南宮社　立山社　若宮社　野々宮社　檜林あり　ともに村うちにあり　長春寺　は黄梅山と号し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　高德寺　は廣見山と號し當村長春寺の末寺臨濟宗なり　松見寺　は濃陽志畧　に臨濟宗號ニ集雲山一尼寺也屬ニ京師西山景愛寺一無着尼開基傳曰尼小名千代野秋田城

介兼陸奥守泰盛女嫁二金澤越後守顯時一誕二一女一此女後爲二足利讃岐守貞氏室一是將軍尊氏繼母也顯時以二建治二年一卒時尼年三十四不レ勝二哀戚一歸二依佛法一謁二佛光國師一問レ法一日潜脱來二于濃州一寓二于松見尼寺一匿レ名爲レ婢參學坐禪會八月十五日下レ淵汲レ水所レ戴之桶底脱水漏即大悟詠歌云　兎爾角爾巧志桶乃底脱天水不レ溜者月毛不レ宿　爾後自稱二月面佛一上二京師一謁二聖一國師一創二建景愛寺一永仁六年十一月二十八日端坐而逝享年五十六諡曰二如大禪師一此寺尼悟道之地故安二置肖像一長供二香花一中世天龍寺虎林叟作レ傳儒官人見野鶴山作レ記于レ今藏レ之　境内千代野池在二寺門外一岸下清泉涓涓成レ池是無着尼汲レ水之地也　とえるし　賤の小手卷　に千代野比丘尼の木像ありて紫衣帽子を着倚子にかかり錫杖を持手を組む云云　としるせり　古城趾　は松見寺山の上にあり　武藤淡路守　がすみしといひ傳へたれどいつの頃の人か今定かならす

跡部村　は川を隔てゝ廣見の西にあり　和名類聚抄　に武藝郡跡部と見えたり　岩村領　御旗本領とも　五百石　惠利寺　は上跡部にありて尾崎山と號し臨濟宗なり　佛生寺　は淨土宗　龍泉院　は臨濟宗なり本尊十一面觀音は行基菩薩の作脇侍は毘沙門不動當國三十三所の六番なり

高野村　は川を隔てゝ跡部の北にありて西山口庄武儀八村の一里なり　尾張御領　天和元年市瀬の代地として石河氏領す元祿十四年また御領となる　四百二十三石六斗三升二合　太閤檢の元高は三百十四石五斗六升也　名古屋まで十一里半船路廿里あり　紙　は尺長紙又森下紙傘紙なりをすく上品なり　大森大明神社　白山權現社　ともに村内にあり　三代實錄　に貞觀六年八月十五日己巳美濃國從五位下高野神授二從五位上一　とあるは此高野村にまします神なるべけれど傳へなければ知りがたし此大森白山二社のうち何れかその古社ならん後人猶考ふへし　永昌寺　は景久山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　淨水寺　は智淵山と號し臨濟宗當村永昌寺の持なり觀音堂本尊を當國三十三所の五番とす　十王堂　村うちにあり紀伊國那賀郡宮村に丹生高野兩大明神社あり同村領の溪流の中に立石ありて石神と稱す是犬黑比といふ人の靈石也といひ傳へしとぞ延暦の丹生系圖に三野國在牟毛津止云人乃兒犬黑比止云者彼御犬一伴率引弓矢手取持大御神坐阿帝川乃下長谷川原爾大甘乃神止云名得旦石神止成旦在レ今　とあるよし名所圖會にいへり　牟毛津君等丹生高野神を此地にも祀りし成べし

大矢田村　は廣見高野の北にありて東山口庄なり本鄕を　市場　といひ　枝村　を　半道　といふ　同　千二百二十二石一斗五升　太閤檢の元高八千八十八石二斗九升二合　枝村　ともの惣高なり名古屋まで十二里あり　喪山舊跡　は天王山の下に高き岡ありて上に　神明社　を祀れる所をいふ日本書紀神代卷の皇孫天津彦彦火瓊々杵尊を葦原中國之主と定め給ひし條に高皇產

靈尊召集八十諸神而問之曰吾欲令撥平葦原中國之邪鬼當遣誰者宜也惟爾諸神勿隱所知僉曰云云天國玉之子天稚彥是壯士也宜試之於是高皇産靈尊賜天稚彥天鹿兒弓及天羽羽矢以遣之此神亦不忠誠也來到即娶顯國玉之女子下照姫（亦名高姫亦名稚國玉）因留住之曰吾亦欲馭葦原中國遂不復命是時高皇産靈尊怪其久不來報乃遣無名雉伺之其雉飛降止於天稚彥門前所植（植此云多底婆）湯津杜木之杪（杜木此云可豆邏也）時天探女（天探女此云阿麻能左愚謎）見而謂天稚彥曰奇鳥來居杜杪天稚彥乃取高皇産靈尊所賜天鹿兒弓天羽羽矢射雉斃之其矢洞達雉胸而至高皇産靈尊之座前也時高皇産靈尊見其矢曰是矢則昔我賜天稚彥之矢也血染其矢蓋與國神相戰而然歟於是取矢還投下之其矢落下則中天稚彥之胸上于時天稚彥新嘗休臥之時也中矢立死此世人所謂反矢可畏之緣也天稚彥之妻下照姫哭泣悲哀聲達于天是時天國玉聞其哭聲則知夫天稚彥已死乃遣疾風擧尸致天便造喪屋而殯之云云先是天稚彥在於葦原中國也與味耜高彥根神友善（味耜此云婀膩須岐）故味耜高彥根神昇天弔喪時此神容貌正類天稚彥平生之儀故天稚彥親屬妻子皆謂吾君猶在則攀牽衣帶且喜且慟時味耜高彥根神忿然作色曰朋友之道理宜相弔故不憚汙穢遠自起哀何爲誤我於亡者則拔其帶劒大葉刈（刈此云我里亦名神戸劔）以斫仆喪屋此即落而爲山今在美濃國藍見川之上喪山是也世人惡以生誤死此其緣也　と見え　古事記に阿遲志貴高日子根神到而弔天若日子之喪云云切伏其喪屋云云此者在美濃國藍見河之河上喪山之者也　とのせる

古跡なり一説に不破郡埀井驛の東の方に小山のあるを喪山の跡といひ北ほとりなる藍川をも藍見川なりといへるはあやまりなるべしそこには慥なるつたへもよりところもなく只藍見川と今の藍川と其名の似たるのみなり此村の名を　大矢田　といふも彼反矢の來りしより起り村の南西に　渡來　といふ田面のあるを彼天羽羽矢の渡り來し地なりといひ傳へまた東南に隣れる笠神村に　雉射田　杜木洞　といふ地もありて古書にのせたるむねとよく符合すれば里民のいひ傳へを正しとすべし　市岡猛彥が著したる　美濃國喪山考　にも此大矢田村なるよしいへり　藤川記　に　はゝきゝの梢ありとも見えなくに誰母山と名つけそめけむ　とよまれしはも山の歌なりとそ　神道百首　に卜部兼邦　見のゝくに喪山はきかし神の世のもかりときけは涙たちつゝ　牛頭天王社　は村の北なる山のうへにあり養老二年泰澄法師神社を創建しひとつの伽藍をいとなみ天王山禪定寺と名つけしが弘治年中の火災に寺院燒亡す祭神は天稚彥命なるよし社傳にいへり社領も七十石ありしか天正年中沒して今はなし　末社　八幡祠　八王子祠　若宮祠　辨才天祠　天神祠　等あり　拜殿　二王門　鐘樓　ありて鐘の銘に明應三年十一月の文字見えたり又　阿彌陀堂　藥師堂　あり宮寺は　常泉坊　極樂坊　の二院祠官は辻氏なり（もと社僧寶積坊 仙藏坊 岩倉坊 東學坊 花藏坊 などいふありしか今は廢絶せり）例祭は九月八日車樂二輛あり山のうちにかへでの大樹多く殊に大門の坂の左右に並ひたてるが霜の後紅葉見事な

れハ遠近の遊人來りて見る又つくばねの木多くあり其實正月女兒のもてあそぶ羽子の形ちに似たり下野國日光山の名產塩漬にするつくばねと更にかハる事なし　神明社　愛宕權現社　靑柳大明神社　大明神社　ともに村のうちにあり　常泉坊　ハ天王の社僧にて眞言宗高野山增福院の末寺なり　極樂坊　ハ常泉坊に同し　圓福院　ハ眞言宗當所極樂坊の末寺なり　道樹寺　ハ大仙山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり支院二區ありて　智勝院　紫雲軒　といふ　十念寺　報恩寺　喜春庵　ともに臨濟宗にて當村道樹寺の末寺なり　太淸寺　ハ定惠山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　順心庵　も又同宗なり　古城趾　ハ天王山の頂にあり後藤太郎兵衛すみしよしいひ傳へ其子孫といふ家今も村うちにあり

半道村　ハ大矢田の枝鄕にて天王山の西の麓にあり　同　五十三石六斗六升　高帳に二十三石一升とあるハ元高なるべし　白山社　八王子社　劔明神社　ともに村內にあり　順心庵　ハ臨濟宗本鄕の道樹寺の末寺なり　天狗岩　ハ山のうちにあり泰澄大師の地藏を居置かれし跡といひ傳へて諸人此石を踏まず此あたりに泰澄の古跡多し

極樂寺村　ハ大矢田の東にあり　御料　御旗本領とも　五百八石　八幡神社　誕生神社　眞宗　願成寺　臨濟宗　大仙寺　同　龍昌寺　あり

神洞村　ハ大矢田の北の方にありて山を隔てたり牧溪八鄕のうち也　尾張御領　百十九

石四升二合　太閤撿の元高ハ五十四石九斗二升六合也　名古屋まて十三里あり枝鄕一所ありて間倉といふ　紙　ハ當村田圃少き故專ら紙を漉を業とす諸紙をすくうち障子紙小菊紙多し　白山權現　神明社　八王子社　ともに村民まつれり　江昌寺　ハ水月山と號し臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺なり　藥師堂　村うちにあり

片知村　ハ長瀨の西にありて牧溪のうちなり　同　二百三石七斗八升　太閤撿の元高ハ七十三石七斗二升五合也　名古屋まて十三里船路二十二里あり　枝村　を　穴洞　谷戶　口坂山　奥板山　といふ　福部嶽　瓢ヶ嶽ともかく　ハ板取の東にあり峯を界として東ハ郡上郡なり高く嶮岨にして南北へ長く　高賀嶽　につらなり人跡通路なしかたし里民此山に雨を祈りてしるしあり　紙　ハ諸品ありて殊に精好なり　絲　綿　茶　諸蕈　石茸　を出す　大明神社　藏王權現社　諏訪明神社　熊野權現社　白山社　ともに村民まつれり　神明社　ハ穴洞にあり　八幡社　ハ谷戶にあり　小森權現社　小守ともかく　ハ奥板山にあり大和芳野の水分神と同し神なるへし　寶珠院　ハ龍泉山と號し臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺なり　阿彌陀堂　村うちにあり　古城跡　ハ村の南の山のうへにあり堀土居等のかたちのこり又古瓦をほり出す事あり何なる人の住しとも今傳ハらす

蕨生村　ハ片知の西にありて牧溪のうちなり　山折紙にわらびふとかきたればむかしハしかい

ひしが今はわらび村とよべり　同　二百六十五石五斗四升七合　太閤撿の元高は百二十六石七斗二升なり　名古屋まで十三里あり　枝村を　淺野　伊勢洞　矢坪　といふ　八坪嶽は矢坪にあり　紙は書院紙小菊半紙等をすく　鉛は佐倉洞といふ所にむかし金をほりし跡といふ所ありて寛政二年越前國より金堀廿八人を呼寄せ鉛をほらせしかども費用のみ多くかゝりて利を得る事すくなかりければ其のちやめて採る事なし　濃陽志畧に神樂洞在二村西一頃年盤レ山採レ鉛近不二復取一とある所なり凡當郡のうちには此わたり又金山村の邊鉛銅の出る山多し公裁をもて堀採らせ兼て軍用の備へに設け置かせ給ふべき事也　白山權現社　神明社　三祠　山神社　村のうちにあり　辨才天社は牧川の岸の側の大石の上にあり其岩縱三間横七間はかりにして嶮峻なり澗流に一ッの橋をわたしたる其風景すぐれたり　久昌院　慶長院　二字ともに臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺なり

上野村は蕨生の西にありて牧溪のうち也　同　二百四十二石五升二合　太閤撿の元高は百十八石七斗八升二合也　名古屋まで十四里あり　紙は諸品ありといへども直紙小紙小菊紙をよしとす　八幡社　稻荷社　田中權現社　山王社　ともに村民まつれり　長藏寺は洞雲山と號し臨濟宗尾張の春日井郡水野の定光寺の末寺なり境內に　阿彌陀堂あり　塔頭一宇長泉菴といふ

乙狩村は上野の西にあり牧溪のうちなり　同　百八十石一升二合　太閤撿の元高は六十三石二斗八升九合也　名古屋まで十六里あり　枝村を　新河　面平　といふ　高臺山は乙狩片知上野に跨る　板山は大矢田の天王山と同しほどの高さの山なり半腹に瀧ありて側に瀧權現社あり　紙は牧谷八村ともすく此邊直紙その外諸紙をすく皆上品なり　絲は此あたりにてひき出す殊に品よく曾代糸といふ其價高し京都に送りて紗綾縮紗を織る料とす　無澁榧は　濃陽志畧に在二面平村民宅中一榧子甚小去レ殼則粗皮自脱風味最好他村雖レ接二種之一遂不レ生人以爲レ奇按多藝郡多良村產二無澁榧一恐是同種　と見えたり　蕈　諸茸を產す　あまごは年魚に似たる魚にて溪川に產すあゆより淡味なれども頭骨ともにやはらかにしてよき魚なり　神明社　荒神社　天王社　權現社　天神社　ともに村うちにあり　金谷院は臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺なり　普門寺は面平にありて面平山といひしが廢寺となりて年久しく今觀音堂のみ殘れり本尊は十一面の木像脇立は地藏不動なり當國三十三所の三番に配す堂は山のうへにありて牧川の長流にのぞむ風景殊にすぐれたり石磴危く上下やすからず

小倉村は乙狩の南にありて牧溪のうち也　同　百二石四斗九升七合　太閤撿の元高は四十一石八斗八升六合なり　名古屋まで十四里あり　紙は小半紙多く障子紙はすくなし　神明社は村うちにあり　大圓寺は臨濟宗にて惠日山と號す本尊十一面觀音は當國三十三所の四番なり中

古燒失して堂宇も本尊ももとの如くにあらざれば寺號を稱せす只觀音堂とのみいひて上有知村淸泰寺の持なり　竹鳳院　は臨濟宗上有知村淸泰寺の末寺なり

御手洗村（ミタラヒ）　は大矢田の北にありて牧溪八鄕のうち也　和名類聚抄　に武藝郡　御佩（ミタラシ）　と見えたる舊地にて御佩（ミタラシ）の弓御佩の劍など古語にいへる彼天稚彥の佩（ハカ）せる天鹿兒弓より起り大矢田に對（ムカ）へたる里の名なるべしこゝの六所明神の神輿に跡部鄕とかき又村の圖に跡部庄とゑるしたるは御佩の古名をゑらざるものの書置けるさかしら也　同　四百二十石八斗八升五合　太閤撿の元高は百八十五石二斗六合なり　名古屋まで十四里あり　紙　は直紙半紙紋紙をすく上品なり　六所大明神社　は　濃陽志畧　に村民傳云昔爲二牧谷八鄕惣社一而今惟御手洗一村奉祀祉資有二古獅子及弓箭等一獅子銘有二嘉元二年字一或云垣野明神獅子也案本國帳載眞二木倉明神眞木與レ牧字訓相同恐是此神也然不レ傳二事實一惜哉　とゑるせり　兒權現社　は村うちにあり　臨濟宗　曹源寺　藥師堂　も村うちにあり

八幡村（ハチマン）　は大矢田の西にありて山口八鄕のうちなり武儀八鄕ともいふ　御料　六百七十八石一斗九升　臨濟宗　福壽寺　あり

小知野村（コチノ）　は八幡の西にありて山口鄕なりあるひは西山口庄ともいふ　尾張御領　三百十三石八斗八升　太閤撿の元高は二百四十六石五斗二升也　名古屋まで十三里あり　枝村　淵ノ上　は八幡村のうちにありて　御領　は當村の外は　三石一斗九升五合　の地なり　岩井窟　は村西の山下にあり大岩自然の洞穴ありて深さ三間程めづらしき窟なり　一尾山　は山口八村の持合て柴艸をかる白山社當村につけり　紙　は雨衣（カッパ）紙を多くすく雜紙もあり　藏王權現社　諏訪社　熊野社　一尾白山社　大明神社　氏神社　八幡社　ともに村内にあり　瑞安社　は日輪山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　圓通寺　は德鄕山と號す　寶珠寺　は龍泉山と號す　泰養寺（濃陽志畧にては大陽寺とす）は香積山と號し三院ともに臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　觀音寺　は美濃國卅三所觀音順禮記に八番武儀郡小知野村神通山觀音寺本尊聖觀音春日の作村方より知事　と見えたり

平村（タヒラ）　は小知野の南にありて西山口庄なりあるひは山口八鄕ともいふ　同　三百五十九石六斗九升　太閤撿の元高は二百九十六石八斗七升七合なり　名古屋まで十二里あり　枝村　一所ありて　舞子村といふ　濃陽志畧　に里老傳云每歲二月栃野明神出遊獅子奏レ舞至レ此而混故名　と見えたり　紙　は同書に此村製二厚紙一俗謂二尺長一婦人用以結レ髮者也とゑるせり　寶見明神社　は山の嶺にありて下は武儀川にのぞみ上に大岩立たれば風景殊にめづらか也　多度社　は社地廣く森のうちに八王子祠若宮祠あり　天神社　大歲神社　山神社　石神社　ともに村內にあり　熊野權現社　は境地廣く林中に白山祠あり　龍福寺　は臨濟山と

號し臨濟宗悟溪派京都妙心寺の末寺なり　**永林寺**　ハ端雲山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり境内に地藏堂一宇あり　**清泉庵**　ハ同し宗當村龍福寺の末寺なり　**觀音堂**　ハ龍福寺の持にて美濃三十三所の七番なり田中道久といふ人西國三十三所の觀音を順禮毎に一躰つゝ安置せしといふ像もあり　**舞子觀音堂**　ハ舞子にあり　**地藏堂**　千躰地藏の像を安置す　その外　**藥師堂**　**阿彌陀堂**　あり

宇多院村（ウタイン）

ハ平村の西にありて武儀八郷のうち西山口庄なり里老のつたへにむかしはのごく村文字定かならず　といひしを　宇多天皇こゝに行幸し給ひしのち今の名に改めしよしいへり　康正二年造內裏段錢並國役引付に廣橋殿家美濃國宇多院段錢　と見えたり　同　六百二十五石七斗二升五合　太閤撿の元高ハ三百五十三石三斗なり　名古屋まて十二里あり　**枝村**　一所ありて　**一色**　といふ　**清瀨明神社**　ハ村内にありてかたハらの山に古木多し　美濃國神名記　に武儀郡正三位清瀨明神とあるしたる舊社なり　**盥社**　ハ　濃陽志畧　に在村東南一里民傳云昔宇多院行幸於此一盥洗之地也然宇多院到此不レ經見山中僻恐非駐蹕之地不レ知何由今廢祠只有林樾耳　とあるし　**塘尻**　に宇多院村の土俗云むかし宇多院遊幸し給ひし故村名をかく云盥社ロトヨム桶森なんどいふ地あり是清瀨明神の境内にして彼院盥洗し給ひし所也といひ傳ふ　と見えたり　宇多天皇の御代よりのちの事ハ國史の編撰なくしてたゞしきつたへなけれど御讓位御法

體あらせられしのちひとへに旅僧のさまに御供をも召されず五畿內の國〳〵其外遠きさかひまてもありかせ給ひ紀伊國熊野へも行幸し給ひしよし　大和物語　大鏡　扶桑畧記　等數十部の書に見えたればかゝる邊鄙也とて必みゆきし給はじとも定めがたしさればらく里人の傳說によりてとゞるすのみ　**山王權現社**　**春日明神社**　**白山權現社**　**齋宮神社**　西宮また宰宮ともかく　**神明社**　**山神社**　ともに村うちにあり　**陽德寺**　ハ瑞光山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり延德四年の開基にて悟溪和尙を開山とす齋藤利藤入道持是院妙椿の位牌あり

谷口村（タニグチ）

ハ宇多院の北にあり西山口庄といふ　同　八百八十七石二斗二升　太閤撿の元高ハ四百六十七石八斗二升なり　名古屋まて十二里あり　**枝村**　二所ありて　**寺尾**　山を隔てゝ村の北にあり　**森本**　川を隔てゝ村の西にあり　といふあるひハ　**寺尾は枝鄉**　といひて　高　七十七石八斗九升一合の地なり　**森本は出鄉**　といふよし　徇行記　にハいへり　**淸水山**　ハ分陽寺の境内に屬きたれハ分陽山ともいふ峯高く聳へ檜杉生茂れり　**寺尾山**　ハ　**砥石**　**紫硯石**　**箭竹**　等を出すされども多くハなし　賤の小手卷　に寺尾と云所寛永年中七月十五日晩七ツ頃に組頭淸兵衞と云者の家に村の者共集居遊ひけるに一の尾山後山の上より鹿三疋走出何れも見けるに其跡より鉄砲弓鎗引馬乘馬騎馬乘掛等大名の行列數を不知谷へ下り淸兵衞か前の尾崎を廻りて汾陽寺の山に入何れも恐れて戶を閉伺見ける日暮に通り止ぬ其後右の山へ登りて見

ろに人跡更になし怪き事限りなし其後洪水にて山崩れ清兵衛家は埋もれ其外三四軒潰れける兒し人今に残りて語り傳へ怪とする事を見えたり其烏帽子岩は寺尾山の上にあり高さ十丈餘その形烏帽を戴きたるがごとし 神明社 七 太明神社 二 白山社 二 天神社 劔太明神社 ともに村うちにあり 神明社 大明神社 白山社 ともに寺尾にあり 汾陽寺 は臨濟宗悟溪派にて乾徳山と號す嘉吉元年雲谷和尚の開基なり和尚うせての ち三十五年無住なりしを延徳二年齋藤持是院法印瑞泉寺の悟溪和尚を請して中興す其のち住僧あるひはありあるひはなき時もありて定まらざりしが元祿七年より一派の六ヶ寺かはるがはる輪番す 岩佐村龍吟寺 宇多院村陽德寺 本村龍福寺 大矢田村道樹寺 上有知村清泰寺 神淵村龍門寺 なり文安四年兵衛了聯清水山を寄進せし證狀あり 百堂根に寄に文安年中の建立のよしいへるは此寄進狀によりしものなるべし また享德二年 齋藤帶刀左衛門尉利永 同三年管領 細川勝元等の 證狀 多く齋藤利隆の制札もあり又利永利隆等の位牌あり中頃の住僧湖叔は安藤伊賀守守就の叔父なればにや守就又其父安藤因幡守道足等が位牌もあり 安藤系圖 に伊賀守守就法名道足信長公に仕へて軍功ありしが天正八年勘氣を蒙り領知を沒收せられ嫡子伊賀守尚就と共に此谷口村に隱れ居りしよし記るせり 此寺はじめの三面に山つらなり南の方は楼門を開く俗に獅子ヶ峯とも號す 塔頭 向榮院 菊泉軒 雲松軒 保福菴 といふ今廢寺となりたるもあり 法泉寺 は松雲山と號し 臨濟宗長良の崇福寺の末寺なり 一條禪閤兼良公のむすめ齋藤新四郎利國に嫁して晩年に剃髮し利貞尼と稱し一寺を創建ありて 松隱菴 といひしをのちに 法雲寺 と改め其のち 命の寺號をさせしより寺傳にいへり古き位牌ありて松隱庵開基惟清利貞大姉と見え其奥に天文五年丙申八月三日逝年八十二とゑるせり此寺に天正十年 稻葉彦六貞通の 證狀 あり 持正菴 は臨濟宗當村汾陽寺の末寺なり 十王堂 毘沙門堂 藥師堂 二 證賢堂 ともに村うちにあ

[illegible]

中洞村

中洞村 は谷口の西にありて西山口庄武儀八郷のうち也 同 三百九十四石七斗五升 太閤檢元高は二百九石六斗なり 名古屋まで十二里あり 民居四所 にわかれて 森下 杉下 西洞 中野 といふ 天王社 神明社 森下にあり 山王社 杉下にあり 白山社 西洞にあり 大歳大明神社 中野にあり 天神社 愛宕社 ともに村民祀れり 太原寺 は中野にあり 濃陽志畧 に臨濟宗號二則天山一屬二京師妙心寺一寺僧傳云唐則天后生二于太原一得二金剛智符一而安產焉弘法大師渡唐得二此符一後建二此寺一以爲レ名恐是謬傳 然寺名亦可レ稱也 と見えたり 梅谷寺 は杉下のうちにありて大士山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり 觀音堂 本尊十一面の像は聖德太子の作にて當國三十三所の九番也大門に老松二株ありて古刹のさま殊

勝いふはかりなし　地藏堂　十王堂　阿彌陀堂　ともに西洞にあり

岩佐村　ハ谷口の西にありて山口庄といふ　同　千五百二十五石四斗五升七合　太閤検の元高ハ五百三十石六斗三升なり　名古屋まで十二里あり　枝村　一所ありて　樫瀬　といふ　武儀川　ハ神村より出此あたり數里をへて中屋村にて郡上川に入る　紙　ハ諸品をすくうち扇面紙煙艸入紙を專ら製す　絲綿　此あたり諸村桑を植てたほく蠶を養ひ絲綿をとる　鰷　ハ武儀川に產す味ひすくれたり尾張君岐阜に遊獵し給ふへる時此魚を爰より献す是古式なり　白山權現社　ハ當村の氏神とす　攝社熊野祠　蛭子祠　天神祠　あり大圓寺掌る　下森明神社　ハ村うちにあり　琵琶明神社　ハ林中に白山祠あり　大圓寺　ハ明光山といひて眞言宗高野寺增福院の末寺なり境内に十王堂ありしか今ハ廢れたり　龍吟寺　ハ釜淵山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　吉祥寺　ハ大白山といひて同宗妙心寺末境内に阿彌陀堂あり　圓智寺　ハ補陀山と號し同宗妙心寺末なり　西正院　ハ修驗道にて庚申堂を守る　觀音堂　ハ慈覺大師の彫刻ありし木像を安置す

佐野村　ハ中洞の西にありて佐野七郷の本村なり　同　百十四石四斗一升五合　太閤検の元高ハ五十三石五斗一升五合なり　名古屋まで十三里あり　枝村　小加車洞　小柏洞ともかく　ハ　六石七斗二升五合　の地なり舟越村の枝郷加車洞に對へてしか名つく　紙　ハ丈長紙を上品とす

其外雜紙をすく　貴船大明神社　白山權現社　八王子社　ともに村内にあり　天神社　ハ今廢して古杉のみ殘れり　普門寺　ハ法林山と號し土岐氏大桑の城にありし時鬼門鎭護の道場七堂伽藍の巨刹なりしか天文年中大桑の城沒落の時廢頽して觀音堂一宇のみのこれり十一面觀音の古像ハ行基菩薩の作なるを朽損したれば椎樹のもとに捨置つるを中むかしの頭采飾しつくろひ山の上に今の堂をたてゝ安置し地藏毘沙門を脇立とす當國三十三觀音の十番なりその像を捨置しといふ椎木ハ今猶里民の庭にありて四五圍ばかりの大樹なり　高瀬六郎左衛門宅跡　ハ村の南にあり土岐氏大桑にありし時其麾下の士多く當村に住しといひ傳へ其屋敷跡今皆田畑となる高瀬氏の子孫村民となりて今ハ　早川氏　と稱す

船越村　ハ佐野の東北にありて佐野七郷のうち也　同　百十二石七斗　太閤検の元高ハ三十四石七斗四升六合なり　名古屋まで十四里あり　枝村柏洞　加車洞ともかく　ハ本郷の北の方出戸村の間にあり　四峯　ハ中洞のさかひにあり　當村中洞佐野洞戸の四村に跨る故にしか名づく　紙　ハ尺長紙また雜紙をすく　鷹　ハ　源敬公　の御時村民に命し給ひ網にてとりて毎秋名古屋にたてまつらしめ給へり鷹打を業とするもの今にあり　賤小手巻　に舟越村に鷹打仁兵衛といふ者あり數代住て先年より鷹を捕献せし御鷹山といふ所あり口笛にて山鳩の聲をなして鷹を呼ふ　と見えたり　白山權現社　ハ村民まつる社中に山王權現祠あり　長安寺　ハ高松寺と號し臨濟宗

宇多院村陽徳寺の末寺なり　地藏堂　藥師堂　村内にあり

徳永村

は佐野の西にありて佐野の七郷といふ　同　九十二石一斗四升五合　大閤撿の元高は三十八石三斗五升四合なり　名古屋まで十四里あり　武儀川　は村の南にあり日夜溪日永の山中より流れ來てこゝにて此川に落合ふ　白山社　村うちにあり　雙陸大明神社　はむかし此神と日永村の神と蛭を賭として雙六をうち此神勝給ひし故今に至るまで徳永の田の中に蛭なく日永の田の中には蛭多くして耕耨の妨をなすよし里民いひつたえたり　興禪寺　は異苗山といひ臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　藥師堂　は村うちにあり　古城址　は村の北の方の山上にありいかなる人のすみしともいひ傳ふる事なし石津郡高須の城主徳永氏は當國の士にて其先祖の住地定かならずもしこゝに住しゆゑ徳永を名乗しにはあらぬにや猶考ふべし

日永村

は徳永の北にありて佐野七郷のうちなり　同　百四十九石七斗二升七合　太閤撿の元高は五十八石一斗四升五合なり　名古屋まで十四里あり　枝村　四所あり　寺脇　は三十八石七斗二升九合の地　日摩洞　は二十六石七斗三升九合の地なり　日永村とも日屋村ともいひしを凶名なるゆゑ近世今の村名に改めしが此枝村と谷川の名は古きまゝかく呼べり今は日屋を省きて只洞と計りも呼べり　下島　は二十五石五斗七升六合四勺　上島　は十石八斗一升七合六勺　の地なり　日夜溪　は此村より出て徳永村に至る　茶磨山　は村の北にあり形ち茶臼に似たり　兒嶽　も村の北にあり蜿蜒にして巨石古木多く山の半腹に一ツの白岩ありて朝日の昇る時見れは兒の形に似たり故に兒岩と名つけ山の名にも及べり岩崖に多く石耳を生ず村民とりて四方にうる　紙　は丈長紙障子紙天狗丈板張紙をすく　茶　絲綿　土産とす　雙陸大明神社　は里老徳永村の神と同しさまにいひ傳へ又もとの神號は　惣祿大明神　なりしを訛りて双六とし蛭の賭を附會す據り所なきよしをもいへり　神明社　天王社　ともに村内にあり　東林寺　は應聲山と號し淨土宗谷口村善導寺の末寺也　藥師堂　村内にあり

椿村

は山を隔てゝ日永の西北の方にあり　御料　八石四斗八升　の地なり　普林寺　は眞宗なり

田栗村

は椿村の西にあり　同　二百二十五石四斗二升

笹賀村

は田栗の南にあり　同　百三十二石九斗八升　永昌寺　臨濟宗にて村内にあり

出戸村

は日永の東にありて佐野七郷のうちなり　尾張御領　百八十五石九斗　元高郷帳には五十四石二斗六升六合とし　濃陽志略には五十九石三斗八升五合とす　名古屋まで十四里あり　出郷　見鹿村　は二十四石二斗　の地なり　紙　は丈長紙障子紙板張紙多し　神明社　二區　八王子社

天王社　ともに村うち見鹿にあり　正福寺　ハ浄土眞宗西派本巣郡見延村正善寺の末寺なり　薬師堂　村うちにあり

相戸(アヒド)村　ハ出戸の北にありて佐野七郷のうちなり　同　百七石七斗九升　元高　濃陽志畧にハ三十三石九斗とし　郷帳にハ四十二石一斗一升七合とす　名古屋まて十四里あり　金平山　ハ村の北にあり此山銀を産す　天正六年ほりうがちて鑛を採り三年が程稼かせしが多く利を得さりし故か又ハ乱世にくるしみける故にや其後罷けるよし里人いひ傳へたり　紙　ハ丈長紙其外雜紙をすく上品なり　絲綿　茶　又上品なり　白山權現社　神明社　ともに村内にあり　岩松寺　ハ臨境山と號し臨濟宗併自良谷富山村東光寺の末寺なり　教龍寺　ハ聖照山と號し浄土眞宗西派今泉村願正寺の末寺なり

新撰美濃志三十の巻

尾張文園岡田啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

武儀郡下

柹野(カキノ)村　ハ相戸の東にありて佐野七郷のうちなり　尾張御領　百七拾三石貳斗壹合　元高　郷帳にハ百七十三石貳斗壹合とし　濃陽志畧にハ百三十九石七斗一升六合とす　名古屋まて十四里あり　鍬平山　ハ村の西にあり　鹵垣岩　ハ此山の下にありて其形ちなをくたち墻の如くなる故かく名つけり　釜瀑泉　ハ落合洞にあり　濃陽志畧に瀑布三級を成し巨岩嵌空にして其形ち釜甑の如く峯巒四圍林樾掩映もつとも奇絶たり　石耳　洞戸山のうち何れの方にも生すたゞ此村の民とりて四方にうる　紙　ハ諸品をすく　茶　絲　綿　又上品なり　内宮社　ハ　濃陽志畧　に祀二天照皇太神一俗呼爲二内宮一此祠傍有二行宮一毎年三月十五日出二内外二宮神輿於此一奏二神樂一又有二車樂一輛一里民傳云二月朔日明神遊二幸佐野七村一輟業餔飲垣野以二月三日餔飲至二字多院村一而罷名二其地一曰二舞子一按本國帳載正三位垣野大明神是也俗謂二之御狛舞一是明神祀前羅鎮獅子爲レ舞毎歳此

時風惡天寒ニとゑるし祠官高井氏とあり　外宮社ニ同書に祀ニ豐受大明神一俗呼爲ニ外宮ニ事見ニ前ニ條ニ祠官藤田氏とあり　美濃神名記に武儀郡正三位垣野明神と記し　垣尻に云栃野村に內宮外宮とて二社あり傳へ曰每歲二月朔日明神馬に乘して遊ひたまふと故に數村一日つゝ飲食して遊ふを明神の駒回りと呼ふ栃野村より始りて舞後村（マクゴ）（まい子ともいふ）にて終る又三月十五日兩社內外の神輿出し合て祭る田舍の俗にはいとめつらしき事なりとゑるし　服の小手卷にも武儀郡栃野村內宮外宮の社あり內宮祠官藤田嘉大夫外宮祠官藤田五郎大夫二月朔日より三日まで村民遊ひてたこまゝれしと云事をなす栃野より舞始め舞子村にて舞仕廻ふとし三月五日祭禮車樂ありとゑるせり　猿子明神社　門宮社　刀屋明神社　ハ枝村落合にあり　神明社　小洞にあり　神明社　東洞にあり　ともに村民祀れり　福岩寺　ハ碧玉山と號し臨濟宗宇多院村陽德寺の末寺なり　大覺寺　ハ東光山と號しともに臨濟宗宇多院村陽德寺の末寺なり　安樂寺　ハ東林山と號し淨土宗飛保村慢陀羅寺の末寺　淨泉寺　ハ淨土眞宗西派京都西本願寺の直末なり　觀音堂　俗に西元寺と稱す村內にあり

片村（カタ）　ハ栃野の東にありて洞戸十六村のうちなり　尾張御領　三拾石壹斗九升三合　太閤撿の元高ハ三十石一斗九升三合なり　名古屋まで十四里あり　板取川　は板取谷より出て立花村に至り郡上川と合ふ　茶　絲　蕈　土產とす　天王社　朝日權現社　村內にありてともに村民

祀れり

通元寺村（ツウゲンジ）　ハ片村より栗原を隔てゝ南東にあり洞戸十六村のうちなり　尾張御領　四十八石九斗六升五合　太閤撿の元高ハ四十八石九斗六升五合なり　名古屋まで十四里あり　天王社　神明二社　眞宗　善證寺　村內にあり

菅谷村　ハ通元寺より鎌倉市場中瀨を隔て南にあり洞戸十六村のうちなり　同　百四十四石六斗四升三合　太閤撿の元高ハ百四十四石六斗四升三合なり　名古屋まで十四里あり　和名類聚抄に武藝郡菅田齋藤石見守の子六郎利兼洞戸鄕に居す石見守ハ土岐政房の長臣也と見えたり　天作大明神社　天王社二社　熊野權現社　大洞權現社　荒矢神明社　天神社　大明神社ともに村內にあり　保福寺　ハ長泉山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　阿彌陀堂　十王堂　觀音堂　村內にあり

市場村（イチバ）　ハ菅谷の北にありて洞戸の本鄕なり　同　百六石壹斗三升九合　太閤撿の元高ハ百六石一斗三升九合なり　天神社　白山社　神明社三社　松島明神社　稻荷明神を配享す　ともに村內にあり　興德寺　ハ大仙山と號し境內に釋迦堂一宇あり　梅泉寺　ハ瑞峯山と號しともに臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　藥師堂　村內にあり　山田四郎兵衞宅址　村內にあり是岡田將監の吏にて慶長中御料に隷する時此に居れり　河井助右衞門　武藤文右衞門　武藤

久右衛門　神山伊兵衛　租税の佐監をなす今里民となり子孫これあり

小坂村　ハ市場の南東にありて洞戸十六村のうちなり　同　二十三石六斗四升貳合　太閤撿の元高ハ二十三石六斗四升二合なり　名古屋迄十四里あり　天神社　白山社　村内にあり　藥師堂　同し村内にあり

大野村　ハ市場の東にありて川を隔てたり洞戸十六村のうちなり　同　四十五石三升五合　太閤撿の元高ハ四十五石三升五合なり　名古屋迄十四里あり　照日權現社　笠神社　ともに村内にあり　神明社　明神社　ハ今廢せり　見性寺　ハ少林山と號し臨濟宗上有知淸泰寺の末寺なり　地藏堂　村内にあり

黑谷村　ハ大野の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　四十四石壹斗貳升六合　太閤撿の元高ハ四十四石一斗二升六合なり　名古屋迄十四里あり　鎧岩　ハ渦中にあり大サ四五丈許石縫鱗差如鎧故に名付といふ　神明社　石動明神社　ともに村内にあり　立音寺　ハ石迹山と號し淨土宗西莊立正寺の末寺なり

粟原村　ハ黑谷の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　五十二石貳斗四合　太閤撿の元高ハ五十二石二斗四合なり　名古屋まて十四里あり　大明神社　神明社　權現社　明神社　白山社　山神社　ともに村内にあり　三代實錄　貞觀六年八月十五日己巳美濃國從五位下壹粟

原神授從五位上とあるハ此村なりや又ハ不破郡の粟原か考ふへし　松雲院　ハ龍吟山と號し臨濟宗大矢田道樹寺の末寺なり

飛瀬村　ハ粟原の北西にあり洞戸十六村のうちなり　同　四十八石貳斗壹升五合　太閤撿の元高ハ四十八石二斗一升五合なり　名古屋迄十四里あり　思神社　山神社　八王子社　笠神社　山王社　ともに村内にあり　光勝寺　ハ神守山と號し臨濟宗大矢田道樹寺の末寺なり

尾倉村　ハ飛瀬の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　七拾六石八斗五升三合　太閤撿の元高ハ三十二石二斗九升五合なり　名古屋まて十四里あり　白山社　熊野權現社　月日權現社　大明神社　神明社　ともに村内にありて村民奉祀せり

阿部村　ハ尾倉の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　三十七石四斗四升一合　太閤撿の元高ハ十七石九斗五升一合なり　名古屋まて十四里あり　超願寺　ハ淨土眞宗西派郡上郡那比村福常寺の末寺なり

高加村　ハ川を隔てゝ阿部の東にあり洞戸十六村の内なり　同　四拾四石九斗三升　太閤撿の元高ハ二十二石六斗五升五合なり　名古屋まて十四里あり　高賀嶽　ハ板取白谷嶽と相對し遠くこれを望めは形ち箭筈の如く見ゆ故に近國皆箭筈山といふ此峯郡上郡の境をなし最も秀抜せり　銚子岩　ハ濃陽志畧に在二高賀溪中一巨岩重疊迅瀬奔騰如二銚子注一酒故名此溪多二鰻鱺一村

民不二敢唉一夏月群游沂二岩口一以爲二壯觀一とえるせり　高賀神社は　同書　に在二高賀村一以二虚空藏一爲二神躰一里民傳云養老二年開基昔者妖鬼居二此山一高光公戮レ之因以建レ寺名曰二蓮花部寺一爲二大伽藍一今廢其說忘誕不レ足レ取也妖鬼化爲二牛形一又作二雉聲一至レ今此山不レ畜レ牛且無レ雉云美濃國三十三所觀音巡禮貳番十一面觀音洞戸に高賀村蓮花寺天曆年中藤原高光建立と見えたり　濃陽志畧　に攝社若宮八幡案是本社虚空藏其本地佛後世訛爲二攝社一耳　大行司詞、月日宮祠　牛頭天王祠　金剛童子祠　大日堂此堂內古佛像甚多朽敗僅存即知昔日爲二大刹一也　岩窟不動在二山半腹一岩窟如レ門其中安二置不動銅像一詣者擁レ之出窟禮拜畢又擁之置二窟中一　峯權現社在二山絕頂一謂二之兒宮一　社寶　大般若經六百卷有二文治二年及貞治年中所寫本一也　鰐口銘有正和二年字○祠官武藤氏とえるせり　軍器考後編玉箒の附錄松岡辻鹿輔撰之に美濃國武儀郡洞戸村高賀山虚空藏菩薩神社寶物伏竹弓一張　とえるせり

高見村　は阿部の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　四十七石八斗二升一合　太閤檢の元高は二十四石九升六合なり　名古屋まで十四里あり　大明神社　天神社　山神社　神明社　多度權現社　ともに村內にあり村民祀れり　常福寺　は清水山と號し淨土宗西莊立正寺の末寺なり

小瀨見村　は高見の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　十二石一升八合　太閤檢の元高は八石一斗四升九合なり　名古屋迄十四里あり　白山權現社　山神社　ともに村內にあり

老洞村　は小瀨見の北にあり洞戸十六村のうちなり　同　二十八石五升六合　太閤檢の元高は十六石八斗六升一合なり　名古屋まで十四里あり　權現社　大明神社　神明社　村內にあり

松谷村　は老洞の北にありて洞戸十六村のうちなり　同　二十八石五斗二升七合　太閤檢の元高は二十一石六升六合なり　名古屋まで十四里あり　白山社　村內にあり　稱名寺　は北正山と號し淨土宗西莊立正寺の末寺なり　藥師堂　同し村內にあり

白谷村　は川を隔てゝ小瀨見の東にあり板取十三村の本郷なり　同　八十石三斗四合一勺六抄　太閤檢の元高は三十九石一斗九合なり　名古屋まで十八里あり　箭括嶽　は　濃陽志畧　に在二白谷一孤峯秀拔與二洞戸高賀嶽一相對遠方見レ之形如二箭括一故名　夷嶽　は在二白谷一近時鑿二採金鑛一今不二復取一此峯有二城墟一里民金王丸所レ居然金王居此不經見風土之說也　孫瀨嶺　在二白谷一近時鑿二鉛鑛一不レ利二于民一故罷　高山石　在二白谷一山中竪一丈四尺橫一丈三尺許形圓如レ榻里老云高山上人者養老年中人也坐二禪於此一故以爲レ名　とあり　茶　諸蕈　石耳　鹽硝　絲綿　山椒魚　鱒　を產とす　神明社　鳴神社　山神社　大明神社　月日神社　神明社　金剛童子社　神明社　八幡社　ともに村內にあり村民祠れり　淨念寺　は佛音山と號し淨土宗西山派西莊立政寺の末寺なり　觀音堂　はいにしへは大悲

山田教寺といひしを今は廢して僅に觀音堂一宇を存せり本尊十一面觀音濃州三十三所觀音の第一たり 十王堂 同し村内にあり

加部村 は白谷の北にありて板取十三村のうちなり 同 十一石六斗五升七合二勺 太閤撿の元高は十五石一斗三升七合なり 名古屋まで十八里あり 白山社 山神社 ともに村内にありて村民祠れり 藥師堂 村内にあり

門出村 は加部の北にありて板取十三村のうちなり 同 二十三石三斗八升一合六勺四抄 太閤撿の元高は四十三石一斗八升三合なり 名古屋まで十八里あり 神明社 權現社 山神社 八幡社 大神社 山神社 神明社 ともに村内にあり 寶樹寺 は淨土宗西山派洞戸郷松谷稱名寺の末寺なり

岩本村 は門出の北にありて板取十三村のうちなり 同 四十六石二斗六升三合九勺七抄 太閤撿の元高は二十五石七升三合なり 名古屋まで十八里あり 神明三社 明神社 山神社 劔明神社 ともに村内にありて村民奉祠す 東政寺 は淨土宗西山派洞戸郷松谷稱名寺の末寺なり

九藏村 は岩本の北にありて板取十三村のうちなり 同 二十一石五斗三升八合六勺 太閤撿の元高は七石三斗八升三合なり 名古屋まで十八里あり 白山社 山神社 八王子社 神明社 ともに村内にあり村民奉祠す

松場村 は九藏の北にありて板取十三村のうちなり 同十三石三斗一升九合三勺二抄 太閤撿の元高は四石五斗九升七合なり 名古屋まで十八里あり

中切村 は松場の北にありて板取十三村のうちなり 同 三十九石五斗八升九合九勺九抄 太閤撿の元高は十五石八斗四升三合なり 名古屋まで十八里あり 白山二社 天王社 神明社 ともに村内にありて村民祀れり 洞林寺 は臨濟宗大矢田道樹寺の末寺なり

野口村 は中切の北にありて板取十三村のうちなり 同 十七石四升一勺 太閤撿の元高は九石三斗四合なり 名古屋まで十八里あり 白山社 神明社 村内にあり

田口村 は川を隔て野口の西北にあり板取十三村のうちなり 同 三十一石六斗九升一合六勺 太閤撿の元高は十二石九斗二升五合なり 名古屋まで十八里あり 明神社 神明社 氏神社 ともに村内にあり村民奉祠す 長水寺 は臨濟宗上有知清泰寺の末寺なり 長屋信濃守城 は濃陽志略に在二田口一傍云文祿年中人避レ亂入二此洞一築レ城居リ爲子孫至レ今有レ之其住二白谷一者嫡家代々爲二郷豪一警二衛國境一とまるせり

保木口村 は野口の北にありて板取十三村のうちなり 同 十五石六升二合五勺四抄 太閤撿の元高は五石五斗六升三合なり 名古屋まで十八里あり 白山社 村内にありて村民祠れり 源了寺

ハ浄土眞宗西派京都西本願寺の直末なり

杉原村 ハ保木口の北にありて板取十三村のうちなり 同 三十五石五升五合八勺四抄 太閤撿の元高ハ十石六斗一升六合なり 名古屋まて十八里あり 氏神社 山神社 權現社 白山社 海水山權現社 ともに村内にありて村民祠れり

島口村 ハ川を隔てゝ杉原の西北にあり板取十三村のうちなり 同 十一石五斗一升五合一勺四抄 太閤撿の元高ハ三石三升四合なり 名古屋まて十八里あり 花房嶽 ハ濃越の境にありて最も高峻なり此を過れハ越前の荷暮村に至る 龍泉寺 ハ浄土眞宗西派京都西本願寺の直末なり

門原村(カトハラ) ハ島口の東北にありて板取十三村のうちなり 同 二十石五斗七升三合九勺 太閤撿の元高ハ七石七斗九升三合なり 名古屋まて十八里ありて 神明社 權現社 ともに村内にありて村民祠れり

新撰美濃志廿一の巻

尾張文園岡田啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

郡上郡上

沓部村 ハ當郡のうち東南の隅にあり 御旗本遠藤新六領 五百三拾石 の地なり 康正二年遊内裏段錢國役引付に一貫三百文進士石見守殿濃州沓部相原段錢 とあり相原も近村なり 武儀郡金山町へ一里八丁廿九間あり 船野山 城趾ハ同村船野山にありて天文の頃遠藤但馬守慶隆の従士田口某鑑澤某等か居城のあとなり 沓部社 及 昌滿寺 村うちにあり

戸川村 ハ沓部の西北にあり 御旗本遠藤源五郎領 八十四石二斗六升三合三勺 南宮社 祭神金山彦命村うちにあり

祖師野村 ハ戸川の北にあり 同 二百三十二石二斗八升七合 八幡社 村の中央にあり此地金山町及馬瀬村に通する岐路なり

廣瀬村は沓部の北東にあり 同遠藤新六領 三十八石六斗一升一合六勺 大汝神社祭神大汝命村うちにあり

中原村は廣瀬の北にあり 同 七十三石二斗九升七合二勺 源平盛衰記に治承五年二月一日云云新宮十郎藏人行家は美濃國板倉と云所に楯籠りたりけるを平家押寄て後の山より火をかけて責けれは行家こゝを落されて同國中原と云所に陣を取る云云とあるは此中原村にや猶考ふへし 白山社祭神菊里姫命及眞宗本派 東林寺 村うちにあり

相原村は中原の北にあり 同 四十石八斗二升八合二勺 白山社 祭神菊理姫命村うちにあり

八坂村は相原の北にあり 同 七十五石二升二合一勺 神明社 祭神詳ならす 蓋し天照皇大神なるか

乙ッ原村は川を隔てゝ八坂の西にあり 同遠藤源五郎領 九十石壹斗六升七合一勺 川尻氏の宅趾は永祿の頃川尻五郎左衛門近隣五ヶ村を領知してこゝに住めり 白山社 祭神菊理姫命村うちにあり

方須村は山を隔てゝ乙ッ原の西にあり 同遠藤新六領 百二十石五斗四升五合一勺 白山社 祭神菊理姫命村うちにあり

岩屋村は八坂の北にあり 同 二十五石四升 岩屋社 祭神詳ならす村うちにあり

卯野原村は川を隔てゝ岩屋の北西にあり 同 百四十二石七斗三升四合七勺 神明社 祭神詳ならす村内にあり

新田村は卯野原村枝郷なり 同 九十七石九斗七升七合一勺 近村人呼て卯の原新田と云此地武儀郡金山と飛州に通する馬瀬街道の岐路にあり村内馬瀬川貫通し金山にて飛騨川に入る又本郡中鱒の產するは此水脉に限れり

弓懸村は卯野原の北にあり 同 八十貳石三斗貳升三合九勺 白山社 祭神菊理姫命村内にあり

小川村は弓懸の北にあり 郡上領 貳百三十五石壹斗八合 白山社 祭神伊弉冊命及眞宗本派 淨福寺 同派 沸號寺 村内にあり 牧馬の產地なり

畑佐村は小川の西北にあり 同 百八十六石八斗六合 白山社 祭神伊弉冊命及眞宗本派 西光寺 村内にあり 鑛山亦數ヶ所ありて銀銅を產出す

漆原村は畑佐の北にあり 同 五十七石八斗二升五合

鎌邊村は漆原の東北にあり 同 九十三石五斗九升三合 白山社 祭伊弉冊命眞宗本派 常妙寺 村内にあり

坂本村 は鎌邊の北にあり 同 七拾六石九斗五升二合 白山社 祭神伊弉冊命村
内にあり此地濃州より飛州に通する街路にして飛州大野郡大原村に境せり會て郡上藩の番
所字坂下にあり 水曾禮ケ池 は同村楢谷山の西南に存す產物は 榛（ハリ） の器物 山葵
等にて其他 銀 銅 鐵 の鑛山蔟堀に至らさるものあり

奥長尾村 古名長尾は川を隔て丶滌原の西北にあり 同 七十石四升五合 白山社 祭神伊
弉冊命及眞宗本派 蓮淨寺 村内にあり

口長尾村 古名長尾は奥長尾の南にあり 同 三十五石五斗二升三合 神明社 祭神天照
皇大神及眞宗大谷派 淨樂寺 村内にあり

二間手村（フタマデ） は口長尾の西南にあり 同 九十四石六斗三升 白山社 祭神伊弉冊命及眞
宗本派 圓光寺 村内にあり

東氣良村 は二間手村の北西にあり 同 二百九石四斗一升六合 白山社 祭神伊弉
冊冊命及眞宗本派 光明寺 村内にあり

西氣良村 は川を隔て丶東氣良の西にあり 同 貳百八十七石壹升六合 西北に 烏帽
子獄 を控へ產馬の業に適し二三者專事するものもあり其他六方石等の產物あり 十四卷系
圖 土岐判官代國衡五代の孫左近將監賴數號氣良 また 土岐系圖 に國衡の四代の孫美濃守
賴蔭號氣良 と見えたるともにこの人なるへし

寒水村（カナミツ） は西氣良の南にあり 同 二百三十二石六斗八升五合 村内牧馬に適し其他
產物には炭及栗等あり

大久須見村 は寒水の南にあり 同 百八十八石五斗一升七合

小久須見村 は川を隔て丶大久須見の東南にあり 同 百十七石八斗九升二合 白山
社 祭神伊弉冊命及眞宗大谷派 養泉寺 村内にあり產物には方解石等あり

鹿倉村（カ） 山を隔て丶畑佐の東南にあり 御旗本氏井上領 九十三石貳斗九升三合 白
山社 祭神菊理姫命村内にあり

宮代村 は鹿倉の西南にあり 同遠藤新六領 百九十二石九斗七升九合 白山社 祭神
菊理姫命村内にあり

野尻村 は宮代の南にあり 同井上氏 二百六十七石六斗四升四合 八幡社 及眞宗
大谷派 淨派寺 村内にあり此地八幡町と野々倉越上有知町に出るの岐路にあり

宇島 は宮地の北にあり 同遠藤新六領 十五石九斗九升

宮地村 は野尻の南にあり 同 二百九石六斗九升三合 境山城趾 は宮地村と野
尻村との堺山の上にありて天正の頃稻葉土佐守の居城あとなり土佐守は稻葉右京の一族なり

同村　戸隱神社　に扉岩と稱するものあり並岩三間四方扉岩縱二間横一間半里傳信濃國戸隱山に所在の片扉なりと云　上澤社　祭神詳ならす同社ハ宮地上澤兩村にて之を奉祀せり

同社の位置　兩村の境界　相接するに因由したるものや

上澤村　古名澤村ハ宮地の南にあり　同井上氏　二百二十四石四斗三升八合　日吉社　祭神大山咋命及眞宗大谷派　念興寺　村内にあり

下澤村　古名澤村ハ上澤の東にあり　同遠藤新六　百五十一石六斗四升六勺

下（シモ）洞村　ハ下澤の東にあり　同遠藤源五郎　二百三十五石　白山神社　祭神菊理姫命及眞宗大谷派　覺證寺　村内にあり

土（ド）京（キヤウ）村　ハ鹿倉の東にあり　同井上氏　百七十一石一斗五升八合　白山熊野合殿社　祭神菊理姫命伊弉冊命村内にあり

安（ア）郷（ゴ）野（ノ）新田　ハ川を隔てゝ下洞の南にあり　同　百十石一斗七合　稻荷社　村内にあり

法師丸村　ハ安郷野新田の西にあり　同遠藤新六遠藤源五郎領　ともに　二百十九石四升二勺　白山社　祭神菊理姫命村内にあり

横井村　ハ宇島の西にあり　同井上氏　三十八石五升三合　齊藤新五郎宅墟　村内にあり齊藤の一族なり　熊野社　祭神伊弉冊命下野村と兩村にて奉祀せり

下（シタ）野（ノ）村　ハ横井の西にあり　同　百二十三石九斗三合　白山社　祭神菊理姫命村内にあり

東野村　ハ川を隔てゝ横井の北にあり　同　三百拾石八斗三升二合

入津村　ハ東野の北にあり　同　百八石一斗一升七合　白山社　祭神菊理姫命村内にあり

中（ナカ）保（ノホ）村　古名安（ア）賀村　和名類聚抄の郡上郡安郡とあるハこゝなるへし入津の西北にあり　同　三百四十五石一斗一升　荒島社　祭神詳ならす及眞宗大谷派　安神寺　村内にあり

貢（グ）間（マ）村　ハ入津の北にあり　同　三百二石九斗一升五合　白山社　祭神菊理姫命及眞宗大谷派　本福寺　村内にあり

熊石　ハ中保の枝郷なり　郡上領　三十一石五斗三升

鬼谷　ハ中保の北にありて同村の枝郷なり　同　百九十六石三斗　諏訪社　祭神建御名方命

小板屋新田　ハ中保の西南にあり　御旗本井上氏領　四十三石一斗四升六合　稻荷社　村内にあり

夕谷村　ハ小那比の西北にあり　同　八十四石三斗八升

厚波(アツハ)村 〃戸川の西北にあり 同 十五石二斗四升七合 白山社 祭神菊理姫命村内にあり

田平(ヒラ)村 〃厚波の西北にあり 同 七十八石七斗七升五合 白山社 祭神菊理姫命村内にあり

洲(ス)河(カウ)村 〃田平の西南にあり 同 七拾八石七斗七升五合 白山社 祭神菊理姫命及眞宗大谷派 本覺寺 村内にあり

小那比村 〃當郡東南の極にて武儀郡鳥屋市村に接す 同 四百二十五石二斗三升 熊野白山合殿社 祭神伊邪那美命事解男速玉男菊理姫命及禪宗 圓通寺 村内にあり

野々倉村 〃夕谷の東南にありて小那比村の枝郷なり 同 七拾九石七斗 神明白山合殿社 祭神伊邪那美命事解男速玉男菊理姫命村内にあり

梅原村 〃野々倉の北西にあり 郡上領 九十八石五升八合 白山社 伊弉冊命村内にあり

相戸村 〃梅原の南にあり 同 七十八石八斗一合 八劔社 祭神日本武命村内にあり

苅安村 〃野々倉の西南にあり 同 六百石 の地なり眞宗本派 專念寺 村内にあり

苅安小屋本新田 〃苅安の南にあり 同 六十七石一斗九升一合 白山社 祭神伊弉冊命及禪曹洞 林廣院 眞宗大谷派 乘性寺 村内にあり

新(シン)刎(ハチ)村 〃苅安の西にあり 同 二十六石九斗七升七合

福野村新田 古〃福野村 〃苅安の南にあり 同 百六石三斗三升一合 禪曹洞 觀音庵村内にあり

野尻村 〃福野の西南にあり 同 二十五石一斗九升二合

大矢村 〃野尻の南にあり 同 四百十九石一斗一升三合 熱田社 祭神日本武命及禪曹洞 桂昌庵 村内にあり

勝原村 〃大矢の南にあり 同 百四十九石三斗七升 子安神社 祭神木花開耶姫命村内にあり

木(コン)尾(ノチ)村 〃郡上川を隔てゝ勝原の南にあり 同 百五十八石四斗八合 白山社 祭神伊弉冊命及禪曹洞 洞泉寺 村内にあり 木尾關 村内にありて武儀郡須原村へ出る堺に柵門あり郡上の人宮地尙貞字順夫か過ニ木尾關一詩に 孤枕朝過木尾關崎嶇石徑檜杉間廻レ頭故國雲煙裡遠近高低山復山 といへる如し

繁(ハン)在(サイ)村 〃 半才ともかけり 〃木尾の北東にあり 同 八十八石一合 八坂社 祭神素盞嗚

命村内にあり
根村 ハ繁在の北にあり 同 百三十九石六斗二升六合 神明社 祭神伊弉冊命
天照皇大神村内にあり
下田村 ハ根村の北にあり 同 三百十石一斗四升七合 若宮八幡社 祭神仲哀天
皇應神天皇仁徳天皇及禪曹洞 北辰寺 村内にあり 此地 福部ヶ嶽 を西南に扣へ有名
なる 竈ヶ瀧 あり爲に夏氣遠路より遊杖するもの堪へす
高原村 ハ下田の北にあり 同 百五石八斗六升六合 八幡社 祭神應神天皇村内に
あり
赤池杉原村 ハ高原の北西にあり 同 二百五十四石三斗九升九合 熊野社 祭神伊弉
冊命 神明社 祭神天照皇大神村内にあり
粥川村 ハ赤池杉原の西にありて 同 二百三十七石五斗二升九合 粥川氏宅墟
永祿の頃粥川甚右衛門當村刈安の両村を領知してこゝに住す 神明社 祭神天照皇大神此地
禁漁の慣習あり全村鰻を産する事他村に比類なし
鬮本村 ハ赤池杉原の東北にあり 同 百六石一斗五升一合 美濃國神名記 の郡上
郡正六位上杭木明神 とあるハこゝなるへし 八幡社 祭神應神天皇及眞宗大谷派 安樂

寺 村内にあり
門福手村 ハ鬮本の北西にあり 同 四十七石四斗三升八合
三日市村 ハ苅安の北にあり 同 百四十五石二斗九升 多藝郡五日市同し例の村名なり
鹿島社 祭神武甕槌命及禪曹洞 自照庵 村内にあり
深戸村 ハ三日市の西北にあり 同 百四十七石二斗九升 餅取氏宅趾 ハ永祿の
頃餅取六右衛門爲政深戸にありて此邊四ヶ村を領知す 日吉社 祭神大巳貴命村内にあり
名津佐村 ハ深戸の東北にあり 同 五十二石九斗五升一合 神明社 祭神天照皇大神
村内にあり
西乙原村 ハ川を隔てゝ名津佐の西北にあり 御旗本遠藤新六領 二百九十五石八斗一升五
合 白山社 祭神菊理姫命及眞宗大谷派 蓮心寺 村内にあり此地遠藤氏の陳屋あり
東乙原村 ハ名津佐の北にあり 郡上領 九十六石九斗五升九合 白山社 祭神伊弉
冊命村内にあり
千虎村 ハ東乙原の北にあり 同 百三十四石四斗五升六合 白山社 祭神伊冊命
村内にあり
穀見村 ハ千虎の北にあり 同 百三十四石四斗五升六合 稻荷社 祭神倉稻魂命

村内にあり
中野村　ハ殻見の北にあり　同　二百四石七斗二升　此地渡を船越ゆれハ下川筋西岸を
下田村　に至る
島方村　ハ中野の北にあり　同　二百六十五石二斗二升七合　日吉神社　祭神大己
貴命及眞宗本派　最勝寺　同宗大谷派　願蓮寺　村内にあり
安久田村（アクタ）　ハ島方の東南にあり　同　百五十三石三斗三升五合　白山社　祭神伊弉冊
命及　熊野社　祭神速玉男命村内にあり
赤谷村　ハ安久田の西北にあり　同　八十七石三升一合　赤谷山城趾　赤谷山
にあり　東下野守元胤（號常庭はしめ野田左近太夫といひしか東家の豚を繼げり）　の居城のあとなり始め同郡篠脇の地
に在しか北越の軍度々襲來て苦しみたえす　天文十年當所　式部少輔胤綱（法名素明）　の　古城
趾の　要害　を取立移住せしが永祿二年八月廿四日より　遠藤家　の持となれり　氣良
城墟　ハ氣良庄赤谷山の地にありて　東七郎常堯　の守城なりしを永錄二年　遠藤六郎
左衛門尉成數　同新兵衛尉胤緣　攻落して放火すそのゝち當山より流出る谷水色紅な
り赤谷の名これに起る　愛宕神社　祭神伊弉諾命大產靈命彥火々出見命及禪臨濟　慈恩寺
村内にあり　紙　直紙　廣紙　厚紙　小菊　等を土產とす

八
幡　ハ赤谷の北にあり　八幡城　ハ　東下野守常緣の祖中務丞胤行の時承久の
軍功により郡上郡の地を加へ賜ハりて領知せしか　常緣の時文明　のはしめ當城を築き當
郡篠脇より移り住みて　將軍義將公　の命により先祖の家業を興してこゝを領知しありけ
るに　齋藤入道息念か爲に城を奪とられえれしかほと退城せしか和歌をよみて　息念に
送りけれハ本領もとの如く　息念よりかへしけるゆゑ再居城となりて子孫に傳へしなり　鎌
倉大草紙に　東下野守常緣は千葉退治の撿探として下總國に下向し　康正元年　より
東の庄に居住し所々の合戰に打勝京都の御感にあつかりける所に京都に大乱起り　常緣か美
濃國郡上の城を　山名方　より打入て　應仁二年九月六日　に攻落され同國住人　齋藤
持是院法印妙椿と云人悉押領しける　常緣關東にて是を聞此所ハ　常緣か先祖　中務
入道素還承久二年　初て拜領の舊地なり代々十世に及ひて　終に他人ハ知行せさりけるを
我代に至りて思ひの外に　東國　に下向してヶ様に成行ける事無念といふも愚なり其折しも
亡父　式部入道素明か爲に追善の法事を營み僧を供養しけるか代々和歌をたしなむ家なれ
ハかくをもひつゝけゝる　あるかうちにかゝる世をしもみたりけん人のむかしの猶もこひしき
中略　齋藤妙椿傳聞て　常緣ハもとより和歌の友人なり今　關東　に居住して本領か
く成行事いかに〱本意なき事にをもひ給ふらむ我も久しく此道の數寄なれハいかて情なき振

舞をなさんや　常縁歌をよみて送り給はゝ所領もとの如くに返しなむと物語しけれは云云
常縁もとより達者にて十首の歌を詠して　美濃國へそ送りける云云　にり川や淸き流れを
へたてきて住かたきよを歎はかりそ　中八首略　我世へむ去るへと今も賴む詠みのへをやまの
松のちとせを　返し　持是院法印妙椿　言の葉に君か心をみつくきの行末とをく跡はた
かはし　此年二月二日よりかく申かわしける間達上聞けれは　御色許あり　下總國には子息
縁數をとゞめ四月廿一日　東野抄は上洛して五月十二日に　持是院妙椿に對面して本領
を請取打入けれは　妙椿の許より　世の中を遠くはかれは東路に今住なからいにしへの人
使を立なから返し　常縁世の中をとをくはかられけふまての君か言葉の花にをくれし　以下
略　東下野守常縁千葉介常胤六男東六郎胤頼の末裔　文明年中郡上篠脇ヨリ當城ヲ築テ居之
十四卷系圖に桓武天皇末孫上総介忠常八代氏數ノ子常縁下野守法名素傳其
子賴數其子元胤其子大和守常知とあり　東宮内少輔賴數　常縁子　尭恵法印
は北國紀行に文あきらけき年の十七の秋みのゝ國平賴數去る所の山亭に下り蘇息せしに秋風の
催す頃都をおもひ出侍て　雲路てす都は西の音羽山せきのこなたも秋風そふく　かくて明る年
の十八のさ月の末に飛驒の山路をしのきあつまの方へをもむき侍りぬ　文明十七年秋　よ
り　翌十八年五月　まて郡上に偶居せし也　遠藤六郞左衛門盛數賴數養子舞なり永祿二年盛數築當城

遠藤左馬助慶隆天正年中郡上沒收領ニ加茂郡小原七千五百石ニ蟄居　領二万六千石　稻葉右京亮貞通天正十三
四年頃自揖斐移之慶長五年移豐後臼杵　領四万五千石　遠藤但馬守慶隆　領二万六千石　大神君
に屬し奉り本領を賜はり再び在城ありしなり　遠藤伊勢守慶利　領二万六千石慶
長年慶隆卒去し男子なかりしかは　三木右近太夫直綱の子　慶利を養子となして家を
繼く是　慶隆の孫にて　後但馬守と改む　遠藤備前守常友父慶利の領知貳万七
千石　を請て在城しはしめて鼻祖の伎藝を興し和歌を　烏丸光榮卿　に學ひ　宗祇水
の　古名　をとり立又詩賦を好みて　當山の十景　を撰はれしかは世人是を嘉賞せり嚴
有院　君の御世　山木俊正と云人此地に來り三年かほと逗留ありて歌道を學ひけり歸ると
きに俊正　又もこん郡の都の八幡山木高き峯の松をしるへに　とよみしよしいひ傳へたり
遠藤右衛門佐常春父　常友の讓りを請て　天和二年　より城主たりしは　濱といへる
妾を愛して長子　岩松をうみしか本妻に男子あらは家督なりかたき事を畏れ　濱か計らひに
て家臣　文之進といふ者とともにはかりて　元祿二年　毒を授け弑す廿五歲　遠藤岩松
常久　常春　の嫡子母は　濱なり父卒去ありしかは家臣　西脇角兵衛相具し關東へ下り
台命を奉りて家督せしか　元祿五年　早世ありしかは家名斷絕し弟　主膳胤親遺知の內
一万石　を賜はり近江の國野州郡三上にうつりのち　下野守　と號す　井上中務少輔

正任元祿五年自常州笠間移之　領五万石　井上大和守正岑後改河内守　領四万七千石　元祿六
年家督　同十年移丹波笹山弟　主稅三千石分地　金森出雲守賴旹元祿十年自出
羽上山移之　領三万八千石　金森兵部少輔賴錦元文元年より城主たり寶暦八年家斷絶　領三万八千石
青山大和守幸道寶暦八年自丹後宮津移之　領四万八千石　青山大膳亮幸完　安永四年未
十二月家督　八幡宮　城東に鎭座前ハ猶荷谷にのそみ絶景の地にて社僧　岩下院　堂宇嚴
麗なり　登仙橋　八幡の西にあり　江村北海か　濃北紀遊　に　蓮生寺　を出て
洞仙橋　を渡るとあるはしなり　杦村彝字君乗號霞涯俗稱來太郎郡上疾臣　の　登仙橋逐涼　の詩に
登仙橋上碧溪濱柳外風薫暮景新閑看飛螢倚欄久不知水氣濕紗巾　宗祇塚
八幡城下　にあり　遠藤家　の建立也是ハ　東家　なり古今の傳受を　頓阿　より　堯尋
堯孝　と傳ハり　東下野守常緣に傳へけるか　常緣　郡上に住し其傳都に絶へたるをに
しませ給ひ　三條實隆卿へ相傳させたく思召　宗祇を御使として美濃へ遣ハされける故
宗祇傳へ來りて　實隆公へさつけ參らせし亂世にて　常緣上京しかたき故　宗祇御使
に參りて古今傳の一人に加ハりしハよき幸ひ得たりしよし　芝山殿の和歌物語に見えたり
白雲水　山田莊宮瀨川　の邊にあり俗に　宗祇水　といふ　紅葉はのなかるゝ龍
田白雲の花のみよしの思ひ忘するな　といふ　東常緣の歌によりてかく名けしと

云　東野州常緣宗祇に古今傳受し終りて此所まて送り來り和歌を詠して與へられし跡故
宗祇水　ともいへり當時　金森兵部少輔臺近の領地なれは　兵部少輔永く古蹟の傳
へん事を公卿殿上人に乞ひて其言葉をあつめて今に傳へしよし　特進光榮　の序に見えたり
其歌數首のうち　言のはの流れを遠く汲てある泉の水ハ世々に絶せし　菊亭
誠季　言のはの道に結ひしちきりをも盡ぬ泉に殘す跡哉　烏丸光榮　そ
こきよみたえぬいつみにわするなと言し昔もくみてこそしれ　日野二位
資時　ことのはのなかれを遠く傳へきて泉の水の名こそしるけれ　坊城
從二位俊將　幾千代か傳ん道の末遠くたえせすこゝにすめる泉そ　飛鳥
井中納言雅香　敷島の道を傳へし名も爰に殘る泉の水はたねしな
柳原中納言光綱　世々遠く名に流れきて言の葉も泉の水のはてしとそ
思ふ　廣橋中納言兼胤　古き代のあとしたふらし宮瀨川淸き泉の名をも
殘して　外山從二位光知　言のはに泉の水の淺からぬ心をくみて思ふい
にしへ　風早實積　傳へこし心しるとや世々遠くたえぬいつみの水もに
こらす　芝山正三位重豐　難波津の流れを爰に汲水の絶ぬや古き教へな

あらむ　冷泉爲村　幾千年傳へん道のしるへとやこゝに泉の水もたえせぬ　中院通枝　くみてしる道も幾千世昔より絶ぬ泉の深きこゝろそ　園基望　名を遠く殘す泉にありし世の心深さを汲てこそしれ　長澤壹岐守資親　立よるや道行人もいにしへをおもひいつみの水のあたりに　松平伊豆守信祝　よゝ絶ぬ泉の水に流れての深きえにしも汲てこそしれ　山本實観　淺くやは影見し世より言のはの流れて今も盡ぬ泉は　烏丸清胤賢しな千歌はた卷くみてしる絶ぬ泉に昔思へは　松平甲斐守吉里　泉にも猶のこす名にふるき世を汲てそしたふ言の葉の道　前田信濃守長泰末の代も汲てこそしれ猶たえぬ名に流れ來し水の古こと　松平美濃守義調　言の葉の道の榮えをくみてしる泉の水のたへぬなかれそ　松平遠江守忠喬　代々こゝにふるともつきしわきかえりすめる泉の水のすゝしさ　松平紀伊守信峯　流れての世々にも盡ぬ言の葉の道を例に泉なるらし　戶田右近將監氏房　いく代々をふるともつきしわきかへる泉の水の清き

なかれは　京極甲斐守高永　くみてこそむかしを今にしるき名の傳へて猶もたえぬ泉を　松平兵庫忠興　此水の流れての世の末かけてよむ言のはの道は盡せし　松平左衛門佐信俊　傳へ來て其名も絶ぬ澄水にふるき昔の心をそくむ　井上遠江守正敦　なかれての世々に傳へん名にしれふ泉にそへてたへぬ言の葉　金森臺近　長教寺一家觸下二十ヶ寺余　ともに淨土眞宗東派なり　素玄寺は曹洞宗にて八幡城主金森家菩提所なり　素玄　金森法印の法名なり　蓮生寺は淨土眞宗　いつれも八幡にあり

新撰美濃志廿二の卷

尾張　文園　岡田　啓　編輯
美濃　簡齋　神谷道一　修正

郡上郡　下

田尻村　ハ當郡の中央赤谷の東にあり　郡上領　百七十六石九斗一合　桑畑村ハ赤谷の東にありて當村のうちなり　白山社　祭神伊弉諾命伊弉冊命彥火々出見命村內にあり

川佐村　ハ田尻の西にあり　同　百九十三石九斗四升七合　神明社　祭神天照皇大神及眞宗本派　普行寺　村內にあり

市島村　ハ田尻の東にあり　同　六百九十七石九斗八合　高雄社　祭神國常立命及眞宗本派　安立寺　專光坊　村內にあり

在原村　ハ市島の東にあり　同　二十八石六斗四升六合

歩岐村　ハ在原の東にあり　同　八石六斗一升九合

神谷村　ハ川を隔てゝ在原の北にあり　同　五十六石六斗一升七合　白山社　祭神

下津原村　ハ川を隔てヽ神谷村の西にあり　同　九十五石六斗六升七合　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗本派　浄光寺　村内にあり

吉田村　ハ下津原の西にあり　同　百三十四石八斗八升八合　八幡社　應神天皇を祭る

石原村　ハ吉田の西南にあり　同　百二十四石三斗三升九合　神明社　祭神天照皇大神及眞宗大谷派　明願寺　村内にあり

符路村　ハ石原の南西にあり　同　四十三石三斗三合　普道巖　ハ村内にあり左右後三面ハ尋常の岩石にて前一面神工大斧を以削りとりたる如き大巖なり

鶴佐村　ハ符路の西南にあり　同　五十七石三斗二升九合

小野村　ハ鶴佐の西にあり　同　五百四十九石七斗四升一合　八幡社　祭神應神天皇姫大神神功皇后住吉大神春日大神武内大臣

上之洞村　ハ山を隔てヽ小野の北にあり　同　八十二石三斗四升　八坂社　祭神素盞嗚命

中坪村　ハ上之洞の西南にあり　同　二百七石六斗九升九合　眞宗大谷派　安養寺　同　浄圓寺　日蓮宗一致派　大乘寺　浄土宗　洞泉寺　村内にあり

是本村　ハ川に添ふて中坪の西にあり　同　二百四十六石八斗二升五合　神明社　天照皇大神を祭る

印雀村　ハ上之洞の東北にあり　同　七十七石九斗七升九合　白山社　祭神伊弉冊命

原村　ハ印雀の東にあり　同　百三十八石一斗四升四合　圓太暦　に文和二年四月十日於尾州有合戰賊首二十許持上る守護代土岐か家人等合戰件黨類は原蜂屋等也云云　とある原ハこゝの人か考ふへし　眞宗本派　教林寺　村内にあり

鳩畑村　ハ川に添ふて原の東にあり　同　十九石六斗九升八合　眞宗本派　浄勝寺　村内にあり

戒佛村　ハ川に添ふて鳩畑の北にあり　同　三十九石九斗三升五合　神明社　祭神伊弉冊命

坪谷村　ハ戒佛の南にあり　同　八十八石六斗九升九合　宇津須村ハ當村のうちなり

津保城墟　津保村にありて天正の頃稲葉右京の嫡子彦六の居城にて津保一柳両村一万石を領す　日吉社　祭神大巳貴命及眞宗本派　浄願寺　村内にあり

爲安村 ハ坪谷の南西にあり高同 四十九石八斗四升 白髭社 祭神猿田彦命及眞宗本派 開信寺 村内にあり

深皿村 ハ爲安の南にあり 同 三十七石六斗七升八合 白山社 祭神伊弉冊命

上神路村 ハ深皿の西にあり 同 六十六石六斗一升二合 白山社 祭神伊弉冊命及眞宗本派 西念寺 村内にあり 木越城墟 ハ當村 本越 の地にありて 永祿の頃 遠藤大隅守胤俊(始號新兵衛尉) の 居城 のあとなり 割岩 ハ 遠藤六郎左衛門尉盛數 の子 但馬守慶隆天文十九年神路村 本越村 にて誕生の時雷鳴震動して山川震動して白晝夜の如し谷川の中 一 大石 降りて忽裂て 二石 となる今に 神路の割巖 といふ

西洞村 ハ上神路の南にあり 同 四十七石六斗四升三合

中洞村 (高帳に中桐村) ハ西洞の東南にあり 同 百九十四石七斗五升六合 南宮社 祭神金山彦命及眞宗本派 安樂寺 村内にあり 萬古杉 ハ村内にあり其大サ十人して連抱していまた周合せすと 江村綏 か 濃北紀遊 に志るせり 蕕蕳 蕪菁 當中洞村邊に產す同紀に中洞在二虞城東北隅一里は九村中蕕蕳之大不レ讓二世所レ稱尾張大根者一蕪菁亦大如壺其味亦勝二乎京師所レ謂近江蕪菁一山間石田產レ之殊可レ異也 と見えたり

中神路村 ハ上神路の西南にあり 同 百九十石三斗八升一合 白山社 祭神伊弉冊命及眞宗本派 法圓寺 村内にあり 產物と志て各種の紙を製す

口神路村(カンチ) ハ中神路村の西にあり 同 百六十五石八斗二升六合 白山社 祭神伊弉冊命村内にあり

大瀨子村 ハ川に添ふて口神路の南にあり 同 七十石七斗八升七合 白山社 祭神伊弉冊命村内にあり

小瀨子村 ハ大瀨子の南にあり 同 三十七石七斗八升二合 多賀社 祭神伊弉諾命

五町村 ハ川に添ふて小瀨子の南にあり 同 二百三十二石三斗九升五合 神明社 祭神天照皇大神及禪昔洞 悟竹院 揚柳寺 村内にあり

坪佐村 ハ川を隔てゝ小瀨子の西にあり 同 百四十石四斗九升一合 百合若社 祭神百合若大夫盛と云ふ村内にあり

勝更村(カツサラ) ハ坪佐の南にあり 同 九十九石八斗九升八合 白山社 祭神伊弉冊命

腰細村(コシホソ) ハ勝更の南にあり 同 四十二石一斗九升 多賀社 祭神伊弉諾命

鈴原村 ハ腰細の南にあり 同 五十八石六斗七升四合 天滿宮 祭神菅公盛

鈴原川佐新田 ハ鈴原の南にあり 同 十六石五升六合

福手村 は鈴原の西南にあり 御旗本遠藤新六領 六十三石四斗三升二合 神明社
祭神天照皇大神 稲葉忠次郎宅趾 福手村山中にあり 天正 の頃 稲葉右京の二
男忠次郎五千石 を領知してこゝに住居す
門原村 は川を隔てゝ福手の西南にあり 同 九十七石二斗八升 稲荷社 祭神詳な
らす眞宗大谷派 明巖寺 同 照明寺 村内にあり
寺本村 は福手の西北にあり 郡上領 五十三石四斗九升五合 白山社 祭神伊
弉冊命
龜尾島村 は寺本の西北にあり 同 百六十九石八斗六升五合 白山社 祭神伊弉冊
命村内にあり
那比村 は龜尾島の西南にあり 同 五百四十二石二斗八升四合 常緣集 に郡上
郡那比の新宮といふ社にて 神もこゝに幾世か夏を杉の杜 宗祇法師 みやる
てなれぬ山ほとゝきす 那比本神社 祭神伊弉諾命眞宗大谷派 福常寺 村内に
あり
内ヶ谷村 は龜尾島の北西にあり 同 二十二石九斗二升五合 白山社 祭神伊弉冊
命村内にあり此村の祖先は 平家 の落人なりと云ふ

落部村 は内ヶ谷の東北にあり 同 百石三斗九升四合 日吉社 祭祀大巳貴命及眞
宗大谷派 正信寺 村内にあり
名皿邊村 郡村記に名皿部 は川に添ふて落部の東北にあり 同 百八十五石六斗五升七合
白山社 祭神伊弉冊命及眞宗大谷派 林昌寺 村内にあり
島馬場村 は落部の東南にあり 同 六百八十五石九斗一升六合 七代天神社 天
神七代命及眞宗大谷派 信樂寺 村内にあり
場皿新田 は島馬場の北にあり 同 三十三石五斗九升八合 神明社 祭神天照皇大
神
河邊村 は口神路の北にあり 同 百九十二石二升 河邊社 祭神大山祇命
德永村 は川を隔てゝ河邊の北西にあり八日市村は德永のうちなり 同 二百六十六石
五斗九升三合 多賀社 祭神伊弉諾命及眞宗大谷派 恩善寺 村内にあり
牧村 は德永の東にあり 同 四百三十七石一斗八升七合 常緣集 に 山田
莊粟栖の杜に 花さかり所も神のみやまかな 宗祇法師 さくらそ匂ふみね
の榊葉 村内に 明建社 あり國常立命を祀る今猶 馬場 の形を存し 櫻 の古木
數本あり

東保村　〃上神路の北にあり　同　三百二十一石三斗一升五合　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　照願寺　村内にあり

母袋村　〃　東保村　の北にあり　同　百三十石四斗二升八合　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　西寶寺　村内にあり

西保村　〃東保村の西にあり　同　二百九十石五斗　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　應德寺　村内にあり

小間見村　〃牧村の北にあり　同　百九十二石三斗九升貳合　諏訪社　祭神建御名方命及眞宗大谷派　心晃坊　村内にあり

大間見村　〃川を隔て丶小間見の東北にあり　同　九百十九石一斗三升五合　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　清淨寺　教圓坊　同　了泉寺　同本派　圓光寺　村内にあり

釼村　〃川を隔て丶德永の北にあり　同　九百四十二石三升一合　金釼社　祭神日本武命及眞宗大谷派　淨圓寺　村内にあり本郡内　石高　の多き　此の村　の右に出るものなし

万場村　〃川を隔て丶劒の西にあり　同　五百十四石二斗二升九合　南宮社　祭神金山彦命及眞宗大谷派　長德寺　村内にあり

今万場村　〃川を隔て丶万場の北にあり　同　二百三石五斗三升八合　熊野社　祭神伊弉冊命

中津屋村　〃劒の北にあり　同　五百六石二斗六升六合　八幡社　祭神應神天皇

大島村　〃中津屋の北にあり　野里村　〃當村のうちなり　同　五百二十七石八斗一升九合　曆應四年八月七日攝津掃部頭　讓狀に　美濃國大島　とあるハこ丶なるへし　稻荷社　祭神倉稻魂命及眞宗大谷派　寶林寺　同　瑞雲寺　村内にあり此地鳴ケ野の東南にあり廣莫たる原野にして一名　大島野　とも云　産物　に　大根　あり

陰地村　〃大島の東北にあり　同　二百十石六斗四升一合　三輪社　祭神大已貴命村内にあり

那留村　〃陰地の東南にあり　同　二百三十九石三斗　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　蓮乘坊　村内にあり此地石塊に音響を發するもの産出す　鳴ケ野　の　名稱蓋し之によりたるものならむ

野添村　〃川を隔て丶陰地の東北にあり　同　二百六十四石五斗六升　貴船社　祭神岡象女命村内にあり

橋詰村　〃川を隔てゝ野添の東にあり　同　九十七石四斗一升　多藝郡橋爪と同じ村
名なり眞宗大谷派　光蓮寺　同　光雲寺　同村にあり
藤林村　〃川を隔てゝ橋詰の東北にあり　同　二十一石四斗一升二合
杤洞村　〃橋詰の東にあり　同　四十六石一斗二升三合　白山社　祭神伊弉冊命
畑ヶ谷村　〃杤洞の東北にあり　同　四十七石六斗五合　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗
大谷派　光蓮寺　同　光雲寺　村内にあり
高久村　〃藤林の西にあり　同　二十四石七斗八升八合
折　村　〃高久の西にあり　同　三十石四斗一升六合
阿多岐村　〃阿多木村とも書り　〃山を隔てゝ折村の西にあり　同　百五十五石一斗四升二合
白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　明圓坊　村内にあり
中西村　〃阿多岐の西南にあり　同　三百三十七石七斗六升三合　三輪社　祭神
大巳貴命及眞宗大谷派　圓德寺　同　佛乘坊　村内にあり
中西劍治野新田　〃中西の南にあり　同　三十石六斗五合
爲眞村　〃中西の西南にあり　同　四百八十七石二斗三升四合　白山社　祭神伊
弉冊命眞宗大谷派　善林坊　村内にあり

起佐村　〃川を隔てゝ爲眞の西にあり　同　百六十六石八斗三升三合　眞宗大谷派
專龍寺　村内にあり
白鳥村　〃爲眞の北にあり　同　七百四十四石六斗九升六合　美濃國神明記
の郡上郡正六位上白鳥明神てゝなり今猶　白山社　祭神日本武命の社及眞宗大谷派　來通
寺　村内にあり
向小駄良村　〃川を隔てゝ白鳥の西にあり　同　二百四十三石三升三合　古森社　祭
神伊弉冊命及眞宗大谷派　圓覺寺　村内にあり此地各種の紙を製す
二日町村　〃向小駄良の北にあり　同　五百七十六石八斗七升八合　八幡社　祭神
應神天皇及眞宗大谷派　西圓寺　村内にあり
長瀧村　〃二日町の北にあり　同　百二十七石七斗五升七合　阿名院　長瀧寺
〃　天台宗加賀白山社僧　のうちと云伽藍寺家多し　一切經　あり　養老元年泰
澄法師　加賀の白山北嶺にのほり　神勅　を蒙り此地に　白山權現　を勸請して當寺を
建立　すはしめ　法相宗　なりしか　天長五年天台宗　に改む　本尊大日如來
の　座像一丈二尺　左〃　釋迦　右〃　阿彌陀各九尺四天王像　ともに　運慶
の作麓に　大講堂　あり　應長元年建立　の棟札に　肥前權守的〃宗里飛彈權

守藤原宗安とあり當山六谷に六院ありて神社佛閣三十余宇僧坊甚多く天台の別院なり養老六年天皇御惱泰澄大師勅により加持し奉り御本復ありしかハ翌年白山三社の本地佛十一面觀音聖觀音阿彌陀三尊等帝自ら彫刻し給ひ當山に納給へり聖武天皇天平五年書寫し給ひし紺紙金泥の觀音經及ひ心經あり又唐本の一切經阿難筆貝多羅葉經一卷其外寶劒類佛舍利等に數種の靈寶あり今村内に存する社ハ白山神社祭神伊弉諾命伊弉冊命彦火々出見命及寺院ハ天台宗持善坊　同　大日坊　同　木本坊　同　藏泉坊　同　經聞坊　同　寶幢坊　同　長瀧寺　阿名院等なり同境内より豆石と云もの產出す

歩岐島村（ホキシマ）ハ長瀧の北にあり　同　三百四十四石三斗七升六合　千疊巖ハ當村の溪中にあり大きさ名の如く岩頭平坦なり其上を溪水流るゝ事藍の如し　馬尾瀧（ウマノヲノタキ）ハ長十余丈巾二尺ハかゝりあり景趣絕品なり西に毘沙門嶽ありて越前と境す　白山社　祭神伊弉冊命及兵宗大谷派　非願寺　村内にあり

前谷村ハ歩岐島の北にあり　同　百七十石二斗二升三合　阿彌陀瀧　當村の北越前境の山にあり　高百間　阿彌陀瀧遊覽紀行に前谷村に至る此村人家川の兩

岸にありて家かず多く見ゆ是より先ハ道路あしく道知れかたき故に案内の者を雇ハんとすれとも農業忩かハしとて行者なし折節牧童二三人來懸りし故に是を賴連れ行んといへとも諾せすようくとして一人の男を賴出し是を先に立て行前谷村を過て少し行ハ路傍に木戸有て案内の者瀧へ行由を斷て歸るこゝを過て山坂を逅り谷川に出獨木橋を渡り（長さ四五間）山路を行又谷川に出川中の石を傳ひて川を越て又山路を行（前谷村を過て此所まて道至て惡敷道細く石高く山坂嶮なり）往還の道（加賀白山への往來道也）を分れ瀧の方へ行坂を下れハ山あいに少し田畑の有所に出是ら阿彌陀瀧の洞に入る（此所ら瀧まて八丁許）両山相岨て草木生茂れり其中間に阿彌陀瀧の水流れ落る溪あり溪の中に大ひなる岩石多し先ッ谷の左岸の正腹を攀登る甚嶮難なり定りたる道なし案内者を先にしてこれに附て行此所篠笹薄葎なと背丈に余りていやか上へに生茂り足元更に見分かたく押分く進み行此道一歩を過つ時は忽百尺の谷に顚倒す其危き事限りなし叢中蝮蛇を見る事數度又是に恐るゝ事大なり兎角して行事四丁許にして溪間の岩石を飛越辛して向の山に移り（則谷の右岸なり）倒たる朽木をのりこへ木の根に取付草を押分岩を傳ひ又行事四丁許稍にして瀧の邊りに至る瀧高さ百間はかり飛泉巖頭より奔飛して碧潭に落其形恰も數百の布を瀑すか如く落る音颯沓として遠近に響く悽冷しく山頰の蒼樹翳鬱として日光を遮り陰凉心に徹して人をして毛骨悽然たらしむ瀧の左の方に（瀧ら南也）屏風岩とて屏風を立廻したる如き數十

丈　の絶壁あり又瀧の右に　深サ六間巾十六間高サ七尺許　の巖窟あり上より水滴
る故に笠をかふりて入奥に　小祠　あり　扉　を開けハ小き　銅像　あり取出して巖窟の
外へ持出て見れハ　馬頭觀音　なり又元の如く祠中に納て巖窟を出此巖窟昔時長瀧寺の
道雅法印　といふ人此巖窟に入て護广を焼しかハ　阿彌陀佛　の像瀧にうつり給ひし故
阿彌陀か瀧　と名つくとなん云傳ふ瀧の裏へも行ハ行るへけれとも水烟雨のとくなる故
に予は不行暫時溪間の岩に腰かけ仰て瀧を詠感賞窮りなし云云　と見えたり

鮎(アユ)走(ハシリ)村　ハ川を隔てヽ前谷の東にあり　同　三百二十二石一斗三升一合　眞宗大谷派
聞因寺　村内にあり

正(シヤウ)ヶ洞村　ハ鮎走の北にあり　同　九十三石五斗四升　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大
谷派　通入寺　同本派　長善寺　村内にあり

中切村　ハ正洞の東にあり　同　百三十六石一斗一升一合　白山社　祭神伊弉冊命

穴洞村　ハ中切の東にあり　同　二十九石三升

西洞村　ハ穴洞の北にあり　同　六十六石四斗七合　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗
大谷派　寶蓮寺　村内にあり　大日嶽　西に直立冬季雪最深し

西洞折立新田　ハ西洞の南にあり　同　七十七石六斗八升一合

鷲(スミ)見村　ハ畑ヶ谷の北にあり　同　二十六石一斗八升六合　靈鷲巖　ハ當村にあり
江村北海の濃北紀遊　に鷲見村（中洞鷲見二村渾稱之爲鷲見郷）　有靈鷲巖孤峯特立三十丈奇秀無
比赤松翠柏不レ假寸土而生茂隼鶻常巣其上　と見えたり　白山社　祭神伊弉冊命
及眞宗大谷派　教願寺　村内にあり此地飛州莊川村に接え　上野　と稱する　原野　あ
り東西凡三里　南北凡　三里　ありと云ふ東北に　見違山　鷲ヶ嶽　等聳へ郡上郡
中何れの村落にも懸隔す

鷲見田代新田　ハ鷲見の西にあり　同　三十五石七斗四升

向鷲見村（古名陰地鷲見村）　ハ川を隔てヽ鷲見田代新田の西にあり　同　二百五十六石七斗三
升　白山社　祭神伊弉冊命及眞宗大谷派　往明寺　村内にあり

切(キッ)立(タチ)村　ハ川を隔てヽ西洞の南にあり　同　百二十三石六斗六升　白山社　祭神伊
弉冊命及眞宗大谷派　眞觀寺　村内にあり

新撰美濃志廿三の巻

尾張　文園岡田　啓編輯

美濃　簡齋神谷道一修正

賀茂（カモ）郡

小牧（コマキ）村　ハ郡の北の方武儀（ムギ）郡のさかひにありて富本（トミモトノ）荘なり古の名を川小牧といふ　尾張御領

二百二十七石六斗四升　名古屋まで十里あり　津保（ツボ）川　ハ村の東南を流る川上ハ津保谷より出（テ）　下肥田瀬村　に至りてひだせ川といふ　兜鍪岩（カブトイハ）　ハ津保川の川上にあり濃陽志畧　に其形似レ冑其下名（ク）ニ兜鍪潭一　と見えたり　縣（アガタ）大明神社　貴船大明神社　白山權現社　牛頭天王社　神明社　ともに村内にあり　智勝院　ハ大通山　といひて　臨濟宗加治田村龍福寺　の末寺なり

大平賀（オホヒラガ）村　ハ小牧の西南にあり　御料　六百五十二石七斗四升九合　東光寺　ハ老梅山　といひて　臨濟宗　なり　夢窻國師　虎溪山にすみしのち此寺に隱れ栖（ミ）て永保寺　を法弟　佛通禪師　にゆつられしといふ境内に國師の座禪岩あり又國師の揚枝に

て穿ちしといふ清泉あり本堂の本像は觀音菩薩なり大野郡清水村の條合せ見るへし

肥田瀬村 は大平賀の西南にあり 御料 御旗本領とも 千二十九石六斗二升 肥田瀬川 は村の南にあり西の方に流れ山田芥見にて長良川に入る 少林寺（名細記には少林庵とす）は 臨濟宗 にて 寺領五石 あり 飛驒瀬太郎國成は 分脈系譜 に 山縣先生國政子國成（飛田瀬太郎） と見え 飛驒瀬太郎重信は同し 系譜 に 山縣二郎頼清の二男判官代經國子重信（飛田瀬太郎） と見えたりともにこゝの人なるへし 肥田瀬宮内少輔詮直あるひは滿康 は 土岐系圖 に 大膳大夫頼康の弟土岐伊豫守直氏（宮内少輔出家後號信慶領尾州中康暦二年十一月十四日卒）の 二男詮直肥田瀬宮内少輔賀茂郡肥田瀬住應永六年十一月鎌倉管領滿兼大内義弘叛將軍義滿詮直應義弘守之使頼益令討之 と見えたり 詮直その父 伊豫守卒し初七日に佛事を修せし事 坐香書（禪僧周信が文辭なり） の拈香の文に見えたる左のごとし 土岐豫州太守雲岫慶居士忌僊駕飄然不可攀那堪洒泪想慈顏洞前昨夜雲歸岫江上朝來雪在山茲者京居奉佛考男直詮等以康暦二年十一月廿日恭遇先考豫州大守初七之辰命工圖繪不動明王尊像一幅書寫法華經一部讀誦法華梵網金剛三大乘經楞嚴大悲光明三大神咒敬就本宅啓此梵莚修諸佛事仍命在城等

持禪寺住持比丘周信焚此寶香普熏法界天上人間或聖或賢或天或龍諸鬼神等聞此香者如囚縈之出牢如窮子之遇父莫不獲益者焉云云

この文に 詮直を轉倒して 直詮とす今何れをよしとも定めがたし

市平賀村 は肥田瀬の西にあり 御料 御旗本領とも 六百十石二斗二升二合 野町は市平賀のうちなり

鑄物師屋村 は市平賀の西南にあり 御料 御旗本領とも 九百五十七石六斗五升

稲口村 は肥田瀬川を隔てゝ鑄物師屋の西南にあり 和名類聚抄 に武藝郡稲柝とあるはこゝなり此村今も武儀郡の堺にあり 御料 御旗本領 聖德寺（名古屋の七間町） 領とも 四百七十四石一斗二升 の地なり

小廻間村 は稲口の南にあり 御料 三百八十七石一斗四升 の地なり

西田原村 は小廻間の東にあり 續草庵集 に飛鳥井刑部卿（雅朝朝臣）美濃國西田原といふ所を守護（土岐存孝）にさまたげられしを口入し侍りしとゝこほり侍りし頃申送り侍し 古里にかへりたくるゝ春の雁ついえつかれて音をのみぞなく 返し守護の遊行にそへて申侍りし ふる里の道もまよはし春の雁此玉つさをかけてかへらば と見えたり 御料 千二百七十三石七斗七升三合 多井明神社 は村内にあり 延喜神名式 に賀茂郡多爲神社と見え 美濃國神名記

に従五位下多井明神とある官社なり　小松寺　は大慈山といひて黄檗宗なり平内大臣重盛公父たとゝのよからぬふるまひせられしをうれへてはやく剃髪し　承安三年　日本のうち一國に一寺づゝの梵刹を建立して小松寺と名づけられし其一所なり（尾張國春日井郡小松寺村の小松寺をはじめ諸國の寺みな重盛の大臣の名づけられし寺號のよしいへりされどもかのおとゞの世にあられし頃よりはるかさきつかたにも小松寺といふ寺は多くありしなり　慶保胤が撰べる　日本往生極樂記　に陸奥國新田郡の小松寺　僧玄海初具二妻子一暮年離去ス　と見えたり　保胤は圓融天皇の御時の儒者にて重盛公より二百余年以前の人なるをもて知るべし）はじめ天台宗なりしか近年今の宗に改むその中興の開山僧は黒瀧の潮音なり本堂の本尊十一面觀世音は慈覺大師の作にて當國三十三所の第卅二番也　寺領十五石七斗七斗九合　塔頭一宇ありて　萬松菴　といふまた重盛公の肖像を安座する事尾張の小松寺に同じ

廻間村　は小廻間の南にありてもとの名を大廻間といひしよし郡村記に見えたり　御旗本領　六百八十二石一斗

深萱村　は廻間の東の方にありて　御料　五百七十三石八斗八升二合　の地なり

大杉村　は西田原の東にありて西田原庄といふ　御料　尾張御料とも　三百二石四斗八升　名古屋まで九里あり（濃陽志畧に御領六十二石一斗と見ゆたり）　天王社　村内にあり　香林寺　は曹洞宗にて耕雲山と號す酒倉村長藏寺の末寺なりもと　耕雲菴　といひしを近年今の寺號山號と改めしよしいへり

東田原村　は西田原の東にあり　御料　六百四十七石一斗四升　田原尾張守賴卿は土岐系圖　に左京大夫賴益の弟にて賀茂郡田原住ス　と見えたり　この人が又西田原の住人か今知りがたし又　安土創業錄に　田原左衛門猿啄（今の勝山村）の城を築きて居住したりしよしいへるもこの人なるべし

高畑村　は東田原の北東にありて　御料　七十四石七斗六升　の地也

市橋村　は高畑の南東にありて　御料　百九十五石七斗　の地なり

伊邊村　は市橋の南にあり　和名類聚抄　に賀茂郡井門とあるはこゝなるべし（伊と井とかなのたがへるは外にも例多し）　尾張御領　二百五石　名古屋まで九里あり　八幡社　二所あり　地藏堂　村内にあり

黒岩村　は山を隔てゝ伊邊の東南の方にありて蜂屋庄といふ　尾張御領　七百八石九升　名古屋まで八里あり　黒岩神社　は修験金剛院つかさどる上に虚空藏堂あり曠野のうち巨岩ひとつ屹立るが其色黒ければ社號となり又村名ともなりしといふ　白山社　八幡社　惣社大明神社　辨財天社　ともに村民まつれり

勝山村　は大杉村の南にありて加茂庄といふ木曾川の北岸中山道の驛路なりもとの名　猿啄　といひしを　永祿八年　信長公この城を攻討勝とり給ひてより勝山と改めしとぞ尾

張御領　二百三十石七斗二升七合　名古屋より七里あり枝村二所ありて　下稲葉
四町野　といふ　岐蘇川　ハ村の南に流る此邊にてハ太田川ともいふ兩岸そびへ奇石怪岩
立ならび水の流れはけしく舟いかだのゆく事はやく風景他にすぐれたりこゝより尾張の丹羽郡
栗栖村への船渡りありて栗栖の渡といふ　張州府志　に　相傳織田信長渡レ之拔二猿啄
城一故名二勝山一　と見えたり　洲崎川　ハ廻間洞より出こゝに至りて太田川に入る　觀
音坂　ハ木曾川の岸にあり中山道の驛路にて旅人多くつねに往來して風景を賞す　神宮山
ハ村の西北にありむかし神社ありし故名つけしといふ今ハやしろなし　堅拳岩　ハ村中に
ありするどく立たるさまこぶしを堅たるか如し此岩地下にて廣く大きなる故一村の内井をほり
ても水出たる事なし故に里人みな川水を汲て食料浴料とす　神明社　ハ村内にあり　覺專
寺　ハ淨土眞宗東本願寺の直末寺なり　觀音堂　ハ觀音坂のうへの窟中に石像を安置す故
に岩屋の觀音といふ棟札に　福島左衛門大夫造立　と見えたり此窟むかし金をほりし穴
也と里人いへり清水も湧出清潔なる岩山なり　猿啄城跡　ハ村の西にあり　田原左衛門
かはしめて築きのち　多治見修理河尻肥前守等がすみし所なり　安土創業錄　に永祿
六年八月（堂洞軍記に永祿八年己八月とあるに随ひ創業錄の六年をあやまりとすへし）信長小牧山（尾張の春日井郡）より犬山を經て木曾川を渡り猿啄の城
へ押寄す此城もとハ田原左衛門築レ之居住しけるに田原か一類　多治見修理　といふ者あり

田原左衛門名代　として土岐美濃守へ出仕す土岐ハ多治見へ懇情なれば多治見竊に猿啄
の城を望む土岐則赦レ之　田原左衛門が祖母ハ尾州丹羽郡栗巣村大泉寺にあり
毎年正月四日田原大泉寺に行きけれハ多治見其期を待謀叛して猿啄の城を
取り左衛門をたて出しけり田原此城に十七年在城しけるとかや多治見も
是より十八年在城す　信長今猿啄に寄せ城中内應の者有ければ城ハ則落にけり多治見修
理城を忍び出て甲州へ落行武田信玄に仕へけるとぞ信長猿啄の城を攻取り事始よしとて此城を
勝山の城と改められ　河尻與兵衛秀隆　を取入置云云　と見えたり　與兵衛肥前守と名の
りしが其城後に廢れたり

鳥組村　ハ勝山の東に並び中山道の驛にありて加茂庄といふ　尾張御領　二百三石五斗
五升三合　名古屋まで七里あり　白山社　大明神社　荒神社　ともに村民祀れり
寶積寺　ハ大祥山といひて臨濟宗谷口村汾陽寺の末寺也もと谷口村にありしを　正德三年こ
ゝに移す　阿彌陀堂（阿彌陀像また觀音の像をも安置す）　庚申堂　ともに村うちにあり

酒倉村　ハ鳥組の東北にありて南蜂屋庄といふ今ハ坂倉ともかく　御料　尾張御領とも
三百四十二石二升五合　名古屋へ八里あり枝村一所ありて一宮といふ御料大須ハ坂倉
の内也坂倉の南にあり　可兒合　ハ木曾川可兒川落合の所をいふ岩石多く水勢強く灘をなす

長藏寺　ハ臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　鍛冶坂倉正吉　正利　正次ハこゝに住みし古鍛冶なり

大針村　ハ酒倉の北にありて蜂屋庄といふ　和名類聚抄　に各務郡大榛とあるハこゝなるべし當村各務郡へ遠からず　御料　尾張御領　御旗本領とも　五百五十六石八斗二升八合　濃陽志畧に御領二百五十六石一斗二升とあり　名古屋まで八里あり　住吉大明神社　十二社權現社　ともに村うちにあり　天永寺　ハ　天永年中の開基にて細目村にありしを後世こゝにうつせしよしいへり

深田村　ハ酒倉の東にありて南蜂屋庄といふ　尾張御領　二百六十八石八斗七升名古屋まで八里あり　賀茂川　ハ北の方より流れ來りこゝに至りて木曾川に入るいさゝかなる川なれども暴雨ふれは水夥しく出て稼穡をそこなふ　深田橋　は賀茂川に架す板橋なり長さ五間あり　神明社　天神社　祇園社　白山社　山王社　大明神社　天王社八幡社　ハ社ともに村人まつれり　芳春寺　ハ河北山といひて臨濟宗酒倉村長藏寺の末寺なり

賀茂野村　ハ大針の北にありて蜂屋庄と云　尾張御領　御旗本領とも　二百十二石二斗　名古屋まで九里あり　賀茂野ハ三野　の一所にて國號郡號の起れる本郷なり今猶原野廣く數里にわたれるをかも野といふ　盆石　ハ原野のうちにありて地中より堀出す形狀をひとしく草木を植てよく水を揚げて育つ故世人盆に居て愛翫すゝべてうぬいしと呼べり　住吉大明神社　貴船大明神社　ともに村人まつれり　瑞雲寺廢跡　ハ賀茂野原のうちにありむかしハ伽藍嚴重なりしか乱世に廢れたるよしいひつたへ本尊木像阿彌陀の首ばかり殘りて今住吉の社のうちに藏む誠に古佛なり

鷹巢村　ハ市橋の東にありて鷹巢庄といふ　尾張御領　三百五十三石六斗　名古屋まで九里あり　諏訪明神社　ハ村内にあり　明淳寺　ハ淨土眞宗京都西本願寺の直末寺なり

瀧田村　ハ鷹巢の北にありて　御料　五百三十六石五斗六升八合　の地なり

大山村、ハ瀧田の北にあり　御料　四百三十九石一斗二升三合、延喜神名式　に賀茂郡大山神社とみへ　美濃國神名記　に從五位下大山明神とあるハこゝの神なり

絹丸村　ハ大山の東にありて　御料　百五十石三斗　の里なり長沼藤次兵衛ハ齋藤新五郎か家人なりしか新五郎京都にて戰死の後岐阜中納言に隨ひ漸絹丸百五十石を領し捨堀の屋敷に在りて新五郎の二子新五郎市郎左衛門を養育し秀信に奉公させしか慶長五年に藤次兵衛八十余歳にて討死す新五郎市郎左衛門も池田三左衛門の手の者と戰ひ疵を蒙りしか關村梅龍寺に退

さ平愈しけれは池田家に召されて彼家に仕へしよし　堂洞軍記　にみえたり

羽生(ハニフ)村　は瀧田の南にあり　和名類聚抄　に賀茂郡　埴生(ハニフ)とある舊郷あり　御旗本領　八百九十五石六升　古戰場は　安土創業錄　に永祿六年蜂屋堂ヶ洞の城主岸勘解由を攻むとて其勢一万五千にて羽生野に打出てらる勘解由か嫡子孫四郎も其勢三千計りにて堂ヶ洞を出て羽生野に至り九月廿八日辰刻より午刻迄相戰岸孫四郎戰ひに利なく堂洞へ引入けりとみえたり

今泉村　は羽生の南にあり　御料　御旗本領とも　六百二十五石四斗

木野(コノ)村　は今泉の東にあり　御料　二百三十九石四升

太田(オホタ)村　は深田の東にありて中山道宿驛なり　京の方鵜沼宿へも　江戸の方伏見宿へもともに二里の道程なり　尾張御領　千九百三十九石二斗三升　名古屋より九里あり　太田川　村の南を流る木曾川なり船渡しあり伏見宿又土田宿へゆく　承久記吾妻鏡等にいへる大井ノ渡りはこゝなるよし松平秀雲いへり　官舍　は名古屋より出張の　御代官役所なりまた　川並番所　は圓城寺奉行の下役こゝに居て木曾川の流材を改む　賀茂大明神社　は　延喜神名式　に賀茂郡縣主神社とあるし　美濃國神名記　に從三位縣主大神と見えたるはこゝなるよしいへり　新撰姓氏錄　に鴨(カモノ)縣主彦坐(ヒコヰマス)命之後也　と見ゆ

國造本紀　に三野前國造春日率川朝(開化天皇)皇子彦坐王子八瓜命定賜國造　とあるし　古事記　に日子坐王子神大根王亦名八瓜日子王三野國本巣國造之祖　とある彦坐命は鴨縣主の祖なれば加茂郡のうちにまつれるはもとよりさるべき事なりされど當郡のうち加茂野村蜂屋村等にも賀茂神社あれば何れを式社也とも今は定めかたししいらく　名細記　もくきね　濃陽志畧　等にこへの社を式社なりといへるにしたかひてかくしるすのみ社人は和田氏なり　若宮八幡社　天王社　小宮社　大明神社　太郎宮社　は　大寧寺　つかさどる　祐泉寺　は龍貞山といひて臨濟宗關村梅龍寺の末寺なり境内に觀音堂あり木曾川を見おろし絶景の地なり　萬尺寺　は惠呂山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺也　祥光寺　は慈雲山といひて臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺なり

下古井(シモコヒ)村　は太田の東にあり　尾張御領　御旗本領とも　七百六十六石六斗　濃陽志畧　に御領三百六石五斗四升三合とあり　名古屋より九里あり　牛頭天王社　八王子社　神明社　ともに村うちにあり　靈泉寺　は靑龍山といひて臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺なり

上古井(カミコヒ)村　は下古井の東にあり　尾張御領　六百二十石四斗六升　村高帳には五百六石八斗四升七合とあり　名古屋より十里あり枝村を森山川合といふ　天神社　神明社　八幡社　白山社　ともに里人まつれり　牛頭天王社　は上古井下古井の生土(ウブスナ)神と稱す攝社に　八幡祠　加茂祠

稲荷祠　山森祠　土官　等あり例祭六月十三日修驗　文殊院　掌る　禪隆寺　は龍溪山といひて臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺なり　牛鼻城趾　は　加治田城主齋藤新五郎が砦の跡と里民いひ傳へたり　堂洞軍記　に天正十年六月二日織田信長公事ありし時新五郎戰死したりしかばその叔父　肥田玄蕃加治田の城を守る　烏峯の城主　今の兼山なり　森勝藏加治田の城を攻取らむとして小山に砦をかまへ天正十年八月牛鼻の砦をたびやかしければ齋藤方の軍士等密に兵卒を此砦に出して援ひ森か軍をやぶりしよししるせり　花立崖　は飛驒川の岸にありむかし土岐氏の女子男子を産む事を願ひて小山の觀音に祈りけるか彼觀音堂川の中島にありて洪水の時は渉る事を得す松杉櫻等を枝を折て此きしに挿みて觀音に供し遙拜しければほどなく男兒をうめり其子成長て出家し道德の高僧となる蜂屋の瑞林寺の開山仁濟和尚これなりとて其さしはさみたる松杉櫻なと生活して繁茂す今其所を花立崖と呼べり

川合村　は上古井の枝鄉にて　同御領　二十九石九斗五升七合　名古屋より十里あり
木曾川と飛驒川とこゝにて落合ふ故川合と呼べり船渡りあり

森山村　も上古井の枝鄉にて　同御領　八十三石六斗五升六合　の地なり

蜂屋村　は羽生の東にありて富本庄といふされどもむかしは蜂屋庄といへり　吾妻鏡　に文治六年四月十九日の條に美濃國蜂屋庄成勝寺執行昌寛陳狀相二副之一云云　と見へ又建久六年十三月癸亥の條に千葉介常胤捧二款狀一云云稱レ有二由緒一望二申美濃國蜂屋庄一云云　功積曾不三思食二忘一但於二蜂屋庄一者故院御時依レ仰令レ停二止地頭職一之間今更申二請之一不レ能二宛賜一歟以二便宜之地一必可レ有二御許一之旨御返報被レ盡二委曲一云云　としるせり又名古屋　天王坊所藏の大般若經六十一卷の奧書　に美濃州賀茂郡蜂屋庄室田鄉安樂山等永禪寺常住勸進比丘長禪願主信重助緣島左近尉應永十七年庚寅正月十一日としるせり　上中下の三鄉にわかちて其地殊に廣く凡上蜂屋東西二十町南北四十町ばかり中蜂屋東西五十町南北二十町下蜂屋東西十四町南北一町ばかりあり　同御領　二千六百九十一石四斗一升五合　枝鄉伊瀨の高を合ては三千石　なり名古屋まで九里也枝村伊瀨は下蜂屋に屬たりしか近年別邑となる野知原は上蜂屋につき廣橋は中蜂屋に屬り　枝柹　は　濃陽志畧　に天下稱爲二名物一本艸綱目所謂白柹一名柹餅是也里民傳云文明中瑞林寺僧獻二之將軍義植公一其後豐臣太閤之時獻二之於伏見大坂一免二除傜役一以二柹餅百一充二租米一石二斗一其餘有レ差東照神祖ノ時大久保石見守撿二田地一以二上品柹一百一充二租米一石一元和中增二封張藩一此邑屬二于張藩一後依レ例獻レ柹以二上品柹一百一充二租米一石一至レ今有二製造家一賜レ俸年々爲二上供一云　と見へたり蜂屋がきと世にいちしるく其制法は釋敬雄（號金龍安八郡神戶人安永中寂博學著述多し）が蜂屋柹の詩に　剝レ皮曝レ日影參差　肌上薄霜味熟時　自レ是茶家高品物　嶺南休レ誇レ產二荔支一　と作れるがごとし其名のふるき事は　柹本系圖　に

蜂谷のみならすすへて美濃柹を賞する事ハ殊にふるく　明衡往來（明衡消息ともいふ）に献二上干柹一
右雖レ非二烏椑之味一已異二大鼻之類一幸被レ領二納一所レ美可レ足謹言三月十日　美濃守高階所給枝柹甘
レ於二蜜房一人丸之姓知レ有レ以矣況櫻鯛柳絲可レ具二春遊一三種物千金還輕謹言輙日御返事大學頭藤
原　と贈答の文をのせ同し明衡朝臣の著したる　新猿樂記　の諸國の土産の條に美濃八丈又
柹　と見えたりまた文祿三年卯月八日加賀の中納言殿に御成記（聚楽類従のうちにも印行す）の献立のうちにみの
柹（吊枝金たみて）とゑるせり　釣枝柹とも御所柹ともいふ乾ざる時廻り七八寸重さ百錢目ほとあるを上
品とす則江戸への御献上の品なり　新續犬筑波集　に蜂柹と云物を丁徳美濃加納　味ひハ
みつとやいはんはち屋柹　峰屋冠者頼俊　ハ　分脈系譜　に山縣二郎源頼清三男三郎頼
經子頼俊（蜂屋冠者）と見え　曾我記　の富士野の狩場にありし國々の諸侍をいへる條に美濃國の住
人には土岐三郎遠山二郎蜂屋冠者　とゑるし　承久記　の尾張河の合戰京方敗軍の條に大炊
の渡の京方破れ大勢己に打入と申ければ鵜沼の渡りに向ひたりける美濃目代帶刀左衛門尉口惜
き事哉と思て五十騎計にて馳來る中に隔たり七八度か程取て返し〱戰ひけれども其も終にハ
可レ叶も無りければ引退く美濃國住人蜂屋冠者も引退けるが信濃國住人伊豆次郎に被二組落一
て被レ討けり　とある蜂屋の冠者はこの人なり　隱岐孫太郎定親ハ　名細記　の原
氏系圖に土岐光貞男定親住二濃州蜂屋一と見え　土岐系圖　に隱岐守光定の五男隱岐孫太郎
定親號二鏡圓一母北條相摸守平貞時女也嘉元三年北條時村合戰討死二　と見えたり　蜂屋近江
守貞經ハ　土岐系圖　に隱岐定親の長男貞經蜂屋兵衛尉近江守賀茂郡蜂屋住ニス　と見えたり
園太曆　の文和二年四月十日の記に土岐家人原蜂屋等云云　と見えたるハこれなるべし
蜂屋近江守貞秀ハ　土岐系圖　に貞經の長男なるよし見えたり　蜂屋修理大夫
光經　ハ貞經の三男にて尾張の蟠頭城主なるよしゑるせり　蜂屋兵部少輔光房　ハ光經
男にて兵庫とも名のる　蜂屋藏人康光ハ光房の子なるよし同し系圖に見えたり　鍛冶達
摩正光（永和の頃蜂屋に住す）　延光（文安の頃蜂屋に住す同銘代〱あり）　と　古刀銘盡　に見えたり　加茂明
神社　ハ俗に蜂屋加茂といふ美濃國　神名記　に從五位下加茂明神　とあるハこれなるよ
しいへり社人栗本氏　天王社　白山社　稻荷社　天神社　の五社ハ上蜂屋にあり　神
明二社　白山二社　權現二社　諏訪明神社　天神社　ともに中蜂屋にあり　神
明社　白山社　八幡社　ハ下蜂屋にあり　東泉寺　ハ高木山といひて臨濟宗加治田龍
福寺の末寺なり　小野寺　ハ東嶺山といひて臨濟宗中蜂屋の瑞林寺の末寺なりむかし小野小
町年老ひてのちこゝに居りし故名づく境内の觀音堂の本尊ハ小町の護身佛なりしよし寺僧いひ
傳へたり寺寳　竹布袈裟　ハ小町か縫ひしよしいひ傳へ布をもて作りたるが二十五條にて其
縫紐の形二十五竿竹に似たれば左か名づけしとぞ小町の老後にこのわたりにありし事古書に見

えす風土の說なり　願成寺　ハ梅花山といひて同じ宗中蜂屋の瑞林寺の末寺なり以上三ヶ寺上蜂屋にあり　瑞林寺　ハ龍雲山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺也京都紫野の大德寺の仁濟和尙（名宗恕）ハ當國土岐氏の子なりしが永正元年此寺を創業し悟溪和尙を開山とすと寺傳にいへり齋藤利隆の制札ありて永正八年二月と見えたり　寺領十石　あり文明年中　𣏾と義植將軍に獻りしかハ　此寺領を賜ひし故世に𣏾寺と稱しけるか其後斷絕せしを元和年中岡田將監美濃撿地の時舊例に依て附與せしとぞ　塔頭　靈光院大梅寺惠日山と號す大興寺ハ萬年山と號す　中蜂屋にあり

梅本寺　ハ乾德山といひて眞言宗吉田村金剛院の末寺也下蜂屋にあり　淨明寺　ハ淨土眞宗西派岐阜の願誓寺の末寺也　堂洞古城　ハ　濃陽志畧　に永祿中岸勘解由居レ此拔ニ堂洞合戰記傳ニ于世一其畧云永祿八年丑八月織田信長發ニ于濃州一使ニ金森五郎八說ニ勘解由一曰岸氏父子豪傑之士也請レ降當ニ大用一勘解由謝曰某與ニ關城永井隼人正一有レ約守レ城而今不レ可レ負召ニ其子孫四郎一問ニ其意一孫四郎携ニ其小弟二人一出レ席立斬ニ其首一以報云決レ意如レ此願受ニ大軍一以死レ之金森回報信長垂レ涙深惜レ之前レ是勘解由養ニ佐藤紀伊守女ニ以爲レ子紀州降ニ於信長一是夜殺ニ其女一以レ竹串レ之立ニ於城下長尾山一以絕レ之翌日信長遣レ兵攻レ城岸父子拒戰甚力孫四郎先戰死勘解由隕レ涙其妻大笑曰是武夫之常也何足ニ哀戚一即詠歌夫婦縱レ火自殺而城陷矣至レ今陰雨夜山上見ニ燐火一其糧倉址有ニ燒米一爲レ石有下拾ニ得之一者上水服ニ一粒一截レ瘧可レ謂レ靈矣　と見えたり本書堂洞軍記　文義つたなく〳〵たく〳〵しければこゝに志畧に引所のみを志るす　ぐはしくハ彼軍紀と合せ見るへし

伊瀨村　ハ蜂屋の枝鄕にて同し　御領　三百五十石　の地なり　山王社　住吉明神社　八幡社　ともに村民まつれり　巢雲院　ハ神護山といひて臨濟宗中蜂屋の瑞林寺の末寺なり　（因果物語に濃州八屋と云所に正保の頃快說といふ關山派の禪僧ありしかかれが僻見にて禪敎になき邪義を人にすゝめ佛ハ我心にありて外になしとたてゝ是を悟りとし神木を切佛像を破却しなとしけるが此僧死して惡業に感し火車來りて死骸をつかみ去りしよし志るしたるハ何れの寺の住僧か尋ぬへし）

夕田村　ハ蜂屋の北にあり　御旗本領　四百四十一石四斗六升　延喜神名式　に賀茂郡佐久太神社　と見え　美濃國神名記　に從五位下佐久田明神　とあるはこゝなるへし此村今ハさくだともせきだとも稱せずゆふだと喚べり

加治田村　ハ小牧の東にあり　御旗本領　六百石　伊祉明神社　（古き獅子ありて銘に文應元年と見えたり）　白髭明神社　葛明神社　若御子社　（葛明神の御子なりといふ）　共に村うちにあり　清水寺　ハ眞言宗にて白華山と號す境內に音羽の瀧などありて京都の淸水寺の如し本尊十一面觀音ハ行基の作にて當國三十三所の廿六番に配す脇立ハ毘沙門地藏なり　龍福寺　ハ臨濟宗關山派京都妙心寺の末寺なり　直紙　半紙　鼻紙　の類をすく美濃の紙を古書にのせたるを大野郡武義郡の諸村の條にしるす合せ見るべし　橫川和尙の　東遊集　に謝ニ濃牋之惠一　破衾補紙

洒二籬邊一滿地梨花蝶夢閑　栩國有レ餘吾避レ乱　風塵無レ力試二龍泉一とある濃陂は美濃紙にて禪僧の賞美せしは此あたりにてすきし紙なるべし當郡は關山國師の出し地にてかの宗の寺も殊に多ければなり　古城趾　は　佐藤紀伊守　が居城なりしが永祿のはじめ紀伊守信長公に屬して幕下となる　織田眞紀　に永祿四年六月末公信長公なり渡二飛驒川一侵二入濃州一云云加治田邑有レ城佐藤紀伊守息右近右衛門戍レ之使三崖良澤納二款於公一願レ爲二幕下一公大喜給二黄金五十枚一以爲二糧資一と見へたり　齋藤新五郎利宣　は齋藤八郎左衛門利直の子なりしが永祿八年信長公の命により紀伊守か養子となり當城に居る織田軍記には讒與の弟新五郎と見へたり　天正十年六月二日公と共に京都にて戰死すその子齋藤齋宮は岐阜中納言秀信卿に仕へて小性なりしか慶長五年の合戰岐阜落城の時達摩中務武藤助十郎と共に白甚にのがれ出女の姿にやつして長良川を渡り北山の方に退きしよし　百葉根　に玄るせり其子孫松平大和守直基に仕へしとそ　堂洞軍記　には新五郎男子二人兄新五郎弟市郎左衛門ともに長沼藤治兵衛が計ひにて岐阜中納言殿に仕へしか慶長五年の合戰に池田三左衛門の內の者と渡り合鎗疵を蒙り家來か肩にかけ關の梅龍寺へ退き疵本復の後池田家に召出され高知を拜領せしよし玄るせり　古戰場　は永祿七年甲子八月廿九日關の城主長井隼人佐加治田の城を攻るよし聞へければ信長公より佐藤へ加勢として齋藤新五郎を遣はされければ紀伊守父子嫡子は右近右衛門なり力を得弓鉄炮の足輕を先立都合一千余騎にて待かけたり寄手隼人佐も多くの人數を卒ひて絹丸口へ押寄せ戰ひけるが右近右衛門關勢の矢先に中て討死しければ新五郎力をはげまし横鎗に突蒐り終に關勢を追散らし肥田瀨川迄追詰め高名をそしたりける扨其賞として信長公より新五郎に腰物を賜ひしとぞ新五郎紀伊守等關の城を攻墮さむとて信長公へ加勢を乞ひければ公大軍を差越され加治田勢と一手になり關の城の三方を取圍み攻槊げれは城主長井隼人佐防きかねて城を明て引退關の城も信長公の手に入りぬさて新五郎を紀伊守か養子となし給ひ永祿十丁卯年新五郎に當城を讓り紀伊守は伊深村に屋敷を搆へて閑居す紀伊守天正六年三月廿九日病死しければ龍福寺に葬りしとそ其のち又天正十年六月當城主齋藤新五郎京都にて戰死しければ新五郎か母方の伯父の肥田玄蕃當城の留主居にてありしを兼山烏ケ峯の城主森勝藏長一のち武藏守加治田を攻取らむとて小山の砦へ人數を出しける牛ケ鼻の留守居より其由を告しかば玄蕃大に驚きさらは防むとて一族の勇士を催し百五十余騎夜にまきれ牛ケ鼻の砦に忍はせたり扨森方夜討をしかけけれと玄蕃方兼て期したる事なれは弓鐵炮を放ちかけはけしく戰ひけるに森か勢うちまけ兼山へ引退く勝藏怒りて大勢を催し加治田へ攻寄せ堂ケ洞の峯にかけ登りたり玄蕃下知して侍大將數人をわけて西大手の搦掘北山の手南大手等三方の口々を堅めさせ大將玄蕃は東口にひかへたり森方惣人數一手になりて南口に向ひければ其口を堅めたる長沼三德同源次兵衛防戰ひけるか既に危く見えければ玄蕃藪影より横鎗にて突立さ

せける玄蕃方の直井太郎左衛門と森方の眞屋新助と組打してついに新助を討取りぬ諸方の口を堅めたる者とも裏山を忍ひて上の屋敷へ乗越大門を開き七百余騎にて兼山勢を取巻かり立けれハ戰ひまけて勝藏引退兼山さして迯延ひけり落合右衛門取て皈して討死しける森方にハ五十一人討死し玄蕃方にも四十人戰死したりしよし堂洞軍記にしるせり　金山記名細記　等にしるせるも同しさまにて少しつゝ異同あり

伊深村　ハ加治田の東にあり　和名抄　に武藝郡揖可とあるハこゝなり此村武義郡のさかひにあり　南都東大寺所藏の天平勝寶二年四月廿四日の美濃國司解文に奴豊麿二十年右牟義郡揖可郷戸主武義造宮之賤とあるもこゝなるへし又　吾妻鏡　に弘長三年八月廿五日春日部左衛門三郎泰賓被レ召ニ放美濃國指深庄地頭職一是當庄沙汰人地頭有ニ非法一之由就レ訴ニ申六波羅一雖レ下ニ召文一泰賓不レ應レ之仍註ニ進其趣一之間及ニ此儀一云云　としるせる指深庄ハ揖深の誤字なるへし

尾張御領　御旗本佐藤氏領とも　千三百八十一石一斗八升　御領ハ七十一石一斗八升と濃陽志畧に見えたり　佐藤勘右衛門ハ佐藤紀伊守の一族にて森家に屬し金山の一柳に寓居し駿河守堅成と名乗る文祿二年秀吉公伏見の城を築かれし時石田三成に命して普請奉行に可レ然士を定めらる駿河守其内の一人とかや其頃より當村を領す堅成の嫡子勘右衛門忠成家を嗣て猶一柳に住す忠成男子なかりけれハ須原權現に祈りて嗣子を授りまふく是を駿河守吉次と云御旗本となりて元和年中より江戸に住す忠成死去し當村關山に葬り其妻も同地に葬る遺言により金山の一柳より柳を取よせ墓印に植しよし金山記にいへり忠成の妻ハ一柳五郎四郎の女也　名古屋より十二里あり

禪德寺　ハ臨濟宗京都妙心寺の末寺なり當寺に祖師關山國師の笈あり　正眼寺　ハ伊深山の麓にありて關山と號し臨濟宗京都妙心寺より輪番持なり開山關山國師ハ京都妙心寺をも開基し世に高名の大德なれハ後花園天皇當寺に勅使を下し給ひしといふ塔頭四院ありて　總光庵　不二庵　大機庵　見枕庵　といふ

廿屋村　ハ伊深の東北にありて　御料　二百石三斗五升　の地なり

川浦村　ハ廿屋の東南にあり　尾張御領　百九十石二斗五升　名古屋まで十二里あり

箭括嶽　神淵麻生川浦の三ヶ村に跨る高山なり　白倉大明神社　天神社　白山權現社　貴船大明神社　若宮八幡社　ともに村内にあり

鹿塩村　ハ川浦の南の方にあり　御料　三百七十四石一斗六升　溫泉　ハ諸病によし湯やハらかにてはげしからず他國よりも湯治に來る人多し

本地村　ハ蜂屋の東南にありて山之上八ヶ村の本地なり山之上ハ一鄕にて東西二十町南北五十町余の廣地なり今八ヶ村にわかれたり　尾張御領　二百四十四石四斗二升九合　山之上八村の惣高ハ濃陽志畧に千五百六十三石七斗七升と見えたり　名古屋まで十里あり　富士峯　ハ獨立して高く頂に神社あ

り　高木峯　ハ富士峯の南にありてこれも秀峻なり　富士權現社　ハ富士峯の嶺にあり
て山之上八村の生土神とす　貴船大明神社　神明社　加茂大明神社　ともに村民ま
つれり
佐口村　ハ本地の北にありて山之上のうち也　尾張御領　三百五十二石九斗一升四
合　名古屋より十里あり　春日大明神社　白山權現社　山王社　神明社　ともに
村内にあり　普門寺　ハ大圓山といひて臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺あり境内に觀音堂あり
中之番村　ハ佐口の東にありて山之上八村のうち也　尾張御領　三百二十五石二斗八
升六合　名古屋まて十里あり　虚空藏峯　ハ寶珠山ともいふ　十二社權現社　天王
社　白山權現社　ともに村人祀れり　賑濟寺　ハ寶珠山と號し曹洞宗上保村滿願寺の末
寺なりもと虚空藏堂なりしをのちに寺とす虚空藏峯ハ當寺の境地なり
金屋村　ハ中之番の東にありて山之上のうち也　尾張御領　百九十石六斗五升三合
名古屋まて十里あり　天王社　山王社　ともに村うちにあり
端畑村　ハ金屋の北にありて山之上のうち也　尾張御領　四十二石七斗二升四合
名古屋より十里半あり　神明社　ハ村うちにあり
野地原村　ハ端畑の北にありて山之上八村のうちなり　尾張御領　三十五石九斗一升六

合　名古屋より十一里あり　天王社　ハ村内にあり
南坂村　ハ佐口中之番の北にありて山之上のうちなり　尾張御領　百八十九石八斗二
合　名古屋へ十里半あり　白髭大明神社　ハ村民まつる
西洞村　端畑の西にありて山之上八ヶ村のうちなり　尾張御領　百八十一石三斗二升
三合　名古屋より十里半あり　天王社　村うちにあり　西禪寺　ハ雲龍山といひて臨濟
宗蜂屋村瑞林寺の末寺なり
下河邊村　ハ山之上の東にありむかしハ下河邊上河邊一村にてありしなるへし　御料　五百
一石三斗　の地なり
杤井村　ハ下河邊の東にありてその枝村なり此邊に杤井三村ありてこゝと中之番枝村と川東尾張
御領の杤井村と三所とも地つらなれりもとハ一村にてありしなるへし　御料　百九十四
石二斗二升
中之番村　ハ尾張御領山之上の中之番の東にあり　御旗本大島雲八領　八百四十七石九斗四
升五合
杤井村　ハ中之番の枝村にて本郷の南に並へり是を東杤井といひ下河邊の枝村を西杤井といふ
同領　四百九石四升七合六勺

上河邊村（カミカハベ） は山之上の端畑金屋の東にあり 和名類聚抄 に賀茂郡川邊と見え 享德元年十一月廿七日左衞門尉利成の細目村善恵寺の寄進狀に河邊庄長夫錢事云云 と見えたり 御料 六百四十五石八斗七升 道塚 孝經樓漫筆 に元祿九年の秋濃州加茂郡上河部村道塚といふ所に大なる塚ありし一旦崩れて內に甕あり青玉の管一寸余なる數百餘いづ土人わけ取りたり云云 とゑるせり

石神村（イシカミ） は上河邊の南にあり 御料 五百八十五石九斗

下麻生村（シモアソフ） は上河邊の北の方武儀郡の堺にあり（上麻生は武儀郡につけり） 飛騨川に臨みて舟筏往來し諸（モロ〳〵）の貨物出入し商家殷阜なり 尾張御領 三百三石六斗九升 官舍 濃陽志畧に頃年尾州府吏交替監（メス）レ稅近時不レ置レ吏只存ニ官舍一亭長鑒（メ）臨毎歲納ニ稅金一 箭括嶽 は川浦麻生神淵の三鄉に跨る 飛騨川 は上麻生より流れ來て古井の方に至る 土產 は 胡蘿蔔 根ふとく色味殊によし 蒟蒻 尾張の犬山にてこんにやくにつくるいもは多く此邊の村々より送る本草正譌に蒟蒻和漢專ら食品に用ゆ石灰にて毒を制す尾濃の地多く栽種す としるせり 縣大明神社 諏訪明神社 大將軍社 白山權現社 辨才天社 共に村人まつれり 麻生寺 は水月塲といひて眞言宗京都聖護院の末寺なり本尊如意輪觀音の立像は安阿彌の作にて當國三十三所の二十七番に配す外（ホカ）に西國三十三所の觀音を安置し其外堂內に佛像多し 臨川寺 は龍雲山と號し臨濟宗細目村大仙寺の末寺なり 大雄寺 は臨濟宗細目村大仙寺の末寺也 古城跡 は里民のつたへに稻葉某の砦の墟といふ遠見山と喚ひて風景よし

樫原村（カシハラ） は飛騨川を隔て上麻生の東にあり上吉田四鄉のうちの本鄉にて米田庄といふ 尾張御領 百五石三斗七升六合 濃陽志畧に上吉田二百十二石九斗二升四合 とあるは四鄉を束ねたる高なり 名古屋まで十三里あり 飛騨川 殊に狹き所を餓鬼咽といひ又巨岩重（カサナ）りたる所を隔巖と名つく其河岸殊に險岨なり武儀郡上麻生の條にもいへり 神明社 白山社 ともに村うちにあり 虛空藏堂 神明社 の邊（ホトリ）にあり

讓葉村（ユヅリハ） は樫原の東にありて上吉田四村のうち米田庄といふ 尾張御領 二十三石五斗二升七合 名古屋へ十三里あり 星權現社 村うちにあり

嶽村（タケ） は讓葉の北にありて上吉田のうち米田庄なり 尾張御領 五十七石三斗八升一合 名古屋まで十三里あり

平村（タイラ） は樫原の北にありて米田庄上吉田四鄉の內也 尾張御領 二十六石六斗四升 名古屋より十三里あり 神明社 は村民まつれり

下吉田村（シモヨシダ） は上吉田の西南にありて米田庄といふ 尾張御領 百九十三石三斗 名古屋へ十二里あり 下吉田渡 は飛騨川の舟渡り下麻生村に至る舟子當村にあるゆゑ下吉田の

渡しといふ　星權現社　ハ攝社に、　村神祠　天神祠　あり又　虛空藏堂　あり、　天王社　南宮社　大明神社　ともに村民まつれり　常禪寺　ハ慶用山といひて臨濟宗比久見村妙樂寺の末寺なり

比久見村(ヒグミ)

ハ下吉田の南にありて米田庄なり　尾張御領　五百十四石三斗五升　名古屋まて十一里あり　天王社　白山社　神明社　明神社　大將軍社　ともに村うちにあり　生蓮寺　ハ水月塲といひて眞言宗京都聖護院の末寺也本尊十一面觀音ハ當國三十三所の二十八番に配す美濃國三十三所觀音順禮記に堂內に桑の木の枯(カレ)ほだにて岩組を拵へ谷〳〵に西國三十三躰の佛像を安置す前に三重の石の塔ありとゑるせり　妙樂寺　ハ法昌山といひて臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺なり夢窓國師の開基といひ傳へ境內に國師の座禪石あり其のち關山派となる豐臣秀吉公境內除地の　朱印狀　ありて今に所持す　塔頭一宇　慈眼菴　といふ　龍洞寺　ハ虎休山と號し臨濟宗上有知村清泰寺の末寺なり　天文年中肥田玄蕃允の草創なり玄蕃天正十壬午年七月十九日死去法名一樞機公禪定門の塔位牌あり　其父祖　肥田義甫法名龍洞寺殿元通法輪禪定門天文十二年三月十一日　其室千山孤峯禪定尼永祿元年十二月十二日死去其菩提の爲に建立ありし也肥田氏の遺物當寺の什寶にのこれり　善教寺　ハ淨土眞宗京都西本願寺の直末寺なり　高師直城跡　ハ山中妙樂寺の遺跡近きあたりにあり此山ハ半ハ

飯田村に屬けり　祇園執行日記　に貞和六年庚寅七月廿六日濃州御敵責ニ來近江堺山中宿邊ニ之間洛中騷動云云廿八日今曉寅刻鎌倉左馬頭殿並執事高武州發ニ向濃州一云云八月十八日鎌倉左馬頭殿自ニ濃州一御上洛云云執事武州其勢不レ知ニ其數一生ニ捕大將周勢土岐殿(兵庫入道存子)一云云　と見えて高武藏守當國に下り武功ありしよしハゑるしたれど此あたりの城に住(ミ)し事ハ古書に見えす只里考のつたへのみなれど武藏守師直また其弟越後守師泰か事蹟往々當國にあればこゝを居城とせし事もありし成べし　內記宅趾　ハ福島村の堺にあり內記ハ肥田氏の家人なりしといひつたへたれど其姓氏をも傳へうしなひて今定かに知られす

福島村

ハ比久見の南にありて米田庄の本鄕なり　和名類聚抄　に賀茂郡米田とあるハこゝなるへし　尾張御領　三百五十石九斗三升六合　名古屋まて十一里あり　加茂山　は一名を愛宕嶺といふ山上にかの社ある故也北の麓ハ比久見村につけり　山茶渡(ツバキノ)　ハ飛驒川の船渡し當所より河邊に至る(もと河岸につばきの樹多くありし故しか名つけしとぞ)　加茂大明神社　愛宕社　ともに村人まつる　肥田玄蕃允直勝忠政家譜城跡ハ加茂山の下にありて今田圃となる山上にも守城のあとあり隍壘の形のこれり玄蕃ハ土岐氏の一族にて父杢之助忠勝の時より米田の城主にて三千貫を領す子孫御旗本また名古屋の長臣となる　玄蕃ハ金山の森武藏守と不和にして度々合戰し天正十年加治田の城にて病死せしよし　金山記　に見えたり　家系また同氏の人〳〵の事く

はしく土岐郡肥田村の條にしるす合せ見るへし　美濃源氏の福島三郎國親福島五郎國基等ハ大野郡の福島村の人なるへけれハこゝにハしるさず

枡井村　ハ福島の南西にありて米田庄といふ　尾張御領　二百五十四石六斗四升　名古屋まで十里あり　飛騨川船渡ハ河邊の枝邑枡井にわたす舟越なりともに同名の村にてたがひに彼方をさして向枡井と呼べり　天神社　ハ村内にあり

西脇村　ハ枡井の南にありて米田庄なり　同御領　四百五十四石七斗一升　村高帳にハ一升を一合とす　名古屋へ十里あり　神明社　二ケ所にあり　天王社　貴船社　天神社　ともに村民まつれり　光徳寺　ハ龍淵山と號し臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺なり　安養寺　ハ片社山と號して修驗道守る境内の藥師堂ハ行基法師彫刻の像を安置す

小山村　ハ西脇の南にありて米田庄なり　和名類聚抄　に賀茂郡小山とある舊地にて南都の東大寺にある天平勝寶二年二月廿四日の　美濃國司ノ解文　に奴益羽年十五右加茂郡小山郷戸主上連稻實之賤と見えたり　尾張御領　百七十石一斗八升六合　名古屋まで十里あり　木曾川　ハこゝにて　飛騨川　と落合川巾廣くなる　小山縣神社　ハ　美濃國神名記　に加茂郡從五位下小山縣明神　と見えたれど今此村にハさる社なく隣邑今村に縣明神とて鎭り座せり　小山寺　ハ仁慈山といひて臨濟宗西脇村光德寺の末寺なり　觀音堂　ハ木曾川飛騨川落合の處川中の小島にありて小山寺の扣也高さ十二間半斗りの島の岩石そびえたちたる上にて鎭守天王社鐘樓なども立たれは風景殊にすぐれたり本尊ハ馬頭觀音脇立ハ毘沙門天將軍地藏也當國三十三觀音の廿九番に配し參詣の人多し中むかしの兵火にてもとの堂ハやけしをのちに今の堂また本尊を再建せしとぞ森武藏守長可牛鼻砦をせめし時兵士此堂に詣しを牛鼻の軍兵河を隔て鉄炮をこゝに放ちしが雨の降か如くなりしかとも森か士卒事故なかりしよしいひ傳へ又土岐氏女嗣子を此觀音にいのりし事など傳説多き古刹なり　新續犬筑波集万治三年季吟撰　美濃小山を見侍て安弘美濃　きり雨にをやまはかくれみの路かな　濃陽志畧　に二月初午日遠近里民詣ニ此堂一寺僧製ニ粉餌一形若レ繭里民請レ之歸供ニ蚕神一明年倍ニ其數一供レ佛毎年若レ此　と見えたり俗に團子祭と云

則光村　ハ西脇の東にありすべて人の實名をよべる村〱はむかしさる人の名田とて則光名則武名などいひしがのちに村名となりし也　御料　御旗本領とも　二百六十八石九斗二升五合

今村　ハ則光の南にありて米田庄といふ　尾張御領　三百七石一斗八升七合　名古屋より十里半あり　白山嶺　ハ村の東にあり　馬串山　ハ村の東南にありて牧野の地と接れり　濃陽志畧　に傳云森武藏守長可居ニ烏峯城一時肥田玄蕃領ニ米田一在ニ加茂山城一長可遣

レ使欲下請二馬串山一爲中別莊上玄番不レ允長可怒攻二加茂山城一拔レ之取二馬串山一築レ砦名曰二小山砦一此山巨岩瑰奇不レ可二名狀一 と見えたり 縣明神社 は小山今村二所の民本土神(ウブスナ)とすされは美濃國神名記 にのせたるに小山縣明神はこの社なるべし 小山砦趾 は馬串山にありて土居などの形のこれりむかしは今村も牧野も小山のうちなりし故小山のとりでとよびしなるべし

牧野(マキノ)村 は小山の東にありて米田庄なり今上下分けて二郷とす 尾張御領 四百六十四石六斗四升八合 濃陽志畧に六百七十九石二斗一升二合とあるは枝村上牧野を合せたる高なり 名古屋まで十里あり 箱巖 は原野のうちにありて獨立したる其形盆石のごとく奇觀なり 鍛冶井 は松林の中にありむかし小山といひし鍛冶がすみし趾にて今も地中に鉄屎多くあり 鍛冶吉廣 同吉長 ともに小山と號す 同長廣 は兼光が子にて小山と號し寛正の頃赤坂に住し又小山にもすめりともに古刀鑑に見えたり 白山社 神明社 八幡社 天王社 ともに村内にありて松林寺掌る 松林寺 は牧尾山と號し眞言宗山城醍醐の報恩院の末寺なり

上牧野村 は牧野の枝村なりもとの名兼行といひしをのち上牧野と改む美濃鍛冶(カヌチ)兼行がすみし地なる故兼行村といひしなるへし 同御領 二百十四石五斗六升四合

和知(ワチ)村 は牧野の東にありて米田庄といふ 尾張御領 千六百五十一石九斗五升 濃陽志畧に千七百九十石四斗八升八合とあるは枝郷船頭村を合せたる高なり 名古屋まで十一里あり枝邑三所ありて船頭(あるひは下渡といふ)中山洞 といふ 木曾川船渡は可兒郡兼山にわたる 城山 は村中にあり岩石屹立(ソバダチ)たりいかなる人のすみしか今定かならず 八幡社 は修驗まもる 八幡社 貴船明神社 八劔社 神明社 二所にあり 愛宕社 白山社 天王社 十二社權現社 村木明神社 白山社 ともに村人まつる 花藏寺 は正覺山といひて臨濟宗細目村大仙寺の末寺なり 長康庵 は萬年山と號し細目村大仙寺の末寺也 等覺寺 は淨土眞宗京都東本願寺の直末なり

船頭(センドウ)村 は和知の枝郷 同御領 百三十八石五斗三升八合 の地なり

信友(シノトモ)村 は和知の西にありて米田庄也 尾張御領 二百七十五石三斗三升四合 名古屋まで十一里あり枝邑一所ありて中山といふ 太平山 は村の東南にあり峯に男岩といふ大石獨立したるか見事なり 羽掛大明神社 は遍照院掌る 天神社 二所あり 村民まつれり 遍照院 は光明山等覺寺と號し眞言宗紀伊國高野山遍照光院の末寺なり

爲岡(タメヲカ)村 は信友の西にありて 御旗本領 百九十三石四升 の里なり

山本村 は信友の北東にあり 御旗本領 二百二十六石一斗三升

下飯田(イヒダ)村 は山本の北にありて米田庄なり 尾張御領 二百六十三石二斗四升 名古屋まで十一里あり 天神社 縣明神社 ともに村内にあり

上飯田村　は下飯田の北にありて米田庄といふ　尾張御領　三百七十四石九斗七升六合　名古屋まで十一里あり　神明社　天王社　八龍社　天神社　縣明神社　ともに村民まつるその外　荒神社　神宮社　ありしか今は廢れたり　正宗寺　は曹源山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺也むかしは伽藍の巨刹にて開山は本如實性禪師なり禪師は明應九年庚申三月寂す山上に座禪石あり西浦和尚堂宇を營構ふ其辭世偈　熱喝嗔拳　五十五年　末後一句　鑑在機前　その後廢絶したりしを梅乾和尚中興し西尾氏を檀越とせしよし寺傳にいへり西尾氏の子孫は名古屋に仕ふ　塔頭三宇　瑞光軒　聽松軒　枝玉軒　といふ　むかし長慶玉龍獻興藏六西嶺西揆德林南花久昌恣足等の軒ありしか今は皆廢す　觀音堂　むかしは延福寺といひしか廢れて今此一堂のみ殘れり　古城墟　は比久見擬山にありて高師泰の城といひ傳ふ城跡比久見の妙樂寺の境地にかゝりたれと全く飯田の地なり樵夫たまたま鏃などを拾ひ得る事ありされと師泰此あたりに住し事古書に見えす　西尾氏宅跡　西尾喜兵衛たなしく文祿代々當村を領し東照宮に仕へ奉りて醫師となるのち源敬公に附屬し子孫今に到るまで名古屋に仕ふ

野上村　は和知の東にありて米田莊なり　享德元年十一月廿七日細目の善惠寺へ左衛門尉利成の寄進狀に野上鄕年貢之內大糸代拾貳貫文云云　と見へたり　尾張御領　九百四十四石七升五合　名古屋より十一里あり　高橋　は細目村の堺なる溪川にわたす長六間あり　白山社　石神社　白鬚明神社　天神社　神明社　ともに村民まつれり　稻荷社　は只杉の古木一もとあるのみ　正傳寺　は法雲山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　慶長九年當所の領主稻葉右近方通創建して惟天和尚を開山とえたりしよし寺傳にいへり　塔頭二宇　ありて　隨流軒　石泉庵　といふ　後醍醐天皇の皇子めうふく院の宮伊勢より美濃にのかれましくくける時笠木の權現に詣て給ふ奥戸の邊に御所だいら又內裏屋敷なと稱する地名殘れり宮の侍今峯又太郎細目にて討死す今峯塚是なり又太郎が妻牧野にて自害せしとて塚有其時の歌に　まきの戸をほそめに明けてなかむれは云云　又太郎弟今峯次郎は田立にて討死す塚野の地是なり宮は坂下村へ落ち給ひ士卒淵を隔てたゝかひし矢淵はた淵等名は其時より呼ひそめし宮はそこにてとられさせ給ひしと里人いひ傳へしよし　靑栗園隨筆　にいへり

今峯夫人墓　は村の東北の田の中にあり　濃陽志畧に一培塿有枯井一株耗耘者若犯之則患瘧懼不敢伐里老云昔有今峯氏居牧野村其夫人詠和歌云槇乃戸乎細目爾明而眺者今峯出留月曾懸支按今峯氏土岐庶流是貞女墓夫之辭故其遺靈有若此歟　と見へたり今峯氏の事は此次の細目の柳澤村の條と厚見郡今嶺村のくだりとにくはしくしるす合せ見るべし　稻葉右近宅跡　は木曾川の岸にあり右近子孫の家斷絶の後廢地となりしを享保年中正傳寺の僧官に請ひて　觀音堂　を移し建る隍壘の形今にのこれり　濃陽志畧　に右近方通稻葉伊豫守

通朝第三子也通朝剃髪名二一鐵一最有二武名一其嫡子右京亮貞通關原之役歸レ順有レ功以二其庇恩一徴二方通一賜二細目和知野上久田見諸邑一附二屬我張藩一建二第宅於茲一矣方通子曰二主計知通一致仕號二仙齋一特賜二千石一其子右近正通繼二家督一食邑如レ故卒後其子右近良通繼二遺領一卒後無レ子命以二知通外孫屋通一爲レ嗣賜二食邑千石一尋卒無レ子家滅 と見え 名細記 の稲葉系圖には右近大夫方通仕二秀吉一安八郡西保城居レ之天平十八年移二賀茂郡和知一仕二家康公一依二台命一仕二尾張義直卿一寛永十七年卒葬二細目村大泉寺一 とゑるせり傾城坂は村の西にあり

細目村 は野上の東にありて米田莊なり 尾張御領 四百六十五石八斗一升八合

濃陽志畧に八百石二斗七升九合とあるは枝村を合せたる高なり 名古屋まで十二里枝邑を 黒瀬 蘆渡 大廻間 鯉居 油皆渡 柚澤 北山 といふ 黒瀬は南北へ長き町屋なり北久田道につゞけり東の方に黒瀬裏町あり 大舟山 は村の北にありて殊に高くするどし 飯盛山 は枝郷北山にあり其形飯を装たるさまなればしか名づく 天永寺山 はむかし天永寺ありしゆゑしか呼びしか今寺は廢れて其名のみ殘れり 瓶破坂 は久田見村の方へゆく道なり甚險岨なる故かく名づけしとぞ 猫岩 は瓶破坂の前の嶺にあり孤松岩を抱きてたてるが見事也いかなる故にてかく名つけしか今は知られず 黒瀬ノ渡 は木曾川の舟渡し可兒郡伊岐津志村の方に至る 南の方に當岩といふありて其南に逆卷といふ淵あり川より南の方に入込めり 蘆ノ渡 は同し川の

舟渡し可兒郡錦織村に至る油皆ノ渡 も同し錦織村に渡る舟越なり 大船權現社 は修驗つかさどる例祭八月十五日車樂三輛を出す 熊野權現社 は黒瀬町の北にあり大陽軒つかさどる 軍神社 天神社 二所あり ともに芦渡にあり善惠寺守る 愛宕社 は東光寺つかさどる 神明社 二祠あり は大仙寺守る 八幡社 白山社 諏訪明神社 二所にあり 南宮社 八幡社 星宮社 河神社 二祠あり 天王社 ともに村民まつれり 春日社 は今廢社となる 大仙寺 は臨濟山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なりむかしは黒瀬にありて不二庵といひしを明應年中東陽英朝和尚今の寺號に改め永正元年甲子六月土岐美濃守政房制札をよせたり寛永年中稲葉右近今の地にうつし愚堂東寔和尚を中興開山とし五十一石の地と山林を寄附せしよし寺傳にいへり其のち瑞龍院殿舊貫のごとく寺領の證狀を賜ひて今に退轉なし塔頭と 臨江軒 聖壽院 春溪院 といふ 名細記 百聖根には輪向軒 松壽院の二字とす 東光寺 は大廻間にあり 醫王山と號し眞言宗紀州高野山成就院の末寺なり觀音堂あり 鳥羽天皇の天永年中六十余州に被レ立二天永寺一尾張の天永寺は春日井郡味鋺村護國院也 美濃の天永寺は 加茂郡細目村の東光寺也東光寺今は大渠村に在りと 青栗園隨筆 にいへり 南陽寺 は白崖山と號し臨濟宗當所大仙寺の末寺なり 大陽軒 も同し宗同寺の末寺なり 善惠寺 は解脱山と號し淨土宗西山派京都禪林寺光明寺の兩末寺なり後花園後土御門兩天皇の勅願にて西山の善惠國師

を開基とす文明五年常香衣の綸旨を賜ひて西山派七寺揔林の一寺なりしが今は廢衰して只古文
書のみのこれり　筆海（朝日氏が隨筆にて その自筆の本也）に當寺の古證文二通をかきのせたる左のとし
寄進右野上郷年貢之内大糸代拾貳貫文並河邊庄長夫錢事任月迄御寄進之旨重而令寄附善惠寺者
也萬一至二子々孫々一致二違乱煩一者永可レ爲二不孝者一就レ其彼大糸代雖レ有二領中或水旱風損或不熟
之時節一至二于此代一者猶不レ及二減少一可レ致二其沙汰一之狀如件　享德元年十一月廿七日　左衛門
尉利成　善惠寺方丈　また　御茶園の所寺內一町六段令寄進候相違有間敷之狀如件　天正三年
亥五月廿七日　直勝（判）　細目善惠寺　と見えたり直勝は肥田玄蕃允の實名也　今峯城跡　は
枝邑柚澤の南丸山にあり山上に古井ものこり又五輪石塔もたてり里老のつたえにむかし今峯氏
の居城のよしいへり今峯左馬頭氏光康安元年仁木義長に屬し伊勢の長野の城にありしが義を守
りて京方に降參せす和歌をよみて兄弟と義絶せしよし太平記にしるしたるは厚見郡の今嶺村の
住人なるべけれど一族も多ければ氏光はこゝにすみしにてもあるべし　土岐系圖　には彈正
少弼頼遠の子穗保修理亮氏光於細目討死と見えたり　新玉津島歌合（貞治六年三月廿三日）に今川
貞世につかひて土岐右馬頭散位從五位上源朝臣氏光の歌三首をのせたり其うち八十九番神祇
やはらくる光をそへて玉つしま神の宮ゐもみかくとそ見る　野上村に墓ありて和歌をよみしよ
しいひつたへたる今峯氏の妻室は此氏光の配遇かさあらは夫婦ともやさしき人〳〵なり猶厚見

郡今嶺村の條にしるす合せ見るべし

大迫間（オホハサマ）は細目の枝村にて本郷の西にあり　同御領　百十六石八斗一合

鯉居（コイオリ）は細目の枝村にて本郷の東にあり　同御領　二十四石八斗五升一合

油皆渡（ユカイト）は細目の枝村にて鯉居の東にあり　同御領　三十三石二斗五升八合

柚澤（ソマサハ）は細目の枝村にて油皆渡の東にあり　同御領　二十九石九斗七升九合

北山　は細目の枝村にて大迫間の北にあり　同御領　百二十九石五斗七升二合

久田見村（クタミ）は細目の東北にありて米田庄なり苗木領の村〳〵に隣り長曾橋を領さかひとす則苗木
に至るの路（ミチ）なり　尾張御領　六百七十三石五斗九升四合　名古屋まで十四里あり枝
邑を　薄木野　西山　大平　入野　野黑　といふ　五十俵川　は久田見山より出て下流細
目村に至れり荒川といふ　神明社　大明神社　白山社　貴船社　ともに村人まつる
稻葉方通此村を領し時に寄附せしよしにて何れもすこしづゝの社領ありて今につたへたり　寶
藏寺　は光明山といひて臨濟宗細目村大仙寺の末寺なり　法誓寺　は淨土眞宗京都東本願
寺直末なり

名倉村（ナクラ）は上吉田の平村の北にあり　苗木領　四十二石四斗六升

田代山寺村　は名倉の東北にあり　尾張御領　六十三石七斗二升　名古屋まで十八里あ

り枝郷一所ありて　出村　といふ　白山權現社　辨財天社　稻荷社　神明社　とも
に村内にあり　洞雲寺　ハ大龍山と號し曹洞宗平岩村開元院の末寺なり創建の年月定かなら
す開山を廣庵和尚といふ中むかしより廢衰に及ひしを慶長年中傳室和尚中興せしよし寺僧いへ
り　塔頭一宇　ありて　光德寺　といふ

小原村　ハ久田見の東北の方にあり　御料　二百四十七石三合　古城跡　ハ遠藤左馬
助慶隆のすみし第宅なり慶隆郡上を領知せしが　天正の末秀吉公に沒收せられて　こゝに居し
七千五百石　を領す　慶長五年の亂に關東の御味方に與し犬地の同苗小八郎胤直と　小合戰
し御一統のゝち郡上郡の舊領給ふ

葛牧村　ハ田代山寺の北にあり　尾張御領　七十石七斗七升四合　濃陽志畧に八十四石五斗四合とある
ハ枝村鷲原を合せたる高也　名古屋まで十八里あり　白髭大明神社　白山權現社　天王社　藏王
權現社　ともに村民まつれり

野原村　ハ葛牧の北にあり　尾張御領　御旗本領とも　八十四石九斗九升　内御領ハ六十五石三斗八升五合なり　名古屋より十八里あり　飛驒川　ハ武義郡金山の方より流れ來て此あたりの
村〳〵をへて南に流る　八幡社　白山社　ともに村うちにあり

鷲原村　ハ野原の南葛牧の西にありて葛牧の枝村なり　尾張御領　十三石七斗三升

油井村　ハ野原の北にありて　苗木領　十六石七斗　の地なり
田島村　ハ油井の北の方飛驒の國さかひにあり　苗木領　六十九石五斗四升
宇津尾村　ハ野原の東にあり　苗木領　七十三石七斗五升
若松村　ハ宇津尾の東の方にあり　苗木領　十六石七斗
和泉村　ハ田代山寺の東にあり　御料　百三十三石五斗二升七合
水戸野村　ハ和泉の東北にあり　御料　百三十八石五斗五升八合
廣野村　ハ葛牧の東の方にあり　三代實錄　に貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國言昔廣野河流
向美濃國當于斯時百姓無レ害而頃年河口擁塞惣落二此國一毎レ遭二雨水一動被二巨害一望請堀二開河口一
令レ趣舊流一太政官處分依レ請　と見えたり昔しハ廣野川とて此あたりより尾張の方へ流れしが
河口ふさかり流れかハりけるにや今ハさる川もなし　苗木領　五十一石六斗三升
德田村　ハ宇津尾の東北飛驒の國さかひにあり　苗木領　二十九石
成山村　ハ德田の南東にあり　苗木領　六十二石　佐見谷ハ　東北の方飛驒堺　有本村　吉田
村の方より流れ來り此あたり數村をへて油井村に至り飛驒川に入る
久田島村　ハ成山の東にありて　苗木領　四十石　の地なり
室原村　ハ久田島の東にありて　同領　二十一石七斗　の里也

小野村　は室原の東にあり　同領　四十八石三斗二升三合

寺前村　は小野の東にあり　同領　四十六石二斗四升

大野村　は寺前の東南にあり　同領　五十七石六斗五升七合

吉田村　は寺前の東にありて　同領　五十七石五斗　の地なり

有本村　は吉田の東にあり　同領　六十九石七斗　寺前吉田のかたより東北へ通りたる小徑ありこゝをへて恵那郡加子母付知の方に至る

越原村　は有本の東の方數里にあり　苗木領　九十四石八斗七升　白川　は此あたりの東北恵那郡加子母山より流れ出こゝをへて神土宮代須崎などの村〳〵を流れ遠く上吉田名倉のあはひにて飛騨川に落合ふ

神土村　は越原の西南にあり　和名類聚抄　に賀茂郡神田とあるはこゝかさあらは　延喜神名式　に賀茂郡神田神社　としるし　美濃國神名記　に従五位下神田明神　と見へ　三代實錄　に貞觀六年八月十五日己巳美濃從五位下長田神兗上神神田神云云等並授二從五位上一　とあるもこゝの神なるへし　苗木領　二百四十一石四斗一升　分脈系譜　等にのせたる美濃源氏神門太郎頼末また　吾妻鏡　の承久三年六月廿日の條に美濃源氏神地藏人頼經入道云云　とある人〳〵はこゝの人か猶尋ぬへし

柏本村　は神土の西の方にあり　苗木領　八十一石二斗八升八合

久須見村　は神土の西南にあり　日本靈異記　に美乃國方縣郡水野郷楠見村有二一女人一姓縣氏也　とあるはこゝの事か今方縣郡には水野の郷もくすみ村もなし傳聞のあやまりにてかく郡のたがひたるべし當村ちかきあたりに水戸野村もありて水野郷といへるにもかなひたればしばらく其よしをしるす猶考へ明らむへし　苗木領　四十一石三斗二升八合

下野村　は久須見の西の方數里にあり　同領　八十六石八斗七升

宮代村　は下野の西にありて　同領　四十一石　の地なり

大澤村　は宮代の西にありて　同領　六十六石五斗二升八合　の里也

中屋村　は大澤の西にあり　和名類聚抄　に賀茂郡中家　と見え　美濃國神名記　に加茂郡正五位上中都屋明神　としるしたるはこゝなり　苗木領　五十九石四斗七升八合

須崎村　は中屋の西にあり　同領　七十三石四斗一升八合

黒川村　は久須見の南にあり　苗木領　六百三十一石八斗一升　黒川　は當所の山中より出西南にながれ犬池村の邊にて赤河と落合小原村にて白川に入る

切井村　は山を隔て川を隔てゝ下野の南の方にあり　同領　二百五十石五斗

赤河村　は切井の西の方にあり　同領　二百三十八石　赤川は　東の方切井村　の山中より

出こゝに至りて黒川と落合ふ白川黒川赤川などいふ川は陸奥の白川黒川をはじめ諸國に多くありて何れも水の色によりて名つけたる物なり駿河の黄瀬川尾張名古屋の紫川なども水の色より喚ひそめし川の名なるべし

犬地村（イヌチ） は赤河の西にあり 同領 三百十八石二斗四升四合 古城趾 は遠藤小八郎胤直の居城也胤直は遠藤大隅守胤基の子にて秀吉公に仕へ六千五百石を領して犬地に居す慶長五年の乱に石田三成に與しければ一族左馬助慶隆七月中旬小原を發し佐見の砦を築く胤直城ケ根に居り八月下旬胤直慶隆小合戰迫合あり御一統のゝち胤直改易せられ廢城となりしよし 遠藤系圖 に見えたり

上田村（ウヘタ） は犬地の西にあり 苗木領 百五十九石三斗五升

福地村 は山を隔て犬地上田の南の方にあり 同領 二百三十一石八斗四升

飯地村（イヽチ） は山を隔て福地の南の方木曾川の邊りにあり 同領 四百八十六石五斗

峯下立村（ミチオリタチ） は飯地の西にありて古名を峯村又嶽村といひしよし 郡村記郷帳 等に見えたり 同領 百十七石九斗三升六合

中之坊村（ナカノホウ） は切井の南の方にあり中野方ともかけり 同領 五百五十八石八斗七升四合

河合村（カハヒ） は中之坊の南東木曾川のほとりにあり中の方川の下流こゝにて木曾川に落合ゆゑ村名とす 同領 二百十八石七斗三升六合

姫栗村（ヒメクリ） は河合の東にありて當郡のうち東南の隅の里なり 同領 四百四十二石五斗五升四合

島村 は名倉田代山寺の邊にあり此村 元祿郷帳郡村記村高帳 にみなもらせり 濃陽志畧の圖 印行圖 尾濃全圖 等によりて補ふ 和名類聚抄 に賀茂郡志麻とある舊郷なり

新撰美濃志廿四の巻

尾張文園岡田啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

惠奈郡

岩(イハ)村 ハ郡のうちの中央よりハ南の方によりたる地にて 惠那(エナ)ヶ嶽(タケ) の五里ばかり西南にあり 高 八百二十八石六斗七升 つける町並にて武家商人諸職人等の家宅多しむかしより **遠山ノ庄** といひ此あたり其莊を呼ふ地殊に廣く數十村に及べり 六代勝事記 吾妻鏡 沙石集 承久記 太平記 等その外數十部の古書ともに美濃國遠山とゑるし又岩村といふ名もあたらしからず長享元年九月十二日常德院殿檪江州御動座在陣衆着到に濃州遠山岩村と見わたり **城閣** ハ山のうへにありて殿宇雲にそびへ谷川ふもとをめぐりて闕門霧に鎖せり岸高く道さがしく一夫これを守れハ萬卒達しかたきといへる要害の名城なりむかしより敵軍此城を襲ふ事あれば忽ち風雨起り雲霧涌ひて遮りかくす故 **霧が城** と呼びならひしよしいひつたへたり 應仁の頃桐中將といふ殿上人此地に流落して住居ありしか其末孫遠山氏と稱しこの城を築きしゆゑ桐か城と名つけしよしいひ又中將ひとりの女子ありしが落魄て尾張の鳴海驛の倡女となり觀音に祷

りて笠な覆ひしよし岩村府志にいへり 城山の背を 水晶山 といふ山巒の間水晶を生する故之か名づく 水晶大如二拇指一長數寸六面削成或一塊聚生白徹有レ光皆白石英也 と 岩村府志 にいへり 巖邑志（岩村城下の人藤井元信が撰びたる書也）に治承の頃遠山庄に盗賊多く住みて人民を悩ましければ村の長西尾某といふ者伊勢の大神宮にまうでゝ其難をまぬかれむ事を祈りけるが靈夢の御告を蒙り歸路に及び宇治の邊りにて偉人に逢ひて其よしを告ければ偉人いはく我ハ當國の住人加藤五景員の二男加藤次景廉といふ者なり平治の乱の後身をかくして此地にあり今汝か愁ふる賊を退治し得させむとて村長と共に當村に來り彼悪徒を誅戮し邑民に望みを遂すさて頼朝卿伊豆の蛭小島に起り給へるを聞こゝより馳下りて武功を顯ハし彼卿一統のゝち此地を恩賜ありて當城を築けり今里中に 加藤次の腰懸石 屏風岩 など舊名の殘れるハ景廉その石の上に踞居て東の方の山を望み城築しよしまるせり景廉ハ伊勢の國人加藤景貞の次男にて遠山判官また藤次左衛門少尉と號し從五位下に叙す法名を覺蓮坊といふ 源平盛衰記 の山木判官兼隆を夜討の條に加藤太みつたね加藤次景かどとて兄弟二人あり是ハ 都をは霞と共に出しかと秋風そふく白川の關 といふ秀歌讀たりし能因入道には四代の孫子なり彼能因か子息に月並の藏人といふもの伊勢の國に下りて柳の右馬の入道か聟に成てまふけたりし子を加藤五景貞といひき後にハ使の宣を蒙りて加藤判官とそいひける其子共也云云 と見えたり承久三年八月三日景廉卒てのち郭内に葬

り其靈を祀りて社をたて本丸の艮の方に鎭座す今 八幡社 と稱する是なり（沙石集に美州遠山と云所の百姓が妻夢に見けるはうせにし舅來て云く明日地頭殿の御狩に我命助り難かるべし此家へにげ入る事あらは何にもして隱してたべ生々世々嬉しと思はん我もとより牟目の舅たりしが當時も咎らぬをしるしと思ひたまへとて物思ひたる姿にて泣々語ると見てあやしく哀に思ふほどに次の日地頭殿狩しけるに雉の雄家の内へ飛入りぬ此雉をとりて釜の中にかくして蓋打して置ぬ狩人求めかねて歸りぬ夫申けるはげにも父にてればしせし時も目のかたはしくれはせしがたがはぬ事のあはれさよ子にくばればやさてこりればしつらめといひてねち殺してけり此事あまりに心うかりければやがて家をつき出て行くを夫にがさしとすはては地頭に訴ふるに事の子細きいて逆罪の者にこそとて境を追ひこめ事はなさけ有る者とて其家敷をたびて公事なんどもゆるされけり近きほどの事なりとある地頭殿は此景廉の事なるべし）その 次の城主ハ遠山左衛門尉景朝なり 分脈系譜 に景朝ハ加藤次景廉子號二遠山一 と見え 吾妻鏡 に承久三年七月五日丁亥一條宰相中將信能ハ相二干遠山左衛門尉景朝一著二美濃國一即於二遠山庄一刎レ首 云云 とまるせり 分脈系譜に 一條權中納言能保子參議右中將信能承久三年八月十四日於二美乃國一被レ斬 と見え六代勝事記 にも近習寵臣の邊功をたつることこと〳〵くさらへられぬ云云 信能卿はみのゝ國遠山といふ所にてそれりにける と見えたり 承久記 にハ 景朝を景村とし公卿の人々成敗の條に一條宰相中將ハ遠山左衛門尉景村具足し美濃國遠山へ下り切奉らんとす此宰相元來西方に心を懸たる人にてはしければ念佛不レ怠 今ハの時に臨て紫雲たなひき異香薰し音樂空に奏すと人々も聞ける程に被レ切給ふ 云云 と見えたり 景村は景廉の四男景經の子にて七郎左衛門と名のれり 名細記 に景村卒して霧城の十町計り西の山に葬り靈社を營む今若宮八幡と稱し又一里計り西

の　武並山　にも景村の靈神を祭り武並權現と申すよしいへりその後遠山氏代〻城主たりしかど其姓名詳かならすそのうち　遠山三郎は中頃の城主にて　太平記綱目傳　に延元三年六月越前金崎の城陷ると聞て諸國の官軍氣沮む霧が城の守將遠山三郎も棄レ城遁去りしよししるせり　遠山大和守景廣は景村十六代の裔孫なり當城主のよし　名細記　に見えたり　遠山左衛門尉頼景は當城に居り　天正のはしめ卒す景廉景村の子孫多く土岐郡惠那郡のうちに在り各〻地を分て居住し霧か城の藩屏とす其枝城左の如し　苗木（遠山左近たなしく嫡子勘太郎在城し其のち遠山久兵衛等打つゝき居す）　明智（遠山和摸守）　飯羽間（遠山右衛門）　串原（遠山彌左衛門）　大井　久須見　佐々良木　藤　阿木　野井　曾木　何れも遠山一族の枝城にて天正の頃まで夫れ〻守りしとぞ　遠山內匠助は或は　岩村修理亮とも名のり信長公の叔母聟にて元龜三年まて在城しその年の十二月卒す　遠山御坊丸は內匠助の養子實は信長公の五男なり元龜三年の冬家を繼あくる天正元年三月まて城主たりのちに　織田源三郎勝長といひしは此人也

秋山伯耆守晴近は武田勝頼の家士なるが天正元年三月十五日甲斐より來りて此城を攻とり內匠助の後室を妻とし御坊丸を養子として在城す信長公の人質として御坊丸を甲斐に送る

甲陽軍鑑　に天正二年甲戌二月中旬に勝頼公五ヶ國の人數を催し信長方へ御はたらきなされ候信玄公御代に東美濃岩村霧が城を攻たとし城代に秋山伯耆守信州先方には座光寺を始め三頭伯者ともに四頭二百五十騎あまり右の城御番勢に付らるゝ遠山の郡代は　秋山伯耆守也此伯耆守は則　居城美濃侍岩村殿の後家を妻女に仕候後家は織田彈正忠の妹信長のため伯母　なるゆゑ內々種々信長より伯耆守方へ無事を作り申され候へども伯耆守少しも合点なき故信長より美濃先方の侍衆小城をかまへたる人〻へ信長衆を十騎十五騎ばかりづゝ警固にさしそへ其外取出をこしらへ都合十八ヶ所岩村秋山伯耆守のたさへの爲に申付らるゝと見え　信長記　の天正三年長篠合戰の條に　信忠卿は美濃國遠山城に　秋山　大島　座光寺三人爲二大將一其外甲斐信濃に於て名有者共二千計り楯籠りけるを攻らるべしとて直に發向し給ひて彼城を被二取圍一二重三重に柵摸鴉を結廻し隙透間もなく攻めければ城中怺かねて佗言致し城を開渡し引退ひとしける處を十一月廿一日に悉討果し彼三人の大將をば生捕て信長公へ引まいらせられければ御感悦不レ斜思召則張付に掛給ひけりとみえるせり　常山紀談　に天正三年信長美濃岩村の城を攻めて　秋山伯耆守晴近を生とり生ながら逆はりかけといふ物にせられけり　是は信長の姑聟遠山內藏助當城におりしを秋山方便をもてたばかり信長の加勢の士三十五騎を殺害し城を奪とり內藏助が後室を己か妻としてそこに居りしかは信長怒りてかくはせられし也其のち信長信州の法華寺にて兵粮つかはれける時澀々の木綿を着たる女房一人來り懷より錦の袋に入たる茶入れをとり出し是を信長に見せ給ひ候へ見知り

でおれしまさむといふ信長走り出て茶入をハ石に當てうち碎き刀を抽てかの女房を切殺されけりこれ秋山か妻にて信長のをばなりしよしゑるせり　河尻肥前守重能（あるひハ直次ともいふ）ハ天正三年信長公より賜ハりて在城す同十年甲斐國にうつる初の名與兵衛のち肥前守に任す　信長記に天正三年十二月三日に右大臣に任せらるへき勅定ありしを辞し被ㇾ申其代りに忠功を積し者に徴官を敘し被ㇾ下候樣にと申上られけれハ神妙也とて木下藤吉郎は任二羽柴筑前守一河尻與兵衛尉ハ肥前守に任し其外數人位官を給ひしよしゑるせり　森蘭丸長次ハ三左衛門可成の子武藏守長可の弟也天正十年三月當城を賜ハり五万石を領す（濃州諸城記に八九万石とす）同六月京都にて戰死し後森右近忠政の領知となる（城代各務兵庫閑丸の時よりこれを守る）　田丸中務少輔具忠ハ秀吉公の時陸奥の三春より移り住す慶長五年石田が逆徒に與して追放せらる　武德安民記（武野安齋か作）に美濃國岩村の城には田丸中務少輔具忠（三万石）高山の城にハ同人家來田丸主水苗木の城にハ關次兵衛等楯籠りしを東國方木曾の士千村平右衛門馬場半左衛門山村甚兵衛に援兵として遠山久兵衛小笠原毅負今泉五助其外美濃衆相加ハり彼三城を陷しける就中高山ハ妻木雅樂助仰を蒙り攻落す故則高山を妻木に給ふ又苗木の城は遠山久兵衛友政が代々の舊領なる故則彼城地一万五百石を友政是を拜領す岩村の田丸中務ハ越後へ謫せらる仍て岩村の城番として內藤紀伊守信成彼地に往て來春に至り是を警衛すと見えたり　內藤三左衛門信成（後紀伊守）ハ田丸具忠か次の城主なりしよ

し　美濃國古蹟考にも見えたり（或は田丸か追ばれしのちに明知の城主遠山勘左衛門城を請取り在番すともいへり）　松平和泉守家乘（大給松平と稱す）ハ慶長六年上野の那波より當城にうつりて二万石を領し同十九年卒すその嗣子　和泉守乘壽ハ慶長十九年より在城し其冬大坂御退治の時十五歲にて從ひ奉り元和元年五月の同じ御軍にも戰功を顯ハす寛永十五年一万五千石の御加增ありて遠江の濱松にうつる　丹羽式部少輔氏信ハ丹羽勘助氏次の子にて寛永十五年參河國賀茂郡伊保より移りて在城し二万石を領す正保三年病卒し嗣子　式部少輔氏定（あるひハ氏憲とす）家督をつぎ弟權兵衛氏春へ千石分地し殘り一万九千石を領し明曆三年卒その子　式部少輔氏純家督し一万九千石を領知し延寶二年九月卒すその子　長門守氏明（あるひは氏房とす）家督をつぎ一万九千石を領し貞享三年二月卒す其養子　和泉守氏音（はしめ越中守又壹岐守といふ實ハ丹羽權兵衛信氏の子）貞享三年より在城すかくて當代困窮に及ひ甚難澁なりしかば家臣とも相歎き種々談合しけるが用人山村瀨兵衛が申むね殊によろじかりければ彼に儉約等の諸事をはからはせられければやがて立直り借財も多く減少し勝手ゆるやかにそ成にける其事により瀨兵衛相役妻木鄉右衛門と意趣をさしはさみ鄉右衛門奸計を行ひついに家中騷動に及ひければ其御咎めにて元祿十五年五月領知沒收せられ越後國高柳にて一万石を給ひぬ同六月遠山和泉守（當郡苗木城主一万五百石）堀大和守（信濃飯田城主二万石）城請取の御使に來られけるが其折しも風雨甚はけしく霧雲城樓を蔽ひて請取わたしに難澁なりしとそ是ひとへに城中に祀

れ姦康神靈のなす所にして霧が城の名の空しからざるよし霧城雜記にも見えたり 城主 松平
兵庫頭乘紀 前城主松平和泉守乘壽の二男石川美作守乘政 母の氏を稱して石川と稱す能登守とも名のれり の子にては
じめは石川能登守と名のり後今の姓名に改む元祿十五年信濃國佐久郡小諸より移り二万石を
領し享保元年十二月廿五日卒す其子 侍從乘賢は享保二年家督はじめは能登守と稱し西御
丸御老中となり從四位下侍從に叙任す享保三十年五月 万石御加増ありて三万石を領し延享三
年五月八日卒すその養子 能登守乘薀延享三年家督在城し三万石を領知し子孫打つゞき城
主たり 水精山 城の北にありて水晶の事は前に記るす 矢竈山 は 岩村府志に城前
高峯曰二耶圖不志山一織田氏圍二岩村一別將登二此山一射二城中一矢石不レ及城中笑曰織田氏之矢竈也
故曰二矢竈山一或曰城兵埋二伏谷中一故曰二谷伏一又曰此山八嶺相崎宛如二竹節一因名二八節山一と見え
たり 高松山 は矢竈山の南にありて銀鑛を出す性あしく錫の如し 天瀑山 は城前半里
ばかりにあり山上に神祠ありその北の澗水に瀧あり瀧澤と名づく 武並山 は城の西半里
ばかりにありて高くして茂れり景朝の廟あり 祖父峯 は城の西にあり景廉の坐石また屏風
岩等あり其西に 十塔ヶ峯 あり上に藏經塔をたつ其皐のうちに柴栗あり其木一二尺に盈す
して實を結ぶ奇とすべし 分峯 は城の西北飯廻間の界にあり織田信忠の陣所の跡あり
八幡社 城上艮にあり景廉の神靈をまつる長二尺計りの神像を安置す神庫に景廉の甲冑を藏

む朽損して修補し難く惜むべきの至り也社僧を月光山藥師寺といふ 領家八幡社 は城の西
にあり城中の八幡の舊地なり 若宮八幡社 町の西にあり一條中將信能卿を葬りし地なり
大將塚 は城下の西北の官舍の傍にあり織田信忠卿甲斐の秋山夫婦又大島座光寺等を磔に
かけられし所なり 盛岩寺 は曹洞宗にて久昌山と號す 乘政寺 は淨土宗にて松石山
と號し當城主松平家の菩提所なり 蟒蛇 は此邊の山々に居る事あり因果物語にも濃州岩
村にて去者蟒に呑れたり小脇指にて腹を切破り出したり此男を鈴木權兵衛見たりと語也 と
見えたり 化石 は此邊の山にあり 物類品隲 に蛤蚌の類石に化するあり美濃岩室ノ產下品
と見えたり岩室とは岩村の誤り也太閤記の四の卷にもこゝを岩室とかけり 產物 鯇、鱒、鰷魚、
等城東の谷川に產す捕りて市中にうる蕎麥麪、茶茗、柿、栗、蘿蔔、秋菌、烟草、紙、等又藥種白朮、
茯苓、羌活、獨活、芍藥、黃連、厚朴、黃蘗、小人參、熊膽、など又雉兎諸鳥を名物とす濃嶽はわけて
名產にて城主より
江戸に貢獻せらる

苗

木 は岩村より五里半北にあり 城郭 は木曾川の北付知川の東にあり其流を要害とし
岐蘇川の岸なる大岩を礎とし山に據りたるが河水の深淵藍の如く湛へたり其うちに蟠龍すみて
城を守る龍蛇の性白色をいみきらへる故此城むかしより白壁をぬる事なしはじめ築し時堊土を
もて塗りけるに一夜のうちに爬て泥土となし其のち又白壁とすればはじめの如くに是水
靈の障礙する處也といひ傳へたり 龍性畏二白物一事異はじめ國の書に見えたり 遠山氏 の人築きて世々の居城とす あ

る説には元亨建武のころ 遠山左衛門尉景村(カゲムラ)雉髮のゝち雲入と號す 始てきづくもと當郡の福岡村にありて高森の城といひしよしいへり 遠山左近は中古の城主なりその嫡子 遠山勘太郎永祿の頃苗木勘太郎といふは天正のころまで在城す 遠山久兵衛友政は勘太郎の跡の絶たるをつぎ木曾の明照山より移りすめり天正十五年當城を退去すといふ 金山記 には遠山久兵衛尉木曾義政に與し森家に敵對する事ありければ武藏守其遺恨により天正十一年五月金山より軍兵數千騎を發し苗木を攻ければ遠山禦き得す打負け五月廿日累代の居城を退去し上野の舘林に至り蟄居せしよし志るせり 河尻肥前守直次 は一万石を領し天正の末より慶長五年までの城主なり河尻岩村より甲斐國に轉し又苗木にうつりしなるへし關ヶ原記に肥前守大坂に祗候し關次兵衛 を城代として守らしめしを遠山久兵衛舊領なる故關東に訴へ御ゆるしを得て攻取りしよし志るせり 遠山久兵衛尉友政は慶長五年より再ひ在城し一万六千五百石を領すあるひは友政慶長五年 千村 山村 と同しく東照宮の命を奉りて 石川光吉尾張の犬山の城主備前守と稱す を降す其軍功により當郡のうち數ヶ所の領知を賜はり當城にうつるそれより代〳〵の居城となるともいへり其子 刑部秀友は元和七年より在城すその子 信濃守友貞は寛永十九年よりの城主なり本領のうち 同苗半九郎に五千石 半左衛門に二千石を分知す其子 和泉守友春は延寶三年より在城し 一万五百石 を領すその子 伊

豫守友由は正徳四年より在居し子孫打つゝき今に至れり 巣鷹山(スダカ) は城下の北にありて鶴(ハイタカ)を産す 神明社 は城下にあり 雲林寺 は天龍山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺領主遠山家の菩提所なり

飯羽間村(イヒバサマ) は岩村の西にあり 岩村領 千二百九十三石八斗 遠山氏宅跡 は遠山右衛門佐かすみし小城なり 甲陽軍鑑 に天正二年四月いひはざまの城へ信州河中島衆の内三備をもつて取詰らるゝ云云文長き故中略す いざせめらるへきとてたゞ一時にいひはさまをせめおとし信長より警固に置れたる十四騎の武者を一人ものこさす討取りいひはざま右衛門を本城の藏へをし込生捕て進上申候間勝頼公御機嫌あさからす候各大小上下共に武田勢申は御代かわりに飛鳥(アスカ)もたつるほとの勝頼公御威勢也といさみて足輕(アシガル)悴者(セモノ)小者哥を作りてうたひ申候其歌は 信長はいまみ今見あてら明照やいひはさ飯羽間ま城をあけちと明智つげのくし原串原 とうたい候事は甲州信濃の下劣の詞てあさなる事をはめでらき事かなと申候故志かもいまみあてらと云城落たる故也四月上旬に御馬入なり と見えたり 其以前にも同氏の人こゝに住みし也 永享以來御番帳に 遠山飯間宮内少輔と見え長享元年九月十三日常德院殿樣江州御動座在陣衆着到に 濃州飯間孫三郞と志るせり

椋實村 は山をへたてゝ飯羽間の西の方にあり 同領 五十二石七斗二升

佐々良木村　は槙實の北にあり　岩村領　六百四十一石九斗四升　佐良木三郎尙頼は土岐美濃守政房の弟にて明應五年於城田生害せしよし　土岐系圖　に見え明德二曆九月二日にかける當國の土屋家系に土屋主計源起氏の子土屋頼母起綱の母は佐良木氏女　とある佐良木氏はこゝの人なるべし

野井村　は飯羽間の北西にあり　御旗本領　四百九十二石九斗七升　野井坂　は

いひはさま久保原へ行く道にあり

竹折村　は野井の北にあり　和名類聚抄　に惠奈郡竹折とみえし古き里なり下街道筋にて休茶屋旅宿などもありて常に往來人たえす土岐より東北二里にありこゝを過て十三嶺の槙ヶ根に出中山道に至る　岩村領　三百四石五斗

永田村　は野井の東北にあり　岩村領　二百五十七石八斗九升　三代實錄　に貞觀六年八月十五日己巳　美濃國從五位下長田神授從五位上　とあるはこゝの神なるべし

中野村　は永田の北にあり中山道筋大井驛の西十三嶺の麓にある村里なり元は土岐郡に屬たりしよし　郡村記　に見えたり　同領　五百二十一石四斗五合　今宿村　は中野のうち也　名古屋街道は槙ヶ根にあり中山道にわかれて名古屋伊勢參宮等に至る俗に下街道といふま

きかねに休茶屋あり　七本松　は槙ヶ根の路傍にあり　西行坂　は同所にあり　西行墳　は道側の高みにあり松樹生ひ五輪の石塔たてり　また其近き所に西行の　硯水　といひ傳へし　淸水　もあり此末の東野村の條と合せ見るへし

正家村　は中野の東にありて　遠山庄　といふ　尾張御領　八百七十三石二斗七升　名古屋まて十九里下街道十五里あり　阿木川　阿木谷より出此あたりをへて大井の北にて木曾川に入る　鍋山　は此あたりの山をすべてなべ山といふ其ゆえをしらす　子安大明神社　は村うちにあり信濃國佐久郡子安神を勸請して祀りしよし里民いへり　圓通寺　は長昌山といひて曹洞宗千旦林村大林寺の末寺なり慶長元年各務一學寺領を寄附し今に傳ふるよし寺僧いへり寬永年中德外和尙再興す

富田村　は岩村の東北にあり　岩村領　千六百十三石　枝村　を大圓寺といふ　紙は典具帖をはしめ中折小菊廣紙厚紙等の數品をすく當郡のうちにてはこゝと串原村久須見村等より出す

阿木村　は富田の北にあり　和名類聚抄　に惠奈郡安岐とある舊鄕また　美濃國神名記　に惠奈郡從四位上阿氣明神　としるしたるもこゝ也　岩村領　千五百八十九石六斗四升　阿木川　は當村の山より出て大井宿の方へ流る　阿木風穴　阿木山にあり

血洗社 ハ阿木山の麓大野平にあり神代のむかしある御神こゝにて御子を産給ひ胞衣を洗ひ給ひし跡也といひ傳へ血洗池といふ古跡ものこりまた恵奈山の名もそれより興りしよし里老いへり 安木孫太郎ハ永享以來御番帳に 遠山安木孫太郎と見えまた長亨元年九月十二日常徳院殿様江州御動座在陣衆着到に 濃州遠山安城孫次郎としるし 武家紋帳 にも遠山安木氏の家紋をのせたり皆こゝの人なるべし

飯沼村 ハ阿木の北にあり古名を飯妻といひしよし 郷帳 に見えたり 同領 四百五十九石八斗八升

東野村 ハ飯沼の北にあり 同領 千二百三十石三斗九升 **花無山** ハ鍋山のつゝきなり 西行法師こゝにすみて 思へたゝ花のなからむ木の本に何をかけにて我身住なむ とよみしよしいひ傳へたれど山家集この歌の詞書に落花のうたあまたよみけるにとありてこゝにてよみしといふ事見えす また花なしの峯にすみける鶯のたのれと鳴て春をしらする といふ古歌も此山の歌なるよしいへと共にたゝしきつたへなし花無山といふ名のふるけれハ附會せし物なるべし 釋日本紀 に引用たる 尾張風土記 に丹羽郡吾縵郷巻向珠城宮御宇天皇品津別皇子生七歳而不語傍問群下無能言之及後皇后夢有神告曰吾多具國之神名曰阿麻乃彌加都比女吾未得祝若為吾充祝人皇子能言亦是壽考帝卜人覓神者日置部等建岡君卜食即遣覓神時建岡君到美濃國花鹿山攀賢木枝造縵誓曰吾縵落處必有此神縵去落於此間乃識有神因竪社由社名里後人訛言阿豆良里 とえるしたる花鹿山ハ花無山の誤字にてこゝの事なるべしといふ人ありげにも鹿と無と字様同しくまがひやすく國中に花鹿山とよぶ山もなく花鹿といふ名も例なき熟字なればさもあらむか猶考ふべし **西行庵跡** ハ村のうち中島といふ所にあり西行法師三年こゝにすみて竹林庵といひしよしいひ傳へ其時の井とて古井のあとものこれり 埴生のすゝ風 にも此邊に西行の築れたる **經塚** **過去帳** など殘れりとしるせり 西行ハ藤原秀郷の裔孫左衛門尉康清子憲清従五位下左衛門尉鳥羽院下北面出家法名圓位又號西行大寶房建久九年二月十五日寂

大井村 ハ中野の東に並ひ東山道の宿驛にて旅店休茶屋等賑ハひ西大湫宿より三里東中津川宿まで二里半の馬繼也 **遠山庄** と稱し 尾張御領 五百十二石六斗四升 濃陽志略 に六百七十四石九斗八升七合とあるハ枝村岡瀬澤を合せたる高なり 名古屋まて十九里下街道ハ十五里あり 大井ハふるき驛にて延喜兵部式 に美濃國驛馬立坂大井各十疋と見え 同民部式 に凡美濃國坂本土岐大井三驛信濃阿知驛子課役並免 としるし 續日本後紀 に承和七年四月戊辰美濃國大井驛家人馬共疲官倉頓仆これに依て驛吏を置かれしよし見えたり其全文を席田郡郡府村の條にしるす合せ見るへし 季瓊日錄 に長祿四庚辰九月廿八日香嚴院領美濃國遠山莊大井郷別當職之事如先規可有成敗之由命于飯尾左衛門大夫也 **阿木川橋** ハ宿の西の入口阿木川に架す急流の故にや

中程には橋杭なし俗に大井橋ともいふ　官舎　は　濃陽志畧　に往日此地築レ舘令ニ輕卒將一員居レ之監ニ材木事一近レ時廢レ之但使ニ輕卒輪戍一而已　と見えたり　岡田伊勢守善同美濃の御郡代の時の官舎なるへし滿足和歌集にまさしくたもつといふ年の三年葉月はじめのほど江戸を出侍り十六日まごめの峯くたるよりみの〻國を見おろして今そ心たちゐにける其夜は大井の里にとまる此所は慶長の末つかたまては伊勢の翁のあつかりなる所にてたひ〱きかよふ里なり今やどる家あるじもむかしのすさなりふる人も此家にやどりなれ給ひてしとたもひ出れは庭のやり水かけとまる心ちして涙もよゝと流れそびぬ物語にあかしのあま君たやそんわうのあとを尋ねて年へてのほり住ける都にちかき大井の宿むらさき式部か筆のすさひも思ひ出られて　くみてしる昔の宿のあれされてこゝも大ゐの里のいさら井　岡田豊前守善政　木曾川　は驛の北なる山の下にて阿木川落合ふ　傘岩　は村の北奥戸山の上にあり高二丈はかり形からかさを開きたるがごとし　紅粉岩　は傘岩の側にあり大石の上の方色すぐれてあかしその外　太皷岩　疊岩　などいふ奇石多しみなかたちをもて名つく　武並大權現社　は井戸氏の人掌る例祭八月十五日　美濃國神名記　に土岐郡正一位酒波大明神　とある酒と武とは字訓近ければあやまりたるものなるよし　濃陽志畧　にいへるはあやまり也こゝは郡もたかひ其うへ武並權現は本所岩村の西なる武並山にいまして遠山左衛門尉景村の靈神をまつれりこゝなるは其

神を勸請のやしろなるべければ本所を置てこゝを本國帳の神とはしがたしまして景村は元亨建武頃の人にて其卒後に祀りし靈神を古社の列にいはんは考への至らざるなり　神子母神社　は武並權現祭禮の行宮なり　市神社　は宿うちにあり　長國寺　は稻荷山といつて曹洞宗尾張の春日井郡大草村福嚴寺の末寺なり　禰津神平　男子の懷姙を觀音に禱りけるに兒出産せしかは此寺を建立せしよし寺傳にいひ神平の位牌あり集古十種に此寺所藏の根津是行鎧圖同鞍銜圖をのせたりまた西行法師の位牌もあり法師隣村東野に三年在りしよしいひ傳へ此あたりにその古跡多く彼山家集に冬歌十首よみけるに　夜もすがら嵐の山に風さえて大井のよどに氷をそしく　題しらす　またれつる入あひのかねの音す也あすもやあられきかんとすらむ　とある二首の歌を此地にてよまれしよし寺僧も里老もいひつたへはじめの歌の嵐の山を嵐の音さし氷をそしくをあられをそきくとかへたり大井は山城の嵐山のほとりにてこゝの大井をよみしにはあらず　大杉樹　は境地にあり　濃陽志畧　に文祿中太閤秀吉征ニ朝鮮一時欲レ伐レ之造レ船役夫下レ斧流レ血役夫悶絶倒レ地懼不ニ敢伐一其枯卉倘存俗呼曰ニ太閤杉一と見えたり此杉今にありて鎚を横たへてかなたより見るに猶見えさるほどの大樹世にたくひなき老杉なり　東禪寺　は惠日山と號し黄蘗宗山城國宇治郡萬福寺の末寺なり　禰津神平墓　は宿の東中山道の傍にあり里俗のつたへに禰津甚平是行は甲斐の武田家の士なりしか放れたる鷹を追ひてこ

ゝに來りついに死去す故に葬り五輪の塔婆を建しといへり禰津ハ信濃國小縣郡根津村本貫の士にて代〳〵神平を通稱とす故にこゝに沒したるハいつの頃の神平か知りかたし里人武田信玄の家士なるよしいへるハあやまりなるへし五輪のさま甚ふるく四五百年以前の墓と見えたり　保元物語　の義朝白河殿攻落條に信濃國住人根津神平（同し物語の半井本には根津新平とかき京師本には甚平とす系圖に滋野道直子禰津神平貞直と見えたり）　門の中へ攻入て散々に戰ひける云云　と見え　白鷹記（嘉暦二丁卯三月の古書也）に近頃世に弄せる奇鷹あり爰に信濃國禰津の神平が奉る處の白鷹その相鷹經にかなへるのみならず其毛雪じろといふへし云云　と見えたり里人鷹を追てこゝに死せりといひつたへしをおもへハ此白鷹記の神平なるへし

大井砦跡　ハ　甲陽軍鑑　に岩村霧か城にむかへて十八ヶ所の小城ありしよししるしたるうちに　大井　中津　なと見えたり

岡瀬澤新田　ハ大井の枝村にて　三十四石三斗四升五合　の地なり　鹽御前社　ハ村内にありいかなる神をまつりてかく名つけしにかしりかたし

茄子川村　ハ大井の東にありて　遠山庄　なり中山道の驛路つらぬき常に往來の旅人多し　尾張御領　御旗本領とも　千三百六十七石六升（御領千九十二石六升　馬場氏領二百七十五石）　名古屋まて二十里あり　下荒井村　岩宿村（うれしゆく ともいふ）　辻洞村　ハともに茄子川のうちなり坂本もなすひ川のうちにて中山道の休茶屋ある地をいふ是　和名類聚抄　に惠奈郡坂本　と

見えまた　延喜式　續日本後記　類聚三代格　等にしるしたる美濃國坂本驛ハこゝかとおもへどさにはあらずむかしの驛立ハ一驛々々の間今の道にて五六里程づゝ隔ちたる例なるに此地ハ大井驛とわづかに一里はかりもへたちて甚近く古制にたがひたれハ古驛の跡といひかたしはしめ第一卷驛馬の事をいへる條にくわしくしるす合せ見るへし　鋏礩岩　ハ木曾川の岸にあり形ちかなとこの如きゆゑしか名つけしとぞ　諏訪大明神社　神明社　稻荷社　天王社　ともに村人まつれり　源長寺　ハ久翁山といひて曹洞宗大井宿長國寺の末寺なり

千旦林村　ハ茄子川の東にありて　遠山庄　といふ　尾張御領　五百五十二石六斗二升　名古屋迄二十一里あり　吉蘇川　ハ村の北にあり此あたりの東西駒場手金野茄子川の地うらハ殊に流れはげしく　猫岩　なそり　たうで淵　馬之瀬　つゝ岩　押付ヶ藤戸卷　權太ヶ瀬　などいへる早瀬ありて船筏の登り下りになやめり　上池の船渡り　ハ猫岩の川上にあり　源齋窟　ハ木曾川の岸にあり下深淵に臨み嶮岨の小徑をやうやくつたひて窟中に入るむかし　吉村源齋　此窟にかくれ住みしといひ傳へ今燒米石ありいはやの廣さ四面九尺ばかりあり源齋はじめの名を　吉村太郎左衞門氏勝　といふ强力の聞へありければ武田信玄招きけれども不ㇾ應信玄怒りて殺害せしよしいひ傳へたり　其子七左衞門　苗木城主遠山久兵衞に仕へ千旦林に住す　八幡社　ハ中山道の往還より一町ばかり奥

に鎭座拜殿鳥居末社祠ニ等嚴麗なり　白山社　神明社　村内にあり　大林寺　ハ嶺松山といひて曹洞宗甲斐國逸見の清光寺の末寺天正年中照庵和尙の開基なり

手金野村　ハ千旦林の東にありて　遠山庄　といふ　尾張御領　四百四十六石五斗四升　名古屋より二十一里半あり　小石塚　ハ中山道休茶屋のある地をいふ　諏訪明神社　ハ村うちにあり　松源寺　ハ圓通山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　明照山古城　阿寺ともかく　ハむかし加藤次景廉遠山の庄を領し霧か城にたり此山に砦を築きしよし里民いひ傳へ今に古陶器箭鏃等を拾ふ事あり　其のち遠山久兵衛尉友政遠山大和守一族はじめあてらの地にありて武田家に從ひしが元龜三年苗木にうつる　堯遍坊　の廢跡ハ村内にありむかし高野山常慶院の末寺眞言宗の古刹なりしか今廢絶して古跡のみ殘れり

駒場村　ハ手金野の東にありて　遠山庄　なり　尾張御領千村氏采地　七百七十二石　名古屋より二十二里中山道の往還なり　牛頭天王社　八幡社　白山社　ともに村内にあり　福昌寺　ハ東光山といひて曹洞宗大井宿長國寺の末寺也

中津川村　ハ駒場の東にありて　遠山庄　也中山道の宿驛にて町家長く豐饒の商人多し江戸の方落合宿まて一里余の馬繼なり　尾張御領山村氏の食邑　千三百三十四石六斗三升　名古屋まて二十二里下街道十八里木曾の福島まで十五里半余あり枝村二所ありて　川上　といふ惠那嶽の北の麓なり　惠那嶽　ハ村の南にあり當國のうち第一の高山にて遠國よりも見ゆ其かたち舟をふせたるに似たれハ俗に覆舟山といふ峯につもれる雪夏に至りても消さる事御嶽駒嶽などに同し東北の麓ハ信濃の湯舟澤村また飯田に接れり吉蘇志畧の湯舟澤の條に在ニ惠那山北ノ麓ニ岩石形如レ槽里民云是天照大神降誕時所レ浴也村名職レ是之由且藏ニ胞衣於此山ニ胞衣倭訓惠奈ナリ則惠奈山名亦復據レ此其山下所レ出水温煖則所レ謂温川也　と見えたり　惠奈權現社　ハ延喜神名式に惠奈郡惠奈神社　と見え　美濃國神名記　に從五位下惠奈明神　としるせり　例祭九月十九日遠近の里人山にのほりて拜禮す　一宵話牧墨僊著鼎等か撰　といふ俗書に此山の祭りに郡中の村〻より馬を曳て登る其日必風雨す是多人數の二便に山内を穢すを明神嫌らひ給ひて雨を降らして不潔を洗ひ淨め給ふよし土人言ひ傳へしよししるせり　祠官宮原氏つかさとる　賤の小手卷に惠那山ハ天照大神產レ給ひ胞衣を納めし故惠那山といふ山上に七社あり惠那權現ハ九尺四面の社其外ハ小祠なり每歲九月九日に登山す絕頂まてハ五里篠竹生茂り常は道もなし大勢踏わけて登り前夜ハ川上に通夜四十余度水垢離をして鷄鳴て山にのほる山上の木ハ風烈しき故庭木の如く低し四方を望む富士淺間白山伊吹近江の湖伊勢の海一瞬に見渡す其夜ハ山上に小屋をさし通夜し水垢離をして翌日下山す其外七日精進潔齋す山上に池あり此邊の笹を取來馬に飼へハ祈禱になると云〻　としるせり　川上川　ハ驛の西の入口にありて俗に中津川といふ水源は惠奈山

より出川上村をへこゝを過て木曾川に入るこゝにて川巾三十間余りつねに橋あり洪水に橋落れ
ハ歩行渡りす　八幡社　白山權現社　神明社　ともに村内にあり延喜神名式に　惠奈
郡中川神社　とみえたるを八幡社
とも白山社ともいへど今何れをそれとも定めがたし　從五位上中津川明神　とみえたるを八幡社
國櫻井の盛岩寺の末寺也　東圓寺　ハ蒜福山と號し曹洞宗當所宗泉寺の末寺なり　大泉寺
ハ中道山といひて淨土宗鎭西派京都智恩院の末寺也　額松院　ハ淨土宗鎭西派當所の大泉寺
の末寺なり　西生寺　ハ淨土眞宗京都東本願寺の直末寺なり　柴岩跡　ハ甲陽軍鑑等に東美
濃のうち廿八ヶ所の小城を築きしよし志るしたるうちに中津とあり　名細記に　よきとの城
ハ中津川の廿町斗東にあり森某居之とある所なるへし

落合村　ハ中津川の一里東にありて東山道の宿驛　遠山庄のうち也東の方木曾の馬籠宿まで
一里五町の馬繼にて旅行の人絶ゆる事なし　尾張御領　四百八十石四斗二升　名古屋
まで二十三里下街道十九里あり　惠奈獄　ハ村の南にあり絶頂美濃信濃の境とす峯に丈け短
かき古熊笹茂りたる故四時雪消されども遠望して雪の白きをみす猶中津川の條にしるすを合せ
みるべし　落合川　ハ宿の東の出口にありて板橋を渡す惠奈山の釜ヶ谷より流れ出湯舟澤谷
とてこゝにて落合ひ北の方にて木曾川に入る村名も川名もこれに依る川向ふハ十石嶺といひて木

曾のうち也此川を美濃の惠奈郡と信濃の筑摩郡の堺とす　木曾川ハ北の方を流れ此邊奔流にて
赤岩　樒ケ瀬　黑岩　淤淵　鵜之瀬　鞍かけ岩　うのり岩　などいふ早瀬多し　與坂　ハ
西の方中津川のさかひにあり西より東へ趣く驛路はじめての長坂なり　與坂番所　ハ名古
屋より立置かれ白木材木を改めらる輕き役人居りてこれを守る　八幡社　白山社　天神
社　ともに村うちにあり祠官堀井氏つかさどる　高福寺　ハ中央山といひて淨土宗京都智恩
院の末寺なり　醫王寺　ハ琉璃山と號し淨土宗京都智恩院の末寺なりむかしハ七堂伽藍の巨
刹なりしよしいひ傳へ今廢して境内の藥師堂に行基法師彫刻の像を安置す　喜翁寺　ハ善昌
山といひて曹洞宗關村龍泰寺の末寺なり　落合氏宅址　ハ驛の西の路傍にあり老杉三四株
生ひ茂るうちに愛宕神社あり是　落合五郎兼行の靈を祭るといふ兼行ハ木曾中三
權守兼遠の末子なり兼遠三子一女あり兄を樋口二郎兼光中を今井四郎兼
平弟を落合五郎兼行女を巴といふ皆義仲朝臣に仕へて軍功あり

瀬戸村　ハ岐蘇川を隔てゝ落合の北にあり　苗木領　百八石三斗七升

坂下村　ハ瀬戸の北の方にあり　和名類聚抄　延喜式類聚　三代格　續日本後紀　等に見えた
る坂本はこゝかといふ人ありむかしの官道ハ今の木曾路にあらざれハさもあらむか今定かにハ
知られずよく〳〵其地のさまを見て定むへし　苗木領　九百七十二石二斗　坂下ハ其地廣く高

邊にあり西法寺西法寺河原圓明寺河原等の小名あり又坂下川も村うちより出て木曾川に入る

川上村（カハウエ）は坂下の北にあり　尾張御領　百八十石　正保年中槩して九十石とすと濃州志畧に見えたり　名古屋まて二十六里あり川上付知加子母を三ヶ村と名つけ殊に邊鄙の山里とす　服の小手卷　に御嶽の下にて三浦山といふも三ヶ村に屬せり飛州信州に境として深山を隔平野也云云山中に蟒多く居ると云形を見る事稀にあり薄雪の降たる節其通りたる跡大手桶を引ずりたる如し一尺五寸計の雪は地まてすり出しに木は皮むけ倒る全躰を見たる人はなし腹色赤く背は空色に光り頭に毛長く生すと云云　旡るせり　**木曾川**　は村の東南を流る川のむかふは木曾の山口村なり　**川上川**　は當村の山中より出坂下村に至りて木曾川に落合ふ　**巣乘山**　**長坂山**　**篠根山**　**大根山**　は村の地うちにあり四山ともに鷹隼巣くふ故すべて巣鷹山ともいふ其外山谷多くしてかぞへつくしかたし三ヶ村の圖を見て知るべし　**駒**　は飼戸數守ありて牝牡交合なさしめ生産のうへ飼ひ養ひ長してのち四方にうる三ヶ村ともにこれを業とするもの多し　**鷹**　は鵰隼の類諸鷹を産すむかしは官人來りてこれを司りしか今は村民雛をとりて名古屋に獻す　**材木**　は樅檜の類の良材殊に多し里人伐て木曾川に泛べ流して名古屋に送る當國の材木は名物にて　齋藤親基日記　に文正元年十一月十五日東山御山莊料美濃國御材木事爲二使節一可二下向一之旨齋藤五郎兵衛尉豐基松田主計允數秀等被レ仰二付之一　と見えたりむかしも將軍家の御用木に當國の

材木を伐事を知るべし　**白山權現社**　**星宮社**　**天神社**　**山神社**　**神明社**　ともに村人まつれり　美濃國神名記　に惠奈郡從五位上加上（カミ）明神とあるは川上にいます神なるべけれど今傳へをうしなひて何れの社とも知りかたし　**淨光寺**　は大慈山といひて曹洞宗關邑龍泰寺の末寺なり

付知村（ツケチ）

は川上の北西にありて　**遠山庄**　ともいふ　**尾張御領**　二百八十四石一斗八升　村高帳には二百八十四石八升とかけり　名古屋まて二十七里あり　**大洞山**　**桐小屋山**　**樅樹澤**　**井手**　**瀧澤**　**馬小屋山**　**米澤**　**吉本山**　**小屋尾山**　ともにみな鷹の巣くふ山なり

小路山　は村の東にあり檜けやき等の良材多く有天保十一年將軍家の御用木に御伐出しありしも此澤なり　むかしも美濃より將軍家の御用木を奉りし例あり　殿中日記蜷川親元　に寛正□□□□土岐濃州使遣藤主計允御風呂桑木事□申付候事依御奉書過書番匠一人可有御申沙汰云云　と見えたり東山殿山莊を造營ありて風呂屋の用木を美濃の土岐へ仰られしかは其使來りしまゝ奉書と關所手形と大工一人を御申計らひ給ひねと親元よも伊勢守貞親へ申達したる趣なり　また　齋藤記親基日記　に文正元年十一月廿日東山御山莊料美濃國御材木事爲二使節一可二下向一之旨齋藤五郎兵衛尉豐基松田主計允數秀等被二仰付一之　と見えたり　又　**木の葉山**　は木曾山舊記に元和の頃佐藤半太夫木曾山の繪圖を撰す三十一枚圖也濃州中津川にゐて人民

を集めて作レ之此圖に美濃三ヶ村の内附知山の形木の葉形に成しとなり其故ハ外の村〳〵より
ハ圖面早く出し集りしに附知の百姓圖を出さず依レ之山のなり木の葉の形にのこりしとなり故
に木葉山と名つくと云と見えたり佐藤半太夫ハ名古屋の御國奉行といふ官人也 **箭斡坂** ハ
加子母村の方へゆく道にあり **付知川** ハ北の方の山奥より出數村の地をへて苗木の西にて
木曾川に落合ふ **騘馬潭** ハ付知川の中にあり傳云此村有二郷宗田口氏一其先曰二遠山玄蕃一曾
飼二騘馬一夏月飲二其潭一俄而馬發二馳跡一既家人怪而見レ之有二小兒蹲二踞其側一乃魍魎也盜水中抱二
馬脚一馬驚奔製曳而然家人欲レ殺レ之玄番諭二魍魎一戒レ無レ惱二人畜一而放レ之爾後不レ害二人畜一因以
名レ之玄番子孫至レ今有レ之 と 濃陽志畧 に見えたり其外山川谷〳〵多し圖を見て知るへし
土産 馬 鷹 材木 川上村にをなじ **若宮八幡社** **子安大明神社** **牛頭天王**
社 **水無大明神社** 四社とも一村の生土神とす **一王子社** **若宮社** **大山權現**
社 **天神社** **三輪大明神社** ともに村民まつる **宗頓寺** ハ禪德山といひて臨濟宗
京都妙心寺の末寺なり
加子母村 ハ付知の北にありて **遠山庄** ともいふ三ヶ村のうち殊に奥なる里なり **尾張御**
領 **千百八十九石五升** 正保年中減じて **五百九十石四斗七升四合** とす 名古
屋まで二十九里傘山路を踰れハ二十四里あり苗木の城下まてハ七里あり枝村二所ありて

小郷 **角瀧** といふ **西小谷山** **杉平山** **福前山** 又ハ細野山ともいふ **尾山** **熊原山**
二本樹山 ともに鷹の巣ぐう山なり **舞臺坂** ハ飛驒の國堺にあり **大樹の檜** 一もと
あるを標とす **加子母川** ハ當所の山々より出加茂郡白川村に至りて飛驒川に落合ふ其外山
川甚多し圖を見て知るべし **土産** 馬 鷹 材木ハ川上村に同じ **一宮社** **水無大**
明神社 一村の生土神とす **白山社** **劍權現社** **若宮八幡社** **多賀大明神社**
新宮社 **白山社** **天王社** ともに村民まつれり **法禪寺** ハ方燈山と號し曹洞宗田
代の洞雲寺の末寺なり **永養寺** ハ淨土眞宗京都西本願寺の直末寺もと道正房といひしを中
古今の寺號とす **地藏堂** ハ枝郷小郷にあり堂のうしろに大樹の杉あり其圍五丈餘
世に類ひなき老樹最珍らしとすべし **多聞寺發跡** ハ曹洞宗田代山寺の洞雲寺の末寺な
りしかこと〳〵くすたれて今ハ礎石のみ殘れり

田瀨村 ハ下付知の南にあり **苗木領** **二百九十九石三斗七升六合**
下野村 ハ田瀨の南にあり **同領** **三百六十九石九斗八升**
上野 ハ下野の東にあり **同領** **二百五十二石三斗五升六合**
福岡村 ハ下野の南にあり **同領** **七百四十五石八斗九升** **付知川** ハ村の西を流
る三ッ森山ハその西北に並へり

日比野村 ハ福岡の南苗木の北にあり 苗木領 九百九十九石二斗五升

上地村 ハ苗木の東にありて城下のうちなり 同領 九十五石九升 船渡 ハ木曾川駒場村中津川等への舟わたし也

高山村 ハ付知川を隔てゝ日比野の西にあり 同領 三百十三石四斗八升五合

蛭川村 ハ高山の西にあり 苗木領 八百六十六石八升八合 奥戸村 ハ蛭川のうち也 笠木山口 ハ村の西にあり此邊の高山なり 蛭川 ハ村の北より出南の方にて木曾川に入る 天川 も同し山より出南の方へ流れて木曾川にいる

毛呂窪村 又毛鹿母ともかく ハ蛭川の西にあり 同領 三百六十五石四斗三升六合

久須見村 ハ吉蘇川をへたてゝ毛呂窪の南西にありもと土岐郡のうちなりしよし 郡村記 にしるせり十三嶺の深萱植ヶ根の北に並ひて土岐郡に接したる地なり 岩村領 千五十七石六斗 千田村 山中村 毛立村 四辻村 ハ久須見のうち也 船渡 ハ木曾川姫栗村の方へのわたし也此邊川上川下早瀬にて 片間久利 六段淵 鍋岩 鎧岩 とう木 などいへり 紙 ハ 中折 廣帋 小菊 等をすく

藤村 ハ久須見の西にありもと土岐郡に屬たりしよし 郡村記 にいへり今も其郡と堺近し 岩村領 御旗本領とも 九百六十二石五斗五升 小藏屋敷 梅ヶ平 王留前 新道 小澤 さゝ原 等の小名あり 深萱村 も枝郷にて十三峠の街道筋にあり 大久後權現社 ハ深萱にありて其山を 權現山 といふ

馬場山田村 ハ岩村の南西にありて 遠山庄 といふ又 手向郷 と稱す 尾張御領 岩村領とも 千六百五十一石四斗七升一合 うち御領三百八十五石一斗四升 名古屋まで十六里岩村まで一里あり 濃陽志畧 に里民傳云此村本屬ニ岩村城一曾有ニ八幡祠一萬勝寺奉祀里民各以ニ田地一寄附爲レ產永祿中武田信玄拔ニ岩村城一時罹ニ兵燹一悉爲ニ烏有一慶長中田丸中務在ニ岩村城一爲ニ千石賊一神祖命ニ遠山民部一取ニ岩村城一以ニ明知邑六千石一賜ニ民部一其後寺產之地爲ニ間田一岩村明知爭レ之不レ決官裁收爲ニ公領一元和中隷ニ千張藩一 と見へたり 枝村峯山 ハ明知領遠山氏の采邑なり 八幡社 ハ村民まつれり 萬勝寺 ハ妙寶山といひて臨濟宗明知村龍護寺の末寺なりむかしハ天台宗七堂伽藍の大地なりしが天正年中兵火にかゝり悉廢絕せしを龍護寺の天室和尚再建して隱栖の地とす

嶺山村 峯山ともかく ハ馬場山田の枝村にて 御旗本領 三十二石一斗五升九合 の里なり

澤中村 ハ嶺山の南の方にあり 岩村領 十七石二斗六升

小杉村 ハ澤中の西南にあり 御旗本領 五十一石六斗一升二合

落倉村　ハ小杉の西にあり　御旗本領　二十四石三斗七升二合

門野村　ハ落倉の西にあり　同　百六十一石四斗八升

杉平村　ハ門野の西にありて　同領　七十五石六斗　の地なり

野志村　ハ杉平の西にありて　同　二百十四石七斗　の里也

大船村　ハ野志の西にあり　同　百三石二斗二升四合

小泉村　ハ大船の西にあり　吾妻鏡の文治六年四月十九日の條また　神風抄　に美濃國小泉御厨　と見え康正二年内裏段錢並國役引付に濃州小泉四ヶ郷段錢　とあるハこゝか安八郡の小泉村か今定かならす　同　百一石二斗

原　　村　ハ小泉の西北の方にあり　同　二百二十三石三斗　園太暦に文和二年四月十日於尾州有合戰賊首二十許持上守護代土岐家人等合戰件黨類原蜂屋等也　と見えその外諸系圖諸軍記古書ともに原蜂屋と連稱したる國武士ハこゝにすみし人なるべし

釜屋　村　ハ小泉の北にあり　御旗本領　四百五十六石五斗七升

上手向村　ハ馬場山田の西にあり　和名類聚抄　に惠奈郡淡氣とあるハ上手向下手向なり　同　七百八石四斗

下手向村　ハ上手向の西にあり　同領　三百八十三石六斗

久保原村　ハ上下手向の北にあり　同領　五百四十石七斗　因果物語　に濃州明知領久保原村に洞家の小寺有坊主齋より皈りに地藏繩手と云所の路の惡布を直す折節近所手向村の八藏と云者通り懸るに大なる黒牛角にて路を除る八藏思樣ハ久保原村孫右衛門牛ハ人擡也きやつハ曲者ぞと獨言いふて廻道を行ハ田の中に男二人居けるに對して孫右衛門人つき牛を放ち置を見に角にて路を跡りける間廻り道して來と云彼男共其方ハ惡口を云なり唯今我々賴たる坊主地藏繩手の路を手から能作むと申されし物をと云それより肝を消沙汰せす元和年中の事也　と見えたり今も地藏繩手といふ所あり

田代村　ハ原村の西にあり　御旗本領　九十七石四斗一升二合

大川村　ハ田代の南西にあり　御料　百八十一石三斗二升六合

水上村　ハ大川の東にあり　同　百八十石一斗五升四合

猿爪村　ハ水上の東にあり　御旗本領　二百四十石一升四合

吉良見村　ハ猿爪の東にあり　同　百六十一石二斗八升

多良子村　ハ吉良見の南にあり　同　百五十七石四升

大栗村　ハ多羅子の東にありて　同領　五十石六斗　の地なり

上田村　ハ大栗の東にあり　同　五十六石七斗六升六合

明知村 ハ上田の東にあり 石清水八幡別當宗清法印立願文應保五年正月廿七日にかきし古書にて羣書類従のうちに印刻す に可ㇾ建ニ立大塔一事 右件塔者成清爲ニ撿校一之時燒失了云云美濃國明知庄者彼塔領也弟子相傳于ㇾ今知行付ㇾ彼付ㇾ此可ㇾ遣可ㇾ果志之尤切也神必哀納矣 と見へし明知荘ハこゝなるべし 御旗本領

六百八十四石一斗一升二合 明知彦九郎頼重従五位下民部少輔法名淨榮 ハ 土岐系圖 に土岐彈正少弼頼遠の弟土岐五郎頼基の子にて領ニ濃州土岐郡明知郷一頼重始號ニ明知一稱ニ土岐明智一と見えその子 土岐明知十郎頼篤幼名氏王丸 其子 刑部少輔頼邦應永年中の人なり 其子 式部少輔頼秋幼名長壽丸 その子 土岐明知十郎頼秀嘉吉文安の頃の人 その子 左京亮頼弘従四位下應仁文明頃の人也 其子 土岐明知兵部少輔頼定明應の頃の人 としるし又土岐大膳大夫頼康の弟に 明知下野守頼兼その子 明知十郎頼言といふ人をのせたりみなこゝの人なるへし頼定ハ今の上野の沼田候の祖なり 明知日向守光秀ハ織田信長公に従ひ軍功ありしがのち主君を弑し逆臣の名を海内に顯ハす豐鑑に明智日向守光秀ハ美濃國土岐郡明知といふ里に生れ昔ハ土岐の一門とかやいひし貧しくなりはて下部の一人をも持ず越前國などさすらへありき思ひがけず信長に宮仕心に叶ひもて江南志賀郡をしり坂本といふ所に城搆ありしが天正六年の頃にや丹波へ越はだのなどいへる國人を討亡し國の主となり猶江南を知たり云云 と見へたり 土岐郡明知とハあやまりにて此地の事なるべし 光秀の終り小栗栖にて土民に殺害せられしよ

しといへとも異説多くて定かならず 祖父物語一名朝日物語 に 光秀死生知れざれば 近邊殘らず尋ねけれども求め得ず翌日村井清藏と申者の代官所大江と申ス在所よるキンカなる首一ツ持來り此者過し夜大江へ參り我を坂本へ連て行金銀ハ思ふ儘にとらせむといふ百姓ども何條盗人のたばかりにて有らんたゝ打殺せとて扣殺したると申けり丹羽五郎左其首に喰ひ付齒ぎしみをして汝よ活してなぶり殺さむ者をと申けり扨死骸を取寄せ首を繼車に乘せ洛中を引廻し三條河原に逆磔にぞ懸けたりける としるしたるぞたゝしき事實なるへし 古城址 ハ 遠山相摸守はじめ民部 先祖より領す天正二年武田勝頼美濃に發向し四月上旬までに數ヶ所を責うち明智の城をも攻取りしよし參河後風土記等に見えたりあるひは遠山與助明知村にありて元龜の頃一族遠山久兵衛と同しく甲斐の武田家に屬し信長公と合戰せしともいへり 其後 當城主遠山勘右衛門慶長五年の乱に御味方に加勢しけれハ本領を賜ひ子孫御旗本に勤仕し遠山七之丞を通稱とす明知領七千石といふ是なり 龍護寺 ハ臨濟宗京都妙心寺の末寺也

岩竹村 ハ上田の南にありて矢竹ともかく 御旗本領 二十六石六斗一升二合

柏尾村 ハ岩竹の東にありて 同領 十七石四斗六合 の里なり

小路志須淵村 ハ柏尾の東にあり印行の圖にハ下風村と須淵村と二所とす 同領 七石一斗

馬坂(ウマサカ)村 は小路志須淵の東北にあり 同 十三石八斗六升

馬木(マキ)村 は馬坂の東北にありて 同 三十石二斗四升 の地なり

高波村 は馬木の東にあり 同領 百三十六石一斗

漆原(ウルシハラ)村 は山を隔てゝ高波の東にあり 岩村領 百十四石四升

上(カミ)村(ムラ) は漆原の東にあり此地 惠奈嶽 の西南にて惠奈の本郷惠奈上なるへし 三代實錄 元慶三年九月四日の條に惠奈郡給上郷 とゑるし 和名類聚抄 に惠奈郡給上 と見えたるもゑなかみなるべし 岩村領 六百四十九石五斗五升四合 横通(ミチ) 小篠原 などいへる地も上村のうち也 大船寺 は大船山にありて眞言宗なり高山にて境内も廣く一里余四面ありといふ良辨僧正の開基にてもと山上に在りしか堂宇頽廢し寺產も耗損せしかば慶長以後山下に移れり良辨杉辨慶杉などいへる古木其外名ある舊跡所々にあり元龜三年五月織田信忠卿岩村の城を圍まれし時軍將毛利河内守河尻肥前守等當院を賴み後の嶮崖(ケンガイ)を凌て水晶山に登り城中を見下してこれを射落し勝利を得し所也

下(シモ)村 は上村の南にあり是も惠奈の下村にて 和名類聚抄 に 惠奈郡給下 と見え奈良の東大寺所藏の天平勝寶二年四月廿四日 美濃國司解文に 婢石都賣廿年右惠奈郡給下郷戸主縣主 云云 之賤 としるしたるゑのしもはこゝなるべし 岩村領 二百

二十六石九斗四升

小田子(コダコ)村 は下村の南にあり 岩村領 百二十一石二斗七合 當村より南東の方へ細道ありて參河國設樂郡押山村に至る

串(クシ)原(ハラ)村 は小田子の西にあり 同領 千二十八石二升六合 その地廣く 川ヶ渡 閑羅瀨(シツラセ) 釜井 中澤 等の小名あり此村よりも南の方に小徑ありて 參河國賀茂郡牛地村に至る 遠山氏宅迹 は永享以來御番帳に遠山櫛原五郎と見え長享元年九月十二日常德院殿樣江州御動座在陣衆着到に濃州遠山櫛原藤次郎遠山櫛原藤五郎としるしたるはこゝの人なるへし其のち遠山與五郎の一族すみしといふ遠山彌左衞門が時甲斐の武田勝賴の爲に天正二年攻落され廢宅となる

淺谷(アサカヒ)村 は串原の西の方にあり 御旗本領 百十四石三斗二升

安村 は岩竹(ヤダケ)の西南のかたにあり 同 十四石一斗六升八合

土(ド)助(スケ)村 は安村の南にあり 同 三十四石三斗二升八合

才坂村 は土助の南にあり 御旗本領 三十二石四斗七升四合

阿妻村 は才坂の南にあり 同 九十石三斗五升 當所より南の方への道ありて參河國賀茂郡市野村に至る阿妻村より市野村の一里塚まて十二町と印行の參河國圖に見えたり

一色村 ハ阿妻の東の方にありて 同 二十石 の里なり

野原村 ハ一色の東にあり 同 三百三十九石七斗 こゝよりも南の方へ小道ありて參河國賀茂郡小渡村に到る

新撰美濃志廿五の巻

尾張 文園 岡田啓編輯
美濃 簡齋 神谷道一修正

土岐郡

多治見村 ハ郡のうち西南のはて川を隔てゝ可兒郡の堺にあり村のうちを下海道貫きつねに旅人のゆきゝ多し 新撰姓氏錄 の丹比宿禰の條に大鷦鷯天皇御皇子奉レ號曰二多治比瑞齒別命一乃定二多治部諸國一爲二皇子湯沐邑一云云 同書 に丹比宿禰火明命三世孫天忍男命之後也男武額赤命七世孫御殿宿禰男色鳴大鷦鷯天皇御皇子瑞齒別尊誕二生淡路宮一之時淡路瑞井水奉レ灌二御湯一于レ時虎杖花飛入二御湯瓮中一色鳴宿禰稱二天神壽詞一奉レ號曰二多治比瑞齒別命一乃定二多治部諸國一爲二皇子湯沐邑一即以二色鳴一爲二宰令一領二丹比部戸一因號二丹比一遂爲二姓云云 と見ゆれたぢ部を置給ひし當所も其一邑なるべし 御料 千五十六石一斗六升九合 脇村 市之倉村 ハ多治見のうちなり 馬づくし山 ハ村の地内にあり 古城跡 ハ田治比氏世々すみし地なり 多治見四郎次郎國長ハ 太平記 の資朝卿無禮講を行ハれし人數の

うちに美濃國住人土岐伯耆十郎頼貞多治見四郎次郎國長と云者あり共に淸和源氏の後胤として武勇の聞へありければ資朝卿様々の縁を尋て昵び近づかれ朋友の交り已に淺からざりけり」と見ゆ 同記の土岐の類員が回忠に依て六波羅より討手を差向し條に元徳元年九月十九日の卯の刻に軍勢雲霞の如く二手に分て多治見か宿所錦小路高倉土岐十郎か宿所三條堀河へ寄ける多治見が宿所へは小串三郎左衛門範行を先として三千餘騎にて推寄たり多治見は終夜の酒に飲酔て前後も不レ知臥たりけるが時の聲に驚て傍に臥たる遊君物馴たる女なりければ枕元なる鎧取て打着せ猶寐入たる者ども起しける小笠原孫六は傾城に驚かされて刀計りを取て中門に走出内へ入て腹巻取て肩になげかけ門の上なる櫓へ走上り忍様に射けるに面に立たる兵二十四人矢の下に射て落し太刀の鋒を口に咥て櫓より倒に飛落て貫かれてぞ死ける此間に多治見を始として一族若黨二十余人大勢の中へ乱入て面もふらず切て廻る多治見今は是までとや思けむ中門に並居て廿二人の者ども互に差違々々算を散せるが如く臥たりけり」としるせり 增鏡に其ころ長月ばかりまだしのゝめのほどに世の中いみしくさわぎのゝしる何事にかときけばみのゝ國の兵にて土岐の十郎とかや又たぢ見の藏人などいふものどもしのびのぼりて四條わたりに立やどりたる事有人にかくれて居りけるをはやう又つけ知すものありければ俄に其所へ六はらより押よせてからめとるなりけり云云 事の起りは御門世をみたり給はむとてかの武士どもをめした

るなりとぞ」と見え 保暦間記に「此の主上企て已に開東へ給條に正中元年九月二十三日事あらはれて土岐十郎源頼時丹治比なんど申者京都にて誅せられけり」とあるも其時の事也國長は土岐の庶流にて 土岐系圖 に土岐大膳大夫光行（従五位下左衛門尉號淺野判官）の四男土岐四郎國義の子又四郎國俊の二男多治見四郎次郎國長 としるせり 其のち多治見修理亮住しといふいつの頃の人か定かならず

笠原村

笠原村 は多治見の東にあり 土岐系圖 にのせたる貞治五年八月三日義詮將軍より土岐下野入道頼高に賜ひし證狀に美濃國妻木郷內笠原 と見えたり 御料 千二百石一斗七升七合 ほうづき山 は村の地うちにあり當村より南の方へ小道あり尾張國春日井郡下半田川村上半田川村に至る

妻木村

妻木村 は笠原の東にあり 土岐系圖 にのせたる應永三十四年六月廿五日義持將軍より土岐式部少輔頼秋に賜ひし證狀に美濃國妻木郷云云 と見えたり 御旗本（妻木氏）領 千三百二石三斗四升三合 古城跡 は 妻木傳兵衛直徳妻木雅樂助等の住居の地なり直徳の女は寺澤越中守廣正の室也といふ雅樂助は慶長五年の乱れに關東の御味方に參りて功ありし故本領を賜ひ御旗本に歴仕す 金山記 に妻木主將妻木喜十郎森家の旗下に屬し金山に居住の地を得て參勤せしとぞ衆山に妻木屋敷といふ遺跡あるよししるせり

大平（ヲボタイラ）村 ハ妻木の枝郷にて 同領 三十七石四斗一升四合 の地なり
下石（オロシ）村 ハ妻木の北にありて 御料 八百二十七石一斗七升 の地なり
土岐口（イキグチ）村 ハ下石の北西にあり 和名類聚抄 に土岐郡土岐とゑるしたるハこゝなるへし 同
八百六十三石一斗五升三合 沓掛村 小井上田村 ハ土岐口のうちなり 土岐
口ハ下海道筋にて旅泊休茶屋等あり伊勢國鈴鹿郡沓掛村信濃國佐久郡沓掛村尾張國愛智郡沓
掛村等みな古驛の趾なるよしいひつたへたれば此沓掛もむかしの宿驛にて 和名類聚抄 に土
岐郡驛家と見え 延喜兵部式 の驛傳馬の條に傳馬土岐十疋 とあるハこゝかされども當郡の
うち日吉の 宿村 釜戸の 宿村 ハ其地つゞきて廣く古驛のあとかと思ハるゝよしあ
れハ今何れの地をそれともさしかたしよく〳〵考へ定むべし 土岐美濃守源光衡従五位下左衛門尉法號台寳寺 ハ多田滿仲朝臣六代の裔孫伊賀守光基の養子也 實は光基の弟出羽守光長の三男なり 曩祖六孫王經基を
はじめその子滿仲その子賴光その子賴國その子國房また賴光の弟賴信その孫義綱等數代打つゞ
き美濃守に任し當國を受領しける故子孫何れも國うちに住し美濃源氏と稱す光衡はじめて土岐
郡此地に住し土岐をもて家號とし彼家の元祖となる子孫所〳〵に住し各〳〵家號を異にす光衡
右大將賴朝卿に從ひ美濃守護職を拜受せり家の紋に桔梗を用ゆる事ハ 諸家紋帳 に土岐氏本
出二于源姓一故其爲レ紋者一ニ變白色一以爲二水色一昔時唯用二焉是一又所三以貴二其先一也後有二野合戰一

時取二桔梗花一挿二于其冑一以大得レ利矣因爲二之例一遂置二之水色之中一以爲二之定紋一也云云但桔梗者
無紋水色 と見えたり

久尻（ジリ）村 ハ川を隔てゝ土岐口の北東にあり 御料 六百五十二石四升九合 磁器
ハ壺鉢等をやき出す陶竈數ヶ所にありて數品を製す元祖を加藤筑後といふ尾張の瀬戸の藤四郎
の一類なるへし世にぐじりやきと稱す枝郷を竈（カマド）と名づけしハ此陶竈より起りし成るへし當郡の
うち駄知多治見下洞妻木下石笠原等の村〳〵にても又陶器を製造す是を久尻燒又美濃燒ともい
ふ 久尻四郎貞高ハ 土岐系圖 に土岐隱岐守光定の孫蜂屋近江守貞經の二男のよし見え
たりこゝの人なるべし

大富村 ハ久尻の東北にあり 御料 岩村領とも 八百七十六石二斗四升九合
竈村は大富のうち也是も陶器をやくかまどより起りし名なるへし 紙 ハ直帋半紙小菊等を
すき出すまた近村土岐口の枝郷あらまき肥田村等にてもすく 山神社 ハ 御除地八斗
五升 神明社 ハ同しく 一斗六升四合 白山社 ハ同しく 三斗四升 あり
延命寺 ハ臨濟宗にて 五石二升二合 の除地あり 土岐彈正少弼賴遠はじ
め土岐郡大富に住しのち厚見郡長森の城にうつりしよし 土岐系圖 に見えたり

定林寺（ジヤウリンジ）村 ハ大富の東北に並へり定林寺ハ當國の守護土岐伯耆守賴員の法號也此人厚見郡高田可

兒郡兼山等に居住し暦應二年二月廿三日卒去す 家中竹馬記 に伯耆入道頼貞とかけり 此帳の末にあり可見合 その菩提寺のこゝにありてしか名づけしなるへし今は其寺なし石碑はこゝの近邑牛原村にあり 季瓊日録 に永享七乙卯十月廿一日濃州定林寺新命昌敦西堂公文御判出永享九丁巳十二月二日美濃定林寺新命承頤西堂尾張光音寺新命契智首座各以二吹噓狀一伺之八日當院御成云云定林寺光音寺新命公帖御判出矣同十一己未九月八日濃州定林寺新命等過西堂以二吹噓狀一伺之長祿二戊寅八月廿五日濃州定林寺景忠西堂御判被レ遊寛正二辛未二月廿七日美濃國定林寺壽兆西堂公文御判被レ遊也 なとあり 岩村領 三百三十五石三斗

河合村 は定林寺の東にあり村の東南の方を釜戸川流れ北の方より日吉川來りてこゝにて落合ゆゑ河合と名づく此おたり兩岸岩石多く好景なり下街道筋にて此所より虎溪への道もあり

岩村領 四百八十一石三斗

淺野村 は川を隔てゝ大富定林寺の南にあり 御料 岩村領とも 三百六十七石九斗五升 淺野氏城址 は村内にあり 淺野判官光行 は土岐美濃守光衡子にて後鳥羽天皇の西面 あるひは北面 出羽守に任じ又池田新次郎の子息を討追せし賞に建保四年左衛門權尉に任じ淺野判官と稱す實朝公大將拜賀の時隨兵たり法號を向山寺といふよし 分脈系譜 土岐系圖 等に見えたり此所にすみし人なり光行の弟淺野次郎光時その子淺野太郎光淸等みなこゝ

の人なるへし後世の城主淺野十郎左衛門も土岐の庶流なり

高山村 は淺野の西南にあり 夫木抄 にたか山大和又美のとあるは此地をさせるなるべしされども其のせたる歌は三首とも大和の名所にてこゝの歌にはあらず 御料 百九十四石六斗六升 古城跡 は 金山記 に土岐郡高山に 城主平井頼母は森家の猛威を懼れ降參して城を明ケ渡し自身は下屋敷ニ住みけれは武藏守使をつかわし城を受取伯父の林長兵衛尉を居置しよししるしたる城のあとなり

肥田村 は淺野の東にあり 岩村領 六百二十一石五斗三升二合 下肥田村は肥田のうちにて下海道筋にあり土岐の一族肥田氏本貫の地なるへし 土岐肥田伊豆守持重は慈照院准后八幡宮社參記の終りにのせたる永享十年御參伺帶刀のうちに土岐肥田伊豆守持重と見え長享元年九月常德院殿樣江州御動座在陣衆着到には濃州土岐飛驒伊豆守 としるせり 生駒因幡守利法名露月より坪内氏への書翰に肥田伊豆守同修理亮土岐郡肥田村に住みし人のよし見えたり 土岐飛驒中務少輔直盛は同着到にのせ永享以來御番帳には 土岐肥田中務少輔と見えたり 肥田源四郎 肥田兵庫助はともに永享年中御番帳文安年中御番帳に見えたり 土岐飛驒八郎は長享元年常德院殿樣江州御動座在陣衆の內に見え 肥田助太郎政季は諸家紋帳にのせ 肥田孫太郎 肥田判官は土岐元頼に從ひ石九丹波守利光か

乱に敗軍して打死せしよし　船田後記　に見えたりみなこゝの人なるべし　文亀二年志野宗信宗名香合に肥田左京亮頼直とあるは長享元年江州御動座者到に遊州肥田左京亮としるしたれば他國人也

駄知村　は肥田の南東にあり　岩村領　三百三十一石九斗八升　駄知川は當所より流れ出淺野肥田の間にて土岐川に入る

柿野村　は妻木の南東にあり　同領　四百七十九石一斗四升　雨澤村　は柿野のうちなり　美濃國神名記　に土岐郡從五位下垣野明神　とあるはこゝの神なるへし　徑路　當村より南の方參河國賀茂郡白川村に至り岡崎への往還也板行の三河國の圖に美濃柿野まて岡崎より八里廿七町白川村一里山より二十一町　としるせり

細野村　は柿野の東にあり　土岐系圖　に載たる貞治五年八月三日將軍義詮より土岐下野入道頼高に給ひし證文に美濃國妻木郷内曾木村細野村　と見へたり　同領　三百六十二石四斗八升

曾木村　は細野の東北にあり　御旗本領　三百六十四石八斗一升　温泉　は松平秀雲の　閑遊毀録　に癸亥寛保三年夏余有宿痾欲浴温泉濃之曾木地出温泉余修撰之暇願遊此地云云　とみえたり

小田村　は肥田の東北にあり　御料　五百六十九石八斗九升七合　土岐川北の方を流る水源惠奈郡竹折の山より出日吉川もみち川萩原川駄知川等落合ひ久尻田治見などの村〳〵を經て尾張の內津に到り篠本の數村を過き南西へ流れ杷枇島川となり下一色村にて海に入る水源より凡二十余里の長流なり

山田村　は肥田の東にあり　御料　御旗本領とも　五百二十八石七斗一升

羽廣村　は山田の東にあり　御旗本領　五十五石三斗二升

須宮村　は羽廣の南にあり　御料　百七十一石六斗三升一合

小里村　は羽廣須宮の東にありあるひは折村ともかく　御料　御旗本領とも　六百四十二石五斗五升八合　古城跡　は土岐の一族小里出羽守がすみしといひつたへたり　土岐系圖　に六角判官國衡の三男土岐又太郎國村の子又太郎國氏の五男　小里太郎國定としるしたるもこゝの人なるへし慶長のころ小里氏の子孫　和田助右衛門あるひは作兵衛　在城し大坂御退治の時關東の御味方にまいりしといふ其頃　三千石領知　せしとぞ　小里川は南より北になかれ此あたりにて萩原川に落合ふ

萩原村　は小里の北東にあり　御料　二百九十八石八斗六升六合　萩原川は東の方惠奈郡手向村のあたりより流れ來り北西の方猿子村にて土岐川に入る　萩原孫三郎國實は小里太郎國定の弟なるよし　土岐系圖　に見へたりこゝの人なるへし

猿子村 は羽廣の北西にあり 御料 岩村領 御旗本領とも 二百八十四石四斗二升三合 猿子參河守國行は 土岐系圖 に土岐又太郎國氏の三男にて小里太郎國定の兄なるよし見えまた 分脈系譜 に國行の叔父〈又太郎國氏弟〉國宗號二猿子一 とえるせりども にてこの人なるへし

寺河戸村 は猿子の西にありて寺川戸ともかく 御料 五百七十九石六斗一升 木曾玄蕃義德は義仲廿世の孫玄蕃助義辰の子也沈淪して濃州土岐郡寺川戸村に住しが天和元年死去し嗣絶たり其弟上松義偶のみかすかにして住めり と 青栗園隨筆 にいへり

戸狩村 は川を隔てゝ寺河戸の北にありて下街道筋なり 御料 御旗本領とも 五百二十一石三斗二升五合 八幡社 は村のうち山のうへにあり例祭八月十七日 岩屋不動 は八幡宮の東の山の岩窟にあり靈驗あらた也といふ

山野內村 は戸狩の西に並ひ下街道筋にあり 御旗本領 三百三十九石三升九合 氣比大明神社 は村內にあり 明白寺 は黄檗宗山城宇治の萬福寺の末寺也開基は雲巖和尚

月吉村 は山野內の北にあり 八雲御抄 につきよしの里〈美乃〉と見え 色葉和歌集 の郷の部につきよしの郡〈郡は郷の誤字なるべし〉とえるせり 夫木和歌抄 にみのゝ國月よしの里 元輔 やみならぬへき物をたのめぬも人にまたるゝ月よしの里〈木曾路名所圖會に夫木登りなき豐の明に空晴てひかりをそふる月吉の里茂明としるしたるはひがこと也夫木抄の里の部に月よみのさと主基方御屏風丹波國又近江藤原茂明朝臣くもりなき云云結句月よみの里と見えたれば全く他國の名所の歌なり又山家夜る盃のさかひはこゝに有明の月吉日吉里をならべて西行としるしたれど是も流布の山家集になき歌なり名所圖會は無下の俗書なれば論ずるに及ばずといへどもさる古歌のあるをもらしたりと人の思はもむうれたければしばらく其よしをしるすのみ〉 御料 四百九十四石四斗九升八合 石蠶 は山野に產す俗に 月の糞 といふ 本草正譌 に濃州月吉鄉に多く產す月の球と云は石蠶なり其邊石蛤も有之 と記し 物類品隲 の石髓の條に美濃國に產する日糞月糞と稱するもの人甚珍とす或曰空中より此物を雨すと此說非なり是亦乳水玉液等の螺殼中に入凝結して後螺殼去て乳液の殘りたるもの也 と見えたり 又三日月形の白石も出づるを世に名石とす

半原村 は月吉の東にありて津田庄といふ 尾張御領 百八十一石 名古屋まて十二里あり 山王社 八幡社 ともに村のうちにあり 福壽寺 は日光山と號し平岩村開元院の末寺なり 土岐賴員墓 は村の地うちにありくはしく定林寺村の條にしるす合せ見るべし

神箆村 は月吉の東にありて津田庄なり 美濃國神名記 に土岐郡從五位下神野明神 とあるはこの神なるへし 賤の小手卷 に土岐郡神箆村天神宮山に一鎌箆と云有り矢箆竹二本自然に節並ひ生す故に神箆村と名つく今に矢箆竹を貴ふ と見えたり 岩村領 千七百四十

一石五斗八升三合　**清水**　ハ神篦の枝村なり　**砦跡**　ハ天正のはしめ　**信長公**
岐阜の用心のために小城を十八ヶ所に搆へられしその一城なり夢窓國師の家集にのせたる清水
ハ此枝村か大野郡の清水か訂すへし

一日市場村(ヒトイチバ)　ハ山田の北にありて下海道筋也もと神篦の枝村なりしが今ハ列邑となる津田庄と称
する事神篦に同し　尾張御領　岩村領とも　二百五十二石五斗五升八合
うち御領ハ五十石二斗なり　名古屋まて十一里あり

大湫村(オホクテ)　ハ半原の北にありて遠山庄とも又稲村の庄ともいふ中山道の　**宿驛**　にて京の方
細久手宿より一里半余江戸の方大井宿より三里半の馬つぎ也　尾張御領　九十石　濃陽志畧
に百九石八斗一升とあるハ枝郷神田村を合せたる高なり　名古屋まて十六里あり　**十三嶺**　ハ宿の東大井宿との間に
あり中山道筋登り下り多き故しか名づくされども坂みちやすらかにて嶮岨ならす　**小牧山**
ハ驛の南にありさのみ高からねど諸山に秀て見るに足れり　**野田嶺**　ハ驛の北にあり千村
氏毎年氷糕を製して獻上する地なり　**琵琶坂**　ハ細久手に到る大道の坂をいふ岩石多く道さ
がしく登り下り十町計りもあり坂の上より己寅の方に木曾の御嶽見え北には加賀の白山飛彈山
の間より見ゆ白山ハ大山なる故麓まて雪あり西に伊吹山も見えて好景也　烏丸光榮卿　の　打
出濱記　に大久手といふ所より琵琶坂といふをこゆけふの道すべて山の尾上なりたうげよりか
なたこなたを見渡すにこしの白山峰越に山の腰わつかに見ゆ見るがうちに雲へだゝりぬ　みこ
しぢの忘らねいつくと白雲をふりさけ見れハ雲に消つゝ　伊吹山のはるかなれとさだかに見ゆ
と見えたり　**母衣岩**　ハびは坂の下の路傍にありたて横二丈計の大石なり　**烏帽子岩**
ハほろ岩の西に並へり大きさ母衣岩ほどあり遠近の人よく知れり　**官舍**　ハ古有二輕卒將一
監レ之今罷但令三輕卒護レ之掌二河上流材一と　濃陽志畧　に見えたり　**神明社**　**白山社**
八幡社　**天王社**　**愛宕社**　**石神社**　ともに村の地うちにあり　**宗昌寺**　ハ金城
山といひて臨濟宗細目村大仙寺の末寺なり慶長十年村人　保保氏創建　し其法名をもて寺
號とす

神田村(カンダ)　ハ大湫の枝郷にて　尾張御領　十九石八斗二升　の地なり　**權現嶺**　ハ村
の地うちにあり遠近より見ゆる故人よく其名をしれり　**神田權現社**　ハ權現山の峯にあり
山の名此神社によれり　美濃國神名記　に加茂郡從五位下神田明神　とあるハ此社なるべし此
地木曾川ハ隔ちたれど加茂郡に接したればむかしハ其郡に屬たりし事疑ひなし　**木曾川**　ハ
北の方にあり此あたり殊に流れはげしく　**神田巻**　**七ッ岩**　**かつたいが瀬**　**両留**
川井釜　**冬虫**　**大箆**　**桶奔**　**樅木巻**　**れかで落し**　**孫七がはな**　**藤五郎岩**
などいふ早瀬多し

中切村 は半原の東にありて釜戸十一ヶ村のうち也 御旗本領 百七十石二斗二升
釜戸十一ヶ村とも御旗本 馬場氏 の領 竈山 は釜戸の郷の山をいふ 夫木和歌抄 に
かまどの山（周防又筑前或は美の）題不知よみ人しらす みの〻國かまどの山の日くるれはけふわたらせぬな
けきをそする ひさくら 道信法師（夫木の印行本にはなみ人しらずとするはわるし）散度にも〻こかれてもたしけきはかま
と山なるひさくらの花 と見えたり又 經信卿母集 にかまど〻いふ所に住ける僧のこ姫君の
御いのりの師しけるがなくなり給ひてのちかひなく御所のたりにしこと〻いひたる返し たも
ひきやかまどの山にいのりしてよその煙りとなさむ物とは とあるは此山の事か又西國にあり
といふかまど山か今は知りかたし 桔梗を かまど山ふもとの野への秋風に蝶の火ふきの花そ
乱る〻 田中道麿

公文垣外村（垣外を垣内ともかけり） は中切の南にありて釜戸の郷なり公文は 名目抄 に公文就二任國一有二
此事一 と見え朝野群載の諸國公文の條に美濃國公文所請留進官帳參拾卷事右主税濟事逍進
天永元年十二月廿日學生惟宗（在判） としるせり村名その事より起りしなるべし 御旗本領
二百十七石七斗三升七合

甚德村 は公文垣内の枝郷にて 同領 四石三斗二升三合 の地なり

宿村 は大湫の小牧山の南にありて釜戸十一ヶ村のうちなり此地日吉の宿村同しく宿洞村と

つらなりて其地殊に廣けれはむかしの宿驛の跡にて 和名類聚 抄の土岐郡驛家こ〻なるべし
御旗本領 百五石 釜戸村 岩屋山極樂寺は信濃の善光寺分身四十八願所の四十一番
に配す何村にあるか訂すべし 釜戸溫泉 は宿村にあり 釜戸浴湯日記（安永二年己四月十余日淺井惟寅の作なり）此
湯の最初を聞に百年はかりにもやなるらむ龍吟山天猷禪寺の老宿此所に隱退して住れけるか此
山の岩下に湧出る泉あり或時白猿の手疵を負たるありて此泉に浴する事一日あまりありてもと
の如く平愈して山に歸り入ぬ彼老宿是を見て疵瘡ある人を入て試けるに皆驗ありしかば世上の
ため也とて浴室客舍等を設置けるか日々繁昌しけるに正德の頃大水にて浴室等流失しけり其後
又作りしかど寶曆己の年の大水にのこらす流れうせぬ夫より段々衰へ近年やう〱浴室客舍か
たはかり作れりされは此湯の事は一切天猷寺の取計らひなり此所の岩山に藥師堂一字あり其堂
寺に老僧一人さし置て湯の事を司らしむ浴室二字客舍五宇あり浴室より二町はかりさりて山の
麓に神明の社あり其側の大石の下より泉湧出て横五六間竪二三間の池あり其わき出るさま幾所
も玉をふくやうに下よりあがる其水至極淸く其匂ひはかなくさきやうなり決して硫黃湯にあら
す礬石湯などゝいふへし味もすこし澁はゆし此池より浴室の內へ筧をかけて水を入る筧の先二
ツにわかれて瀧のやうに落つ是を湯桶にうけて火をたきわかす此水何程の旱にてもかる〻事な
し近年の大旱に此水殊によくわきてあまたの田畠を潤しけるとなむ云云月のあかきに藥師堂の

あたりさまよひありく池のほとり川のみぎはにほたるあまた飛あかる　川そひの釜戸の里の遠近に焼火と見えて螢とひかふ　云云天猷寺の瀧あり七八町はかり奥に谷深く岩ほそひへたる上より落る高さ三四丈もやあらむ　水晶の瀧　とも　龍吟の瀧　ともいふ此山より水晶出るとなむ

龍峯尋二瀑布一　澗遶路崢嶸　崖口噴二霜雪一　石稜砕二水晶一
落時雷鼓動　流處海濤驚　雖レ有二廬山趣一　奈レ無二李白名一

是を三の瀧とす一の瀧二の瀧も近きわたりにあるよし見えたり　龍吟山天猷寺　は妙心寺派當所の領主馬場氏の菩提所なり

足股村　は宿村の枝郷にて　同領　三三石八斗七升三合　の里なり

大島村　は宿村の東にあり暦應四年八月七日攝津親秀讓狀に美濃國大島とあるはこゝか郡上郡の大島村か今は知られす　同領　百九十七石八斗五升　釜戸のうち也　大島溫泉　は村の地うちの山奥にあり大むね宿村の湯の如し九尺四方計りの池より湧出る水なり

上平（ウハタイヒラ）村　は大島の南にありて釜戸のうち也　同領　百五石三斗二升

論橡（ロントチ）村　は上平村の南にありて釜戸のうち也　同領　二十石二斗九升三合

萩島村　は大湫の東南にありて釜戸のうちなり　同領　百五十九石五斗九升　大久後村　は萩島のうち也

細山村　は萩島の　枝郷　にて　六石三斗七升三合　の地なり

平山村　は萩島の東南にありて釜戸十一ヶ村のうちなり　同領　四十二石

本郷村　は月吉の北にありて日吉郷十二ヶ村のうち也其うち當村と南垣外を本郷とす　和名類聚抄　に土岐郡日吉とある舊鄕なり　尾張御領　二百七十八石三斗四升四合　濃陽志畧　に千四百七十二石八斗五升とあるは日吉十二ヶ村の惣高なり　名古屋まで十五里あり日吉十二村は千村氏山村氏の領邑なり　神明社二所　諏訪明神社　村神社　ともに村うちにあり　雉棲樹　は神明社の境内にありむかし彌津神平鷹を放ちて雉を追ひしか其雉こゝなる柞樹に止りしよし里人いひ傳へしか名つけし古木ありしが今は朽果て古迹のみ殘れり　大黒岩　は月吉村に趣く路の傍にあり其形大黒に似たり

南垣外（ミナミガイト）村　は本郷の東北にありて日吉のうち也こゝも日吉の本郷なるよし　濃陽志畧　にいへり　同御領　三百十一石二斗九升九合　名古屋まで十五里　日吉川　は北東の方より流れ來りこゝより本郷村月吉村の地をへて河合村にて土岐川に落合ふ　八幡社　は日吉十二村の總社といふむかし　從三位賴政ぬし當國神篦を領知ありし時　創建　せられしが永祿元年九月九日の火災に祠殿神寶等こと〳〵く燒失せしを翌年　神篦領主西尾宮千代丸

再建し社領永樂錢五貫文一の地を寄附す其後太閤秀吉公社産を沒收せられしよし祠官津下氏の家傳にいへり今のわづかの社領ハ山村氏千村氏の寄附なり 攝社 熊野祠 白山祠 神明祠・若宮祠 頼政祠 惠比須祠 大黑祠 多度祠 天王祠 南宮神 諏訪祠 佐瀧祠 社號不詳 宗政祠 上に同し 等ありまた境内に籠堂鐘楼等あり境外の南の田の中に頼政石と名つけし大石あり 濃陽志畧 に謹案頼政領二神篦一不二經見一或云土岐兵庫頭頼明領二美濃州一頼政嘗任二兵庫頭一且其名共有二頼字一故後世以二頼明一爲二頼政一然可兒郡有二左馬允奉政城址一奉政乃頼政之弟 則頼政於二濃州一不レ無二所由一姑俟二後之君子一としるせり 白山社 ハ村内にあり 増福寺 ハ曹洞宗妙理山と號し平岩村開元院の末寺なり 慈照寺 ハ惠日山といひて曹洞宗平岩村開元院の末寺なり 鈴林 ハ禰津神平か鷹につけたりし鈴こゝにとゝまりし故かく名つけしよしいひ傳へたり 圓池寺 の廢跡ハ村うちにあり龍松山といひしかいつの頃廢頽せしか今詳かならす

白倉村 ハ本郷の北にありて日吉のうち也 尾張御領 三百十五石九斗七升四合 名古屋まて十五里あり 神明社二所 村の地うちにあり 色紙 ハ 濃陽志畧 に古有二美濃守某者一住二白倉一善製二色紙一供御今不二復製一 としるせり 師資記 の治暦四年七月廿一日後三條院御即位の條に此宣命紙書二黃紙一自所給也例用二美の國所レ進紙一而爲美麗新召二紙工一令レ造レ之 と見え 齋戒記 にも同しさまにしるしたる黃紙も色紙のうちなれど此所にてすきしか又京都へ紙工をめしてすかせられしか今ハ知りかたし

宿村 ハ南垣外の東にありて日吉のうち也むかしの驛路なりし故宿村となづけしよし 濃陽志畧 にいへり釜戸の宿村と地つゞきにて廢ければさもあるべし 尾張御領 百七石五斗一升八合 名古屋まて十五里半あり 白山社 市神社 ともに村うちにあり 犬岩 ハ禰津神平が手がひの犬死して石となりしよしいひつたへ牝牡の二石あり 田代山松光寺ノ廢址 は村の地うちにありて今松林となる

宿洞村 ハ宿村の東北にありて日吉のうち也 尾張御領 百三石五斗 名古屋より十五里半餘あり 天道社 天王社 天王子社 ともに宿洞にあり

北野村 ハ宿洞の北の方木曾川のほとりにありて日吉のうち也 同御領 五十六石六斗二合 名古屋より十六里あり 天神社 村うちにあり 天狗岩 ハ高さ數丈木曾川にのそみたてるを遠近より眺望す奇しき狀なり

深澤村 ハ北野の北西にありて日吉のうち也 同御領 二百二石四斗四升二合 名古屋より十五里あり 八王子社 白髭大明神社 天王社 ともに村うちにあり 深澤五郎定氏 ハ 土岐系圖 に土岐又太郎國氏の二男なるよししるせりこゝの人なるべし村

内に内裏の跡といふありて官結ありしとき船をつなきし石といふものあり

田高戸(タカウド)村　ハ深澤の西にありて日吉のうち也　同御領　十五石三斗二升二合　名古屋まて十五里あり　諏訪大明神社　ハ村うちにあり

細久手(ホソクテ)村　ハ深澤田高戸の南にありて日吉のうち也中山道の　宿驛　にて旅泊休茶屋等立ならひ公私の旅人常に往來す西の方御嶽宿より三里東の方大湫宿へ一里半の馬繼なり　尾張御領　無高なり　名古屋まて十四里あり慶長十五年中山道の宿驛となる　山王社　愛宕社　ともに村うちにあり

平岩村　ハ細久手の西中山道筋にありて日吉のうちなり　同御領　六十八石七斗一升七合　名古屋まて十四里あり　鷹嶺　ハむかし鷹の巣のすくゐし故名づけしとぞ　平巖ハ中山道の傍にあり村名も此石によれりといふ　八幡社　ハ村内にあり　開元院　ハ鷹巣山と號し曹洞宗越中國丹木村洞松寺の末寺なり永享十一年月泉正印和尚の開基にて大擅越土岐頼元永樂錢若干を寄進せしかども天正年中火災にあひて證狀も燒失し寺領も廢沒す　土岐郡日吉平岩村鷹巣山開元寺の開山像ハ土岐頼元の畫にて住持洞爽和尚の贊あり其詞云　土岐城主頼元公自寫二吾師之眞相一寄二當山一命レ余需レ贊故述二野偈一章一以應二其望一者也　宇宙禪林　乾坤道場　其儀凜之　五老松長　文明丙申臘月日　巣山洞爽拜贊　叚小手卷　にあり　因果物語　に

濃州土岐の郡開元院と云禪寺に　佛都(フツイチ)　と云座頭有り善者なる故勸進して鎭守堂と門を建けり彼佛都死して後信州伊那郡にて福人の家に生出たり彼父より開元院へ使を以て御寺に佛都(フツイチ)と申せし座頭有つるや一人の子生て手を握七日過て手を開を見れば手の中に開元院の佛都と云名有希代の不思議に候へハ問に遣ハすと也正保元年の事也　と見えたり

松野村　ハ平岩の南にありて日吉のうち也　尾張御領　六石六斗六升二合　名古屋まて十四里あり　鬼窟　ハ村の地うちにあり巨石重疊其下を平岩川伏し流る山の南ハ可兒郡の次月村なり關太郎といふ强盜の棲し跡といひ傳へ窟の深はかりがたしといふ　八幡社　ハ村のうちにあり

次月(シヅキ)村　ハ松野の南にありて日吉十二ヶ村のうちなり　同御領　六石四斗七升　名古屋まて十四里あり此地可兒郡の次月村と地つゞき也むかしハ一村なりしかかく分かれし年月今定かならず　家中竹馬記　に抑當家(土岐殿)者滿仲の長子頼光の苗孫として清和源氏の家嫡也等持院殿(尊氏將軍)の御一家の次諸家の頭たるへき由土岐伯耆入道殿(頼貞法名存孝號定林寺殿)に被仰定ける以來今に至るまて其證跡勿論也先代高時をほろぼさるへきとて最初に伯州に被仰合他に異なる御約諾の子細等古老中傳る儀也云云伯州の長男頼宗ハ伯州に先立て御早世あり二男頼遠御家督になられける處に不意に橫難に依て御生害あり其時節頼宗の長男頼康(大膳大夫法名善忠號建德寺殿)御家督に御成あり實子御座

なくて御舍弟賴雄の御子息を御猶子あり康行と申是也此時不忠の者有て當家に錯乱し康行御敵にならるゝによつて賴宗の三男賴世（刑部少輔殿法名眞兼號禪藏寺殿）公方樣御身方として御忠節あり其時賴世の三男賴益（左京大夫元美濃守號興善院殿）悉皆軍忠を被抽て靜謐せし間鹿苑院殿御感異にして賴益御家督の御判を御頂戴あり然間興善院殿を當家の中興と申儀此謂也此時忠節之輩を興善院殿以來賞せらるゝ也善忠の御時の奉公の輩も康行の乱に進退本意を失て子孫なきか如くに成もあり或ハ共乱に逝殘て興善院殿御時國靜謐の後參る輩ハ興善院殿御代の初參として善忠の御時の奉公を相續せす或ハ子孫絕たるも多しと云云軍忠に依て賞を行ハれ不義に依て家を失故に賞罰改也康行の御子息康政を土岐世保殿と號す三代ありて應仁の乱中勢州にして討死せられし後子孫斷絕す康行之不忠に依て庶流にならるゝ也當方に不限此例多し　と見えたり　竹馬記　ハ永正八年辛未十一月廿七日伊豆守利綱の奧書ある古書なり

土岐家聞書に等持院殿御時土岐伯耆入道殿に仰せられし以來相違なし先代を亡さるへきとて最前に伯州仰合せらるゝと云云土岐たえば足たゆべしと御契約ありけりと古老申侍る也とえ●るし其餘ハ家中竹馬記にいへるに同し

新撰美濃志廿六の巻

尾張　文園岡田啓編輯

美濃　簡齋神谷道一修正

可兒郡

善師野村　ハ當郡のうち西南のはてにありて帷子庄七鄕のうち也尾張國丹羽郡の善師野村と地つゞきなれば俗にこゝを美濃田といふむかし尾張の善師野の農民此地を開墾して村里とせしとぞ

尾張御領　五十九石一斗一升三合　名古屋まで七里あり　黑木明神社　ハ村うちにあり

古瀨村　ハ善師野の東にありて帷子庄なり　同御領　三百四十一石一斗八升八合

名古屋より七里あり　天地大明神社　ハ村うちにあり中切村の社人玉木氏掌る　福田寺ハ德陽山といひて臨濟宗石原村眞禪寺の末寺なりもとハ眞禪寺の隱居所なりしが今ハ住僧別にあり

中切村　ハ古瀨の北にあり帷子庄七村の本所にて　吾妻鏡　の建久三年十二月十四日の條に美

濃國帷庄と見えたる領地なり　賤の小手巻　に帷子の庄は昔天子に帷を奉りける故に名付しと
かや七郷ありて中切を親村とせりとしるせり
まて七里あり　帷子山　は村の北の御林山なるべし　夫木和歌抄　にかたびら山（美濃）二條太皇
大后宮肥後　さ夜更てかたひら山の郭公ひとりねさめの友となるらむ　と見えたり　又同抄に
題不知よみ人しらす　かたひらのもりの木の葉はちりぬともおもひはやまのまつそかはらぬ
とあるもこゝの歌なるへし　鳩吹山　は北の方土田村の堺にありて一名を天神山ともいふ帷
子七村の里民みな此山の草木を刈る此山すぐれて高く絶頂に古松數樹たちたるが遠近より見ゆ
又巨岩ありて　馬簸石　と名つく其名雅ならす山上より眺望すれは美濃諸郡の村〳〵山川眼
下につらなり風景殊に勝れたり此山を土田の天神山といふはあやまりなり　神明社　は帷子
七郷の惣社とす例祭五月五日馬を馳て弓を射る流鏑馬といふ祠官は玉木氏なり　賤の小手巻
に祠官玉置刑郡太輔の庶流に玉置格外といふ人有膂力の聞へありけるか尾州に遊ひ仕を求めし
に望達せず此郷に歸り石原の眞禪寺の邊に住ける眞禪寺門前の松を結ひけるか今は枯ける其後
各務郡にて老死せりと見えたり　白山社　八幡社　ともに村内にありて社人玉木氏つかさ
とる　東光寺　は福重山といひて臨濟宗石原村眞禪寺の末寺なり　藥王寺　は清涼山と號
し天台宗尾張の春日井郡野田村密藏院の末寺也境内の藥師堂に惠心僧都の刻める丈六の像を安
置す　龜井母墓　は村の南の山の上に古き石塔のあるを里民龜井六郎の母の墳といひつたへ
たり今是非は知りかたし　芳賀氏宅跡　は村のうち山の麓にあり里老のつたへにむかし芳
賀太郎芳賀二郎といふ人帷子の諸村を領してこゝに住しよしいへり其頃土田村に曾我一斗齋と
いふ人ありしが帷子の集水を乞ひ得て土田村に曳て田に沃しとぞ芳賀氏の子孫今に村うちにあ
りて其時の謝牒を持傳へたり

菅刈村

は善師野の北にありて帷子郷のうち也　尾州御領　五百四十五石二斗四升
一合　名古屋まて七里あり　一尾嶺　は帷子七郷とも草木を芟る山頭の老松を了味松と呼
ぶむかし好事の頭陀ありて其名を了味といふよく山上に松を栽う里民其名を慕ひてかく呼へり
麻　むかし此郷多く麻をうゑ衫子布を織りて朝廷に獻りしゆへに帷子郷と名つけしよし里
民いひ傳へたり今は麻をうゑす布も織事なし　白髭大明神社　は村うちにあり中切の祠官
玉木氏守る　藥師堂　は行基菩薩の作の像を安置し凡僧守りて供ス香火一寺號なし

名荷村（メウガ）

は菅刈の西にありて帷子庄なり　尾張御領　二百九十五石八斗三升　名古
屋まて七里あり　神明社　愛宕社　ともに村うちにありて社人は玉木氏なり

石原村

は名荷の北にありて帷子庄なり名古屋より木曾路の往還筋善師野宿と土田宿との間な
る里にて常に旅人往來す　尾張御領　百七十八石五升九合　名古屋まて七里あり打越

村は石原のうちなり　愛宕山　は村の南にあり高からねど獨立して秀でたれば風景よしむか
し彼神社ありし故かく名づけしとそ今は祉なし　擬石嶺　は村の西木曾路往還の坂をいふ是
尾張と美濃との堺なり　截通岩　は村の東土田村の堺にあり里人のつたへにむかし修驗者此
岩を燒て截開て道を開しよしいへり今木曾路の往還なり　狸洞嶺　は村の南にあり絶頂の松
は菅刈村の里民薙髮して了味といひしが山の上に松を植る事を好む是れもそれが植しよしいへ
り　小野渠　はきり通し岩の下を流る菅刈のあたりの山より出北に流れて木曾川に入る土田
村の民田に漑く用水とす　天王社　稲荷社　ともに村内にあり玉木氏つかさどる　眞禪
寺　は普傳山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺也寺傳に行基菩薩此寺を開基し自ら觀世音の像
を刻みて安置ありしか年を經て衰廢に及びしを文和年中鈍庵和尚再建し不傳山眞禪寺と名つく
鈍菴は其のち上郷の正願寺にうつりしよしいへりあるひは森武藏守寺院を修營すともいふ慶長
年中大悲閣やけたりし其のち又再建し觀世音をもて本尊とし普傳山と改む境内に　大師洞
觀音洞　むかし觀音堂ありしか燒失のゝち其名のみのこる　岩鏡洞　山の上に巨岩あり　等の勝蹟あり寺產は天正十一年六
月廿二日森武藏守長可　八貫二百文　を寄附し其證文今に所持すのち沒收して今　十石
九斗一升　を寺領とす　塔頭一宇瑞松菴　といふ尾張の犬山の德授寺は當寺の屬院なり
しか今は離末し列院となる

墟　村　は中切の東北にありて帷子七ヶ村の內なり　御旗本領　四百七十八石六升
凡帷子七鄕のうち六ヶ村尾張の御領只此一村のみ他領なり　武藏淵　可兒川にあり　賤の
小手卷　に御嶽にて人の語りけるは可兒川を夜中に大明松を灶し水中を來る事ありほのをも
なくともす人も見えす是は墟村の武藏淵より出る化物也と云傳ふ云云　と見えたり
長洞村　は古瀬の東にあり　御旗本領　四百二十五石九斗九升三合
室原村　は長洞の東にあり　同　三百二十一石四斗四合
墟河村　は室原の東にあり　御料　八百二十六石一斗八升
矢戸村　は長洞の北東にありて姬庄といふ同庄五ヶ村あり　尾張御領　御旗本領とも
四百五十九石四斗一升六合　うち御領は百十石八斗三升六合　名古屋ましも八貝あり
橫市村　は矢戸の枝鄕　同領　三十三石五斗六升三合　の地なり
今　村　は墟河の東にありて姬庄なり　御料　三百七十五石二斗八升七合
大藪村　は今村の東にありて姬庄なり　同　六百五十二石四斗七升二合
大針村　は大藪の南東にありて姬庄なり　同　二百二十七石八升九合
下切村　は大藪の北にあり古名を姬村といふ則姬庄五ヶ村の本鄕なり　同　千二十四石
八斗六升八合　下切村　八幡社　村內にあり別當神留寺は眞言宗なり　雲龍寺　は祝

龍山と號し臨濟宗にて京都妙心寺末　寺領一石七斗四升六合あり　大岳寺は清見
山と號し臨濟宗同村雲龍寺の末寺　寺領一石五斗六升三合　西福寺　正光院とも
に村内にあり臨濟宗同村雲龍寺末　岡田氏宅址　尾張の春日井郡大永寺村大永寺所藏の
岡田氏系圖の伊勢守善同（從五位下將監はじめ勝五郎）條に永祿六年辛己六月九日家康公殁ニ舊領一新賜ニ食邑
五千石於濃州可兒郡羽栗郡一於レ是移ニ居姫郷一（在可兒郡）後令ニ善同爲ニ濃州之郡監一云云とみへたり
谷挾間村（ヤハザマ）は下切の西にありて姫庄といふ　尾張御領　百十五石一斗八升四合　名古屋
まで八里あり　大神社は村内にあり
坂戸村　は谷挾間の北にあり　御料　三百七十石七斗六升九合
土田村（ドダ）は可兒川を隔てゝ帷子の驛村の北にありて大井庄といふ大井は　和名類聚抄　に
可兒郡大井としるしてふるき郷名也是名古屋より木曾路を通ふ宿驛にて尾張の善師野宿より二
里叉東の方中山道の伏見宿まで二里馬繼なり　金山記　の天正十年信長公武田家征罸の條に
二月十二日中將殿岐阜御出馬土田御泊十三日神箆十四日岩村御着陣ありとしるせり　尾張御
領　千四百九十一石二升六合　名古屋まで八里あり枝郷四所ありて　大脇　渡町
下切　井鼻　といふ渡町は今渡村（今金屋村といふ）と地つゞきて廣く中山道筋也わたりと呼べるは
和名類聚抄　にのせたる可兒郡曰理（ワタリ）の舊郷なるべし　天神山　は中切村の堺にあり峯より東

は當村の地うち也可兒川は村の南にあり可兒合は木曾川に落合ふあたり急灘にてめづらしき風
景なり　疾走岩（トバシリ）は可兒川のうちにあり川向ふ塊村の方と相對して巨石たがひにかさなりつ
らね各大數丈形麥飯の塊のごとく黑色なり流水其石に激してほとばしる故かく名づく奇景なり
川上驛村の地に深淵ありて　藍染潭　と名づく其深はかりがたし　刎橋　は村西の往還に
架す長十六間可兒川水流深く奔騰し兩岸に巖石立重なり橋杭を設くる事あたはず故に南岸より
大木を刎ね出して橋とす奇觀なり　城山　は村の地うちにあり　櫻井　は渡町の北海道の東
にあり木曾川の岸に櫻樹ありて其ほとりより淸泉湧出るをしかなづく（里人の説にちれはうきちらねはうこにかげ見えて名しれもしろ）
（きさくらゐの池といふ古歌あるよしいへど定かならず）　夫木抄　にさくらゐこゆる日和泉式部　こゝくれはたゝち也けりさく
ら井と名のみぞ高き所なりける　又新六帖に正三位知家　花ちりて春は暮にし櫻井の名にたに
あらでむすふ頃哉　とあるを爰の歌といへるもとり難し　木曾川舟渡りは太田驛の渡しなり
濃陽志畧　に按承久記曰承久三年五月後鳥羽上皇擧レ兵欲レ討ニ關東一武臣平義時命レ將西征上
勅分レ兵防禦時官軍張ニ陣于尾張河九渡口ニ大炊渡其一也六月東軍裨將武田五郎率ニ兵五萬一至ニ大
炊渡ニ一戰破レ之官軍西走後世不レ知ニ其地一好事者云ニ井與ニ大炊一音便相近是羽栗郡三井也今撿ニ
其地ニ三井在ニ鵜沼南ニ武田五郎經ニ東山道一到レ此則恐非ニ其地一也土田古屬ニ大井莊一大炊大井音訓
相同其指ニ此渡一者決矣若謂ニ之三井一附會之尤也　と記せり　名產松蕈　は城山に產す上品に

て多く生れども官税に充る故設りに採る事を禁す　白髭大明神社　ハ宿うちにあり一村の
惣社とす永祿年中生駒道嵒生駒甚助兄弟の建立なり例祭ハ五月五日流鏑馬を出す社人伊佐氏
天神社　神明社　ともに大脇にあり　八幡社　ハ渡町にあり　居森社　ハ下切にあり
天王社　ハ井鼻にあり　富春寺　ハ櫻渡山といひて臨濟宗石原村眞禪寺の末寺なり　報
恩寺　ハ宿うちの西にあり萬峯山と號し曹洞宗尾張の御器所村龍興寺の末寺なり境内の觀音
堂に行基菩薩彫刻の十一面の像を安置す　生駒氏城址　ハ城山にあり天正のころ生駒道嵒
同甚助などすみしか今ハ御林となり雑人木を伐る事をゆるされず俗に土田の城山といふ里人は生駒三吉の城山ともいへり

金屋村　ハ土田の東にあり古名を今渡といふ　天正十年森武藏守の軍勢加茂郡米田城主肥田玄
蕃を攻むとて七月二日金山を打立けるが中井戸の渡り群集して渡かたかりけれハ玉木三藏後藤
平左衛門等金山の町裏へ下り立やにはに川を渡しさきがけのはたらきせしより　其所を今渡り
と名付たるよし　金山記　に見えたり東山道のあひの宿にて休茶屋あり　御料　二百
四十六石一斗六升六合　長谷川彦右衛門ハ金屋の住人にて武勇すくれたりしよし金山記に見ゆたり

野市場村　ハ金屋の南にありて是ももとハ今渡といひしよし郷帳にいへり　同　二百七十二
石九斗四升四合

川合村　ハ金屋の東にありて惠戸庄といふ　尾張御領　百六十八石八斗　名古屋まで
十里あり　木曾川村の北に流れ飛驒川落合ふ川向ひ加茂郡上古井の枝村川合もこゝの村名もこ
れに依れり　船渡リ　ハ同所にあり加茂郡小山村古井村等に至る渡し舟なり　御林山
ハ松樹多く茂れり官禁ありて雑人伐事あたハす　天王社　ハ村うちにあり

徳野村　ハ野市場の南東にあり古名を下江渡（エド）村といひしよし下江渡七ヶ村の本郷なり　御料
百九十石二斗一合　慶長の頃ハ平岡石見守の領知なりしとぞ平岡石見守重定ハはじめ秀
吉公の近臣なりしか政所の御連枝故金吾中納言秀秋卿を取立大名になし給ふ時彼卿に附屬を命
せられ長臣となる然るに卿闇將にて不行跡なりしかハ老臣稻葉八右衛門正成堀田勘左衛門正利
等數人諫みはてゝ立退きけり平岡一人智勇を以諫言して有りしかハ卿小早川の養子として筑前
を領せられし時平岡に三万石を給ふ秀秋卿大閤の御勘氣を蒙り筑前を召上られし時も平岡心肝
を碎き東照宮に申上けて其つみを輕んせらる石田か亂にも平岡秀秋を諫めて東照宮へ荷擔し奉
りけれハ秀秋卿滅亡の後平岡ハ被召出美濃の徳野にて一万石被下御家人となる重定老衰して無
程病死せしかハ子息定當に家督を給ひて石見守と稱す其のち定當亂心して不行跡惡行ありしか
ハ領知召あけらるされども其父重定の忠節を以定當の子息市十郎頼重に新知二千石被下御旗本
に忠勤す頼重老後まて實子なかりしかハ有馬右衛門佐入道の三男伊織を養子とす頼重死後延寳

元己年十二月十二日家督しのち平岡和泉守と稱するよし　古今武家盛衰記　に見えたり
兼山村の條と合せ見るへし　禪大寺　村内にあり

澤渡村　は徳野の東南にありて下江渡七村のうち也　御料　二百十六石六斗四升七合

船岡村　は澤渡の東にありて下江渡のうち也　同　三百四石五斗七升二合

上屋敷村　は船岡の東にありて下江渡のうち也　同　百五十五石九斗五升五合

沓井村　は野市場の東にありて下江渡のうち也　同　百九十一石六升五合

古市場村　は沓井の東北にありて下江渡のうちなり　同　二百九石八斗三升四合

宮瀬村　は古市場の東にありて下江渡七ヶ村のうちなり　同　百四十四石八斗九升八合

前波村　は宮瀬の東南にありむかしは上江渡村といひよし上江渡四ヶ村の本郷なり　同　二百七十八石六斗六合　長谷川五郎右衛門は　金山記　に上惠戸主長谷川五郎右衛門森家に敵對しければ武藏守憤り各務勘ヶ由等の勇士をつかはし上惠戸を攻けるに五郎右衛門討負腹搔切て失せけるよししるせり

上野村　は前波の東にありて上江渡のうち也　同　八十四石六斗四合

本郷村　は宮瀬の東にありて上江渡のうち也是可兒郡の本郷にて　和名類聚抄　にのせたる可

兒郡可兒はこゝなるべし　御料　二百三石四斗六合

新村　は本郷の北にありて上江渡四ヶ村のうちなり　同　二百二十九石七斗一升八合
木曾川は村の北にあり岸に屛風岩綱掛岩などいふ大岩あり　四軒宮　は村の西にあり

伏見村　は本郷村新村の東南にありて中井戸驛といふ東山道の宿驛にて西の方太田宿より二里東の方御嶽宿まで一里の馬繼なり　老の木曾越　に信濃路過て美濃國に出れは山の端にけていと廣やかに覺ぬ此國のふし見よむへくはあらねと名に便りて玄旨法印　同し名の伏見の里の艸枕夢に都をたつこゝちして　と見え　打出濱記　に御嶽をいづれは伏見といふ里なり烏丸光榮卿　とはゝやなこゝもふし見の里といへは都にちかき名さへなつかし　としるせり　尾張御領　六百五十六石五斗三升　村高帳には六百二十九石六斗五升八合とす　名古屋まで十里あり枝村を野崎といふ　白山權現社　二所　驛中にあり　同社　一所　枝村野崎にあり　神明社　は村うちにあり　洞興寺　は河北山と號し臨濟宗姫の下切村雲龍寺の末寺なり　淨學寺　は淨土眞宗京都東本願寺の直末寺也兼山道村の西にあり錦織村の方へゆく道也　松屋の松　淺井惟寅の　釜戸浴湯日記　に伏見は殊に家數も少しこゝに松屋の松といふあり案内せさせて立寄りぬ前栽に高一丈計りの松の枝左右にわかれて十間余もやあらむ棚をかきたるやう也

末長き桑を松の若みどり耕耘此わたりの農人鋤一ツに柄二ツつけて二農夫むかひ合て田をすく貝原の岐蘇路記又淺井圖南の釜戸浴湯日記に見えたり

比衣村 ハ伏見の東にありて中井戸庄なり 尾張御領 四百六十九石一斗 名古屋まで十一里あり 山王嶺 ハ村の地うちにあり 山王社 ハ村民まつれり村名比叡と同し當社比叡山の鎮守神を勧請せしよりしか呼ひそめしなるべし 龍顯寺 ハ陽雲山といひて臨濟宗派の下切村雲龍寺の末寺なり

兼山村 ハ伏見の北東にありて中井戸庄といふもとは金山とかきしを明暦年中今の文字に改む東西へ長く十五町ばかりつらなりたる町屋にて繁華の里なり前後に高山と大河ありて風景もおもしろし 尾張御領 四百二十二石一斗八升 村高帳にハ百四十九石九斗三升八合とす 名古屋まで十里余あり 烏峯 ハ町の南うしろにあり松杉生ひ茂る官禁ありて設に伐る事なし 木曾川 町の北にあり此あたり流れはげしく殊に深き所を蛇竈と名づく 中井 ハ町の後にありむかし清泉湧出しが今ハ廢れて名のみ殘り中井戸の庄號もこれによれりといふ當村をむかしハ中井戸村といひしを齋藤大納言金山村と改めしよし 金山記 にいへり 尾關泉 ハ町のにしにありきハめて清冷なり 生澤 餘澤とも云 ハ村の西新村の堺にあり 毒澤 ハ村の東伊岐津志の堺にありともに名づけしゆゑよし知られず 高倉野 ハ村の南にありて今新

田となる俗に高倉宮の居給ひし故名つけしよしいへと定かならす 茶 ハ當村にて作る上品なり 瓦 ハ百年あまり以前よりやき出す 貴船大明神社 ハ村の西にあり一村の生土神とす例祭八月二十八日走馬あり清立寺の抱宮なり 神明社 天神社 ともに神照寺掌る 諏訪明神社 ハ高倉野にあり 大通寺 ハ補陀山といひて臨濟宗細目村大仙寺の末寺なり永正年中僧伯如開基して大雅和尚をもて開山とす門前の 戸立觀音堂 ハ當國三十三觀音の三十番にて本尊ハ如意輪脇立ハ毘沙門勝軍地藏なり上古觀音岩中に入り給ひしといひ傳へたり 濃陽志畧 に自然岩石以爲ニ本尊一其堂三間四面倚レ岩成レ構甚爲ニ奇窟一里老云觀音嘗現ニ女子形一人戯翫レ之觀音躍レ岩隱去其岩如レ闔レ戸然故名ニ戸立觀音一と見えたり 久昌寺 ハ臨濟宗にて醫王山と號す境内に 藥師堂 あり 可成寺 ハ大龍山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なりはじめ當國の住人森越後守泰可一寺を創建し天正年中當所にて卒す其子三左衞門可成信長公に從ひしばしば戰功をあらはし元龜元年九月十九日近江の宇佐山の城にて戰死す其妻室彼一寺に造營を加へ英山和尚をもて開山とし越後守の法名大龍を山號三左衞門の實名可成を寺號とせしよし寺傳にいへり當寺に森氏代々の石塔また位牌あり可成の牌名前讚岐大守心月淨翁大禪定門 長可の牌名前武州大守鐵團秀公 忠政の牌名本源院先翁不進 と見えたり其餘猶多し寺寶武藏守長可の着用ありし鎧脛巾二具あり 金山記全集大成 に天和三

癸亥年鎮閣秀公正當二百年閏五月癸巳日森伯耆守長武君遠東都より當村に來臨大龍山可成寺に於て秀公の神主祭奠拜禮あり此時當邑の古老に命して齋藤家の來由森家の舊記など聽し集め見せしむべしと也こゝにおいて靈峯先生早卒に一篇を綴り金山事蹟考と題して是を呈上すとしるせり　淸立寺　は貴船山と號し眞言宗紀伊國高野山成就院の末寺なり　淨音寺　は海潮山不斷光院と號し淨土宗京都智恩院の末寺なり天文の頃齋藤大納言正義創建す當寺に正義二十五歲の壽像の畫幅あり其貌拔レ髮被レ甲儼麗なり贊は中村思溪寺の僧明叔が作にて古雅なる事いふばかりなく提二三尺劒一而四百年安レ漢者沛公也と書出しより序文長く終に天文己亥八月如意日遠阜野釋明叔叟慶濬としるせり遠阜とは明叔其時岩村の遠廂山大圓寺の住僧たりし故なり齋藤大納言といふ人は織田眞紀等に見えたれど其傳詳ならず濃陽志畧に里民云正義者近衛關白植家公之庶子初爲レ僧在二叡山一自嗜レ武還俗來二于濃州一依二齋藤道三一冒二其姓一曰二齋藤一天文六年築二烏峯城一居レ此天文十七年戊申二月二十五日爲二土岐悪五郎一見レ殺享年三十四歲此邊里民有二姓加木屋一是正義庶子正義死後匿二尾州加木屋一自稱二加木屋氏一其子孫來二住此地一云としるせりこれは金山事蹟考金山記後集金山記全集大成等にかけるむねと同し加木屋は智多郡の地名なり　塔頭千手院觀音堂　一宇あり　常照寺　は淨土眞宗京都東本願寺の直末寺也森武藏守長可の母妙迎尼（尼ハ林氏の女慶長九年八月二日卒）の建立のよしいひ傳へ當寺に尼の

壽像を持傳へたりはじめ森武藏守の母勝壽院妙向尼其母妙願尼の菩提の爲に天正十六年一院を建立して妙願寺と名つくのち森家信濃の川中島に移りし時妙願寺も彼地に移し後又美作の津山に移封ありしかは寺も又うつれり扨同し年林長兵衛其父林新右衛門常照の爲に高山村に一寺を建て常照寺と名つけ二寺ともに僧慈久を越前より請して開山とす是常照もと越前の國人なりし故也彼妙願寺川中島へうつりしのち慈久か願にて常照寺をこゝにうつし妙願寺を建直し高山より寺號寶物等取寄せしよし金山記にいへり林長兵衛常吉は森武藏守の母方の伯父なり

西念寺　は淨土眞宗京都東本願寺の直末寺也　專養寺　は福光山といひて日蓮宗京都妙顯寺の末寺なり天正十一年僧日美の建立當郡德野の領主平岡石見守檀越たり石見守の石塔寺內にありて法名を前石州高善院心月宗心（慶長十三年戊申二月二十日卒）といひ其子石見守の法名を前石州隆光院一覺日詮といふ　森立寺　は妙法山といひて日蓮宗甲斐の身延山久遠寺の末寺也　神照寺　は龜福山と號し修驗道大和國內山永久寺の同行なり　古城跡　は烏峯にあり山の西を前門とし山の東を後門とすこれを杉洞といふ隍壘のあと今にのこれり其地溪谷多く土俗九十九谷といふ天文六年齋藤大納言正義始て城を築きすみしが同十七年正義殺害に遭ひしのち中絶したりしを信長公當國を伐り取り給ひしかは當城を森三左衛門源可成に賜ひて在城し名を金山と改む可成は八幡太郎義家九代裔孫森左衛門尉泰家が後胤なり泰家美濃國に住し土岐賴重の女を

妻とす土岐伯耆守頼員に從ひ暦應年中戰功あり其子又太郎泰朝土岐の郡下にて美濃國三百貫文の地を領す其子左衛門尉泰廣（はじめ又太郎號菜竹五百貫文の地を領す）土岐頼篤に仕へ應永三十四年卒其子兵庫助定泰（はじめ又太郎）土岐長壽丸頼秋土岐十郎頼秀等に歷仕し嘉吉の頃戰功あり其子左衛門尉泰成（號可仙）土岐上総介頼尙に仕へ永正五年卒其子兵庫助成淸（はじめ又太郎）土岐頼尙同頼典に歷仕す其子越後守成泰（はじめ又太郎）土岐頼明同定明に仕ふ其子左衛門尉泰政（始又太郎）土岐兵部少輔定明に仕へ天文年中土岐頼藝沒落の時定明戰死し泰政浪牢す其子越後守泰可（美濃國蓮臺に住し天正年中兼山にて卒八十余歲）ハ可成の父なるよし森家系譜に見えたり可成ハ信長公に仕へ永祿のはじめ尾張の岩倉浮野楯挟間等の合戰をはじめ所々の軍に戰功多く元龜元年公近江の淺井朝倉を攻られし時可成弟對馬守可政と共に志賀宇佐山の兩城を守り九月十九日淺井長政と戰て討死す可成の子武藏守長可（はじめ勝藏）當城に在りて信長公に仕へ所〳〵の軍に功名を顯ハし公弑逆に遭ハれしのち秀吉公に從ひ天正十二年四月九日尾張の長久手にて戰死す豐鑑に森武藏守といふハ池田勝入が聟也けり東美濃三郡を知て金山と云所にあり云云としるせり又武野燭談に森武藏守本知ハ美濃國兼山の城七万石を領す信長の頃信州川中島をあたふ間もなく一揆起り野も山も皆敵となる武藏守人質五十人を前に立て本知に歸る前代未聞の働き也其道筋猿ヶ馬塲峠といふ所まで來り最早追懸る事も有まじとて人質を悉く並へて自ら手討にせられしとぞと見えたり長可の弟蘭丸長次又其弟坊丸力丸ハともに天正十年六月京都本能寺に信長公に從て戰死す力丸の弟右近太夫忠政ハ秀吉公に仕へのち御當家に奉仕し慶長八年美作の津山の城を賜ハり十八万石を領す其子孫今に諸侯に列し播磨の赤穗の城主是なり其のち廢城となり尾張の犬山の城の天守ハ此烏峯の重閣をうつししよしいひ傳へたり土岐系圖に左兵衛尉光定六男伯耆守頼員（常國寺護法號定林寺殿石存孝）厚見郡高田に在城し又金山にありし故金山頼員と稱しけるよししるせり齋藤大納言よりはるか以前にこゝに住し人なり家中竹馬記また土岐家聞書に土岐家ハ淸和源氏の家嫡なれば等持院殿の御時御一家の次諸家の頭たるべき由土岐伯耆入道殿（頼貞法名存孝號定林寺殿）に被二仰定一土岐たえば足たゆべしと御契約ありけるよししるせり細書の頼貞とあるハ頼員の誤字にて此人の事なり

伊岐津志村　ハ兼山の東にありて中井戸莊なり端口中切下切石畑サル田等の小名あり　尾張御領　七百八十六石一斗八升　名古屋まで十一里あり　**茶楮**　ともに圃につくれり

錢甕岩　ハ村西の山の側にありて其形甕の如し　**南宮社**　村の南の山にあり　**白山社**　**八幡社**　**天道社**　**神明社**　**稻荷社**　**大明神社**　ともに村の地うちにあり

見性寺　ハ桂林山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺也慶長年中地頭千村氏創建して久昌寺と名づけしをのち今の寺號とす　**明鏡寺**　ハ靈光山と號し臨濟宗細目村大仙寺の末寺なり境内に　**觀音堂**　一宇あり

錦織村　は伊岐津志の東にありて中井戸庄といふ　尾張御領　二百七十五石八升三合　名古屋まで十二里あり　役所　は村の東にありて木曾川の流材をつかさどり　奉行又下役　等を置かる貝原篤信が　木曾路之記　の木曾山の　材木の事をいへる條に此流るゝ木ども木曾を過て美濃の内太田の四里川上に錦織と云所にいたる此所につねに大づなをはりてひとつも下へながさずせきとゞむ爰にて筏につくり桑名熱田へくだす熱田の内西の方に白鳥といふ船のつく所にくだす其地にて商人買とり諸國へうりつかはす奉行二人常に錦織に居て此事をつかさどる錦織は町なし云云としるしたるがごとし　御林　は奉行役所の南にあり雌松多く生ひ茂れり　木曾河　は　濃陽志畧　に上出自信州木曾谷下流經尾濃之界赴海最爲洪流此地也兩岸石壁水流甚狹架藤縄留止流材其上流渦漩處曰石間雖輕舟不可上從此之下爲留材之所兩岸面々皆嶄岩奇狀萬態其石盤黑如鷺鳥非卷相雜生其間河流一曲盤渦最深名草落其西岸石壁削成如摺名曰屛風岩其南石間自然成磴下通水底曰龍宮階其下流屈曲水若挼藍曰圓潭其西岸一岩直立甚奇曰天狗岩其東岸有一岩形若馬鞍名曰鞍岩其下流西岸有大小二岩形若戴帽曰烏帽岩水中有一岩曰駒場岩土俗云駒場太郎戰死之場也殊不可曉其間横架藤縄其長百丈餘隨水浮沈人可踏而行東岸下數條藤縄以繫注最壯觀之地也と見えたり　南宮社　は村の南の山にあり　八幡社　は役所の東北

にあり　若宮社　村の西にあり　神明社　川神社　天神社　石神社　熊野社　ともに村内所々にあり　稲荷社　只古木數株あるをいへり　ともに村民まつれり　福壽寺　は法性山と號し臨濟宗蜂屋村瑞林寺の末寺也夢窓國師の開基といへど年月詳かならず天文年中剛嶽和尙中興す

小和澤村　は錦織の東にありて小泉庄といふ上郷十六ヶ村のうち也　尾張御領　五十六石六斗九升五合　名古屋まで十二里半あり　紙　は半紙　また　雑帋　をすく上郷十六ヶ村ともしかり　南宮社　は村うちにあり

綱木村　は小和澤の東にありて小泉庄といひ上郷と稱す　同　六十六石二斗二升三合　名古屋まで十二里半あり　神明社　は村うちにあり

谷村　は小和澤の南にあり上郷のうちにて小泉莊といふ　同　百一石二斗四升　名古屋より十二里余あり　八幡社　は村うちにあり

樋ヶ洞村　は谷村の東にあり上郷のうちにて小泉庄也　同　二十六石三斗二升三合　名古屋まで十二里半あり

西洞村　は樋ヶ洞の東南にあり上郷十六村のうちにて小泉庄といふ　尾張御領　四十三石五斗三升四合　名古屋より十二里半あり　西洞坂　は　濃陽志畧　に在西洞即木

曾路歴ニ此坂下崖側有ニ古槻樹一其根拖ニ石里民耳聾者製ニ錐十ニ本ヲ掛ニ樹下ニ祈レ之有レ驗俗名ニ耳
[illegible]神ト是所謂鮑君神草鞋大王之類也和漢風土時或有レ之耳なとみゑるせり 白山社 は村内にあり
小原村 は西洞の東にあり上郷のうち小泉庄也 同 百二十八石三斗三升一合 名
古屋まで十二里半あり本曾路通りにて旅人の往來たゆる事なし 白山社 は村内にあり
遠藤氏宅城址 は村うちにあり遠藤但馬守慶隆郡上郡神路の木越に在りしが秀吉公の命にそ
谷 むきて天正十五年郡上の城地を沒收せられ小原村にうつり其あたり 七千五百石 を領知
せしよし 濃州古蹟考 に見へたり
諭坂村(ウタフサカ) は小原の東に並ひ東山道筋にありて小泉庄といふ上郷十六ヶ村のうち也 同 百十
[illegible]石三斗六升四合 名古屋まで十二里半あり十本木茶店は木曾路通りの休茶屋なり數
十株の松樹立たる故か名づくといふ 呑清水 はおなじ道のかたはらにあり清泉湧出
小[illegible]石牌を立たれども名つけしゆゑよしをしれず守山從四位侍從源頼寛輯 歴朝詩纂後編 に一呑清
水 源勝當(弾正大弼) 山樹陰深掩一泉岸邊芳草綠如烟瀟瀟澗獨堪啾不レ識何人高枕眠 勝當字承明
號金嶺尾藩宗勝公子とおりを 七御前址 は古樹茂り古五輪塔ありいかなる古跡とも今は知
りがたし 神明社 は村うちにあり
林垣外村(ハヤシガイ) は綱木の南にありて上郷のうちにて小泉庄といふ 尾張御領 二百十四石四斗一

升二合 名古屋まで十二里余あり 神明社 は村の地うちにあり
大久後村(オホクゴ) は綱本の東にあり上郷のうち小泉庄也 同 五十石六斗二升 名古屋より十
二里半あり 八幡社 は村うちにあり
前澤村 は大久後の南東にあり上郷のうち小泉庄なり 同 百二十二石一斗一升四合
名古屋より十三里あり 山王社 は村内にあり
津橋村(ツバセ) は諭坂の東に並ひ木曾路筋にありて小泉庄上郷といふ 同 二百五十三石一斗
名古屋まで十二里半あり 室嶺 は村の西にあり東山道の往還この嶺を過ぐ名古屋藩主御
東行の御時はこゝに憩はせ給ふ御通例とぞ 津橋溪 はこゝの山より出美座野村に至りて
可兒川に落合ふ 熊野社 は村内にあり 津橋村而見ニ孝女喜與ニ此女孝行達於我官府以聞ニ
於公ニ去冬十二月(文政三年)賜ニ錢二万ニ褒ニ賞之ニ其行狀始末錄ニ於司農府ニ焉且附ニ干明倫堂ニ今見レ之面
色不レ睨若能妝ニ飾之ニ可レ謂ニ美人ニ也而蓬髮垢面土ニ木其形ニ以務ニ井竈之事ニ以養ニ老父ニ其所レ賜
之錢緡則掛ニ之店上ニ以敬ニ重之ニ喜與及其父俱見レ予語曰及レ被ニ賞賜ニ不レ勝ニ感泣ニ焉耳乃賦 家
田虎 庸恩信ニ佛神ニ未レ解レ事ニ双親ニ各耻ニ斯女ニ否借問往來人と 甍錦行 に見へたり
次月村(シヅキ) は津橋の南にあり上郷のうち小泉庄といふ 尾張御領 五十一石六斗三升三
合 名古屋まで十二里半あり 鬼窟(オニアナ) は 濃陽志略 に在ニ次月村山中ニ可兒川上流 大石層

々各聚十丈堆㆓積山間㆒飛泉伏㆓流其下㆒聲若㆑鳴㆑玉石鏘(カチ)有㆑穴可㆓纔㆑蓋下㆑之其内自然成㆑窟里老云昔者關邑治工其性狰獰凶命匿㆓此窟㆒化爲㆑鬼俗呼㆓關太郎㆒常啖㆑人後爲㆓御嶽人㆒見㆑殺風土之說不㆑足㆓深信㆒也其窟側有㆓大石㆒平如㆓砧板㆒名㆓鬼砧(チニノマナイタ)㆒有㆓二長石㆒直立名㆓鬼箸(チニノハシ)㆒其山西崖有㆓大石㆒其下成㆑窟名㆓鬼下窟㆒有㆓二大石㆒並峙名㆓雙岩㆒皆奇觀可㆑賞　と見えたり　嚼米岩(コメカミ)　は山の上にありて其かたち人の頤のごとく白水流注き遠方より見れは　泔(コメカシシル)　を下すに異ならずよりて名つくといふ　可兒川は鬼窟の下を流れ西に流れ土田村にて木曾川に落合ふ　妙見社　は村のうちにあり

美座野村　は次月の西にありて上郷のうち小泉庄といふ　同　二百二石四斗八升　名古屋まて十二里あり　神明社　は古きやしろにて應仁二年戊子明應五年丙寅禰宜藤原右衛門五郎等か棟札あり今社人なく修験吉祥院つかさとる　神明社　大明神社　はともに村内にあり

宿村　は美座野の西にあり小泉庄上郷といふむかしの宿驛にて　和名聚抄　に可兒郡驛家とされるし東大寺所藏の天平勝寶二年四月廿四日美濃國司解文に婢椋賣（年十五）右可兒郡驛家郷戸主守部麻呂之賤　と見えたるはこゝなるへし　尾張御領　二百二十四石七斗五升二合　名古屋まて十二里あり

中切村　は宿村の西北にありて小泉庄上郷といふ　同　四百九十七石六斗三升六合　名古屋より十二里あり　天王社　は延文四年六月の創建にて大勧進妙勝小勧進妙阿等の棟札あり　攝社彌五郎の祠　は永祿六年の創建にて小栗藤右衛門敎久等が棟札ありと里老いへりむかし　寶泉寺　ありて其鎭守の社なりしが其寺廢絶し神社ばかり殘りしを百年あまり以前一庵をむすひ　天王菴　と名づけ眞言の律僧を住持とし尾張の愛智郡八事村興正寺の末寺として此社を守らしむ例祭六月十五日車樂二輛を出し中切村と宿村と二所より裝(カザ)りて修行すまた送木村の民每年來りて神鉾を裝るむかし送木御所といふ人ありて神鉾を奉納せしといひ傳へ今に到るまで此祭事にあづかれり

井尻村　は西洞の西東山道にありて小泉庄といふ上郷十六ケ村のうちこゝを本郷とす　尾張御領　四百四十石五斗六升二合　名古屋より十二里あり　圓山　は村の西木曾路のかたはらにあり殊に高からねど樹木茂りたり此山に老狐すみて孫八狐といふ岩鼻の牝狐(メキツネ)と夫婦なるよし里老いへり　和泉式部墓　は送木村のさかひにあり式部をこゝに葬りしよし里老いひ傳ふ元文五年七年忌にあたりしよしにて好事のもの石碑を建たり（石碑の銘に寛仁三己未天いつみ式部歿所ひとりさへ渡ればしつむうきはしにあとなる人はしはしとゝまれとよめるせり）　されども式部の美濃に來りし事も古書に見えずこゝに葬りし事もたゞしきつたへなし其上式部は大江雅致の女にて上東門院に官仕し寛仁三年の頃は存生せしよし

榮華物語 等に見えたれば年紀もたがひ且石碑にゑるゑし歌のさまもあやしむべくかた〳〵俗傳のあやまりなるべし 浮橋址 も其近き可兒川のほとりにあり和泉式部の歌によりて名つけしよしいへど是又定かならず 八幡社 神明社 ともに村うちにあり右小和澤より此井尻までの十六村をむかしより上郷と稱して一村とす其惣高 二千四百十一石三升 みな尾張の御領なり 正願寺 ハ龍洞山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり長和三年鈍庵和尚石原村より來りて創建せしよし寺傳にいへり 岩仙寺 ハ長松山といひて臨濟宗久々利村東禪寺の末寺なり 觀藏院 ハ修驗道大和の内山永久寺の同行なり 吉祥院 ハ修驗道衆山村神照寺の同行也以上上ノ郷村の寺院なり

送木村

ハ可兒川を隔てゝ井尻の南にありて小泉庄といふ 尾張御領 二百五石三斗 名古屋まで十二里あり 天神社 ハ村うちにあり 御所ノ宅跡 ハ村の中にありいかなる人の住てかく名づけしか今知りがたし

御嶽村

ハ井尻の西にあり小泉庄といふ東山道の宿驛にて家並うるはしく西の方伏見宿より一里東の方細久手宿まで三里あり 尾張御領 千二十二石三斗七升五合 濃陽志畧に千七十石四斗四升とあるハ枝村平柴を合せたる高なり 名古屋まで十一里あり 柏森 長岡 末國 平柴 ハ御嶽の枝村なり平柴は別に出す 權現山 ハ村の辰己の方可兒川のむかひにあり藏王權現を祀れる故ゑか名

つく 岩鼻山 ハ村東の路傍にあり此山に古き牝狐ありて姫鶴といふ井尻圓山の老狐と夫婦にて甚靈異あり百年あまり以前にまつりて稻荷とし一祠をたつ 藏王權現社 ハ權現山にあり松檜生ひ茂り神さびたる社なり一村の惣社と稱し大光院掌る大和國芳野より勸請して鎭座す村を御嶽と呼べるも此社によれり例祭二月十日御嶽祭とも稱す願興寺の寺領 百石 のうち三十石 ハ此祭禮料に用ゆるよしいへり 若宮八幡社 天王社 愛宕社 白山權現社 天神社 天道社 ともに村民まつれり 願興寺 は大寺山と號し天台宗尾張の春日井郡野田村密藏院の末寺なり俗に可兒の大寺とも御嵩藥師ともいふあるひは眞乘院ともいふよしもゝくきねにゑるせり弘仁六年傳敎大師開基して自ら藥師琉璃光佛の像を彫刻安置して本尊とす其のち行智といふ尼僧京都より來り此地にすみ居けるが長德三年二月七日寺の西南なる大池より一寸八分の藥師の小像あまたの盤にのりて浮み出たり行智尼も鄕人もあやしみとりあげ彼行基の作の古佛の腹中に藏め新に佛閣を修し同四年十二月七日造營終りぬ正曆四年一條院の皇女此地に來り薙髮して行智尼と申しが此行基の藥師如來を尊信し生身の尊容を拜せむと祈られしかば彼地より藥師の小像數千の盤に圍繞せられて涌出し行智尼に告て此地に有緣の衆生を化益せむとありしかば國司の廳に訴へ天聽に達しまかして造營せしよしいへり 今に到り十二月七日を佛まうでの日として貴賤羣集するハ此故也長保元年二月土俗はじめて祭事をなす是を植木祭といふ天仁元年伽藍燒失せしを正治元年纐纈源五盛康力を盡して造營し堂宇半ハもとに復じけるが其のち又頽廢に及びければハ貞治年中土岐大膳太夫賴康堂閣を再建し自ら大般若經を寫して寄附す元